

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 ⅩⅢ

平成30年3月

茨 城 県
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第431集

しま な くま やま
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

平成30年3月

茨 城 県
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県による鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴って実施した、鳥名熊の山遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

当遺跡は茨城県から委託を受け、平成7年度から平成28年度にわたって断続的に発掘調査を実施し、その成果については、既に『茨城県教育財団文化財調査報告第120集』以下18冊を順次刊行しています。

今回の調査によって、古墳時代から平安時代にかけての建物跡が確認でき、遺跡北西部の集落の様相が明らかになりました。

本書が、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者である茨城県に厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成30年3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 野口 通

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成25年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市島名字中台1,333番地ほかに所在する島名熊の山遺跡14区の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成25年8月7日～10月31日
平成26年1月1日～3月31日
整理 平成27年9月1日～平成28年2月29日
平成29年4月1日～4月30日
- 3 発掘調査は、調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 酒井雄一
首席調査員 奥沢哲也
調査員 盛野浩一 平成25年8月7日～10月31日、平成26年2月1日～3月31日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、平成27年度が整理課長後藤一成、平成29年度が整理課長皆川修のもと、以下の者が担当した。
平成27年度
首席調査員兼班長 奥沢哲也
平成29年度
次席調査員 大武宣隆
- 5 本書の執筆分担任は、下記のとおりである。
奥沢哲也 第1章～第3章第4節
大武宣隆 校正

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = + 7,320 \text{ m}$ 、 $Y = + 20,200 \text{ m}$ の交点を基準点 (A1a1) とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」のように呼称した。

- 2 抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を()を付けて併記した。
3 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 HG - 遺物包含層 P - ピット SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SE - 井戸跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器 TP - 拓本記録土器

土層 K - 攪乱

- 4 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・朱・施釉		火床面								
	竈部材・粘土範囲・黒色処理		柱あたり								
●	土器	○	土製品	□	石器	△	金属製品	■	骨片	----	硬化面

- 5 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 6 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm、cm、gで示した。なお、現存値は()を、推定値は[]を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 7 竪穴建物跡の「主軸」は、竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N - 10° - E)。

- 8 今回の報告分で、整理作業の段階で遺構名を変更したものと及び欠番にしたものは以下の通りである。

変更 SE222 → SE248 SE223 → SE249

欠番 SK7414・7509・7522・7523

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
鳥名熊の山遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	6
第1節 位置と地形	6
第2節 歴史的環境	6
第3章 調査の成果	12
第1節 調査の概要	12
第2節 基本層序	12
第3節 遺構と遺物	13
1 古墳時代の遺構と遺物	13
(1) 竪穴建物跡	13
(2) 掘立柱建物跡	39
2 奈良時代の遺構と遺物	41
竪穴建物跡	41
3 平安時代の遺構と遺物	45
(1) 竪穴建物跡	45
(2) 井戸跡	72
(3) 土 坑	74
(4) 遺物包含層	80
4 室町時代の遺構と遺物	84
火葬施設	84
5 江戸時代の遺構と遺物	84
溝 跡	84
6 その他の遺構と遺物	87
(1) 土 坑	87
(2) 溝 跡	99
(3) 遺構外出土遺物	99
第4節 まとめ	101

写真図版 PL 1 ~ PL22

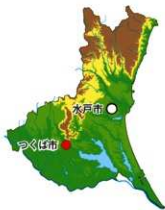
抄 録

付 図

しまなくま やま 島名熊の山遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

島名熊の山遺跡は、つくば市の南西部、^{やだがわ}谷田川右岸の標高約13～24mの台地上から低地にかけて立地しています。遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、調査を平成7年度から平成28年度にわたり断続的に行っています。今回報告する区域は、平成25年度に調査を行った面積4,457㎡で、当遺跡北部の標高19～22mの台地上の平坦部から斜面部にあたります。



調査の内容

今回の調査では、古墳時代後期の竪穴建物跡11棟、掘立柱建物跡1棟、奈良時代の竪穴建物跡2棟、平安時代の竪穴建物跡10棟、井戸跡2基、土坑12基、遺物包含層1か所などを確認しました。集落が遺跡の北部で、谷に沿った斜面部まで広がっていたことがわかりました。



平成25年度島名熊の山遺跡調査区全景（西から）



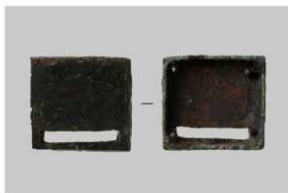
古墳時代の竪穴建物跡から土器が出土した様子



平安時代の竪穴建物跡



「城内丕」と記された墨書土器



出土した腰帯具（巡方）

調査の成果

古墳時代後期の竪穴建物跡では、^{かまど}竈の周辺から多量の土器が出土しました。壁際には、^{かめ}甕の上に^{こしき}甎を載せたままの状態^{かまど}で土器が出土し、当時の人々の生活の様子がありありと伝わってきました。また、当地方では当時はまだ貴重であった^{すえき}須恵器も出土し、様々な交流があったことが考えられます。

また、平安時代の竪穴建物跡からは、「城内丕」や「石」などの文字が墨で記された土器が出土しました。さらに、当時の有力者が身につけていたとされる^{ようたいぐ}腰帯具の^{じゆんぽう}巡方が出土しました。これらのことから、集落の北部にも、有力者が存在していたことが分かってきました。

今回の調査では、遺跡の北部の様相が明らかになってきました。このような成果の一つ一つが、熊の山遺跡の全体像につながっていくものとなります。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに、鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成6年9月19日から27日に現地踏査を、平成6年9月22日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成7年3月8日、茨城県教育委員会教育長は茨城県知事あてに、事業地内に鳥名熊の山遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成7年3月14日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第57条の3（現第94条）に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成7年3月16日茨城県知事あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

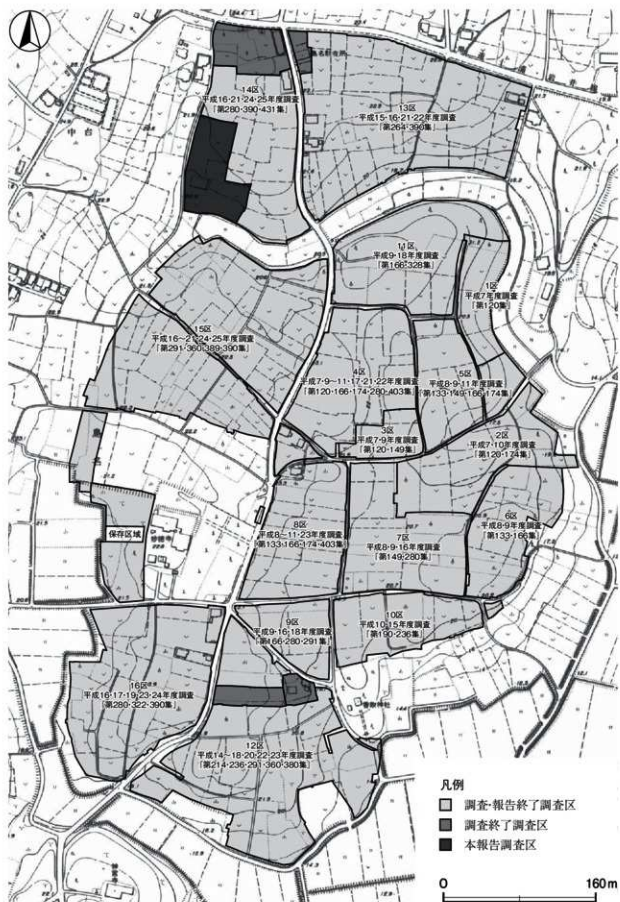
平成25年2月5日、茨城県知事（茨城県企画部つくば・ひたちなか整備局つくば地域振興課長）は茨城県教育委員会教育長あてに、鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成25年2月19日、茨城県教育委員会教育長は茨城県知事あてに、鳥名熊の山遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成25年8月7日から10月31日、平成26年1月1日から3月31日まで発掘調査を実施した。

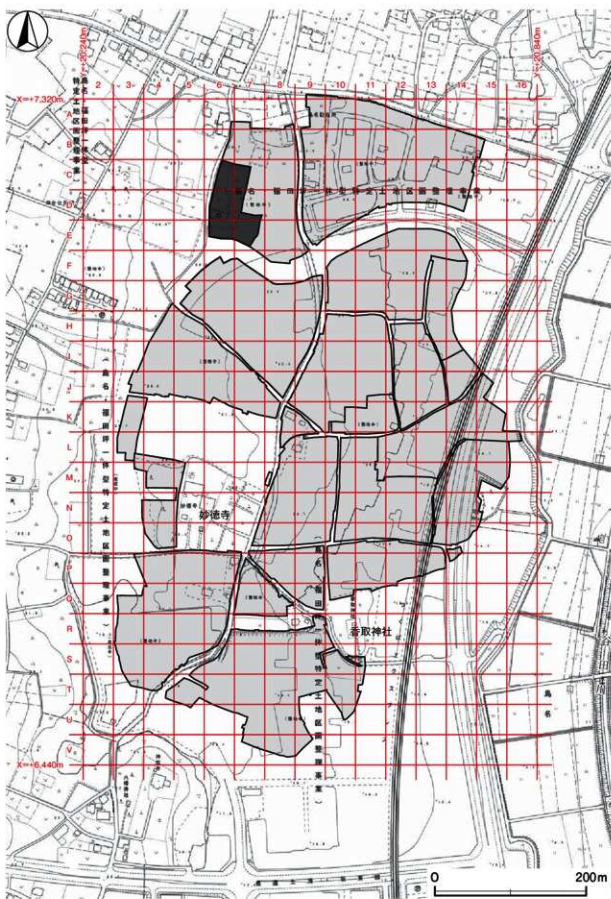
第2節 調査経過

鳥名熊の山遺跡14区の調査は、平成25年8月7日から10月31日までの3か月間、平成26年1月1日から3月31日までの3か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	平成25年度					
		8月	9月	10月	1月	2月	3月
調査準備 遺構確認 土壌除去		■			■		
遺構調査		■	■	■	■	■	
遺物洗浄 写真整理		■	■	■	■	■	
撤収							■



第1図 鳥名熊の山遺跡調査区割図（つくば市研究学園都市計画図 25,000分の1から作成）



第2図 鳥名熊の山遺跡グリッド設定図 (つくば市研究学園都市計画図 2,500分の1から作成)

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

鳥名熊の山遺跡14区は、茨城県つくば市鳥名字中台1.333番地ほかに所在している。

つくば市は筑波山を北端に、その南東へ延びる標高20～25m程の平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦へ流入する桜川、西は利根川に合流する小貝川によって区切られている。両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、谷田川、西谷田川などの中小河川が北から南に向かって流れているため、台地は複雑に開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

筑波・稲敷台地は、貝化石を含む海成層の成田層を基盤として、さらにその上に黄褐色砂や黄褐色荒砂の砂礫層である竜ヶ崎層、さらに灰白色の粘土層である常総粘土層、そして表土下を厚く覆う褐色の関東ローム層が堆積し、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

つくば市南西部の鳥名地区は、谷田川と西谷田川によって開析された、狭長な台地上の中央部に位置している。当遺跡は谷田川に面した標高13～24mの台地縁部に立地し、遺跡の範囲は南北880m、東西560mである。当遺跡を囲むように周辺には谷津が入り込み、台地基部から独立した島状を呈している。これまでの調査から、台地上に複数の埋没谷が入り込む様子が明らかとなっており、起伏に富んだ地形であったことがうかがえる。

今回報告する14区は、周囲を谷津に囲まれた標高19～22mほどの緩斜面部に位置している。調査前の現況は、畑地及び宅地である。

第2節 歴史的環境

鳥名熊の山遺跡周辺の小貝川、西谷田川、谷田川、蓮沼川流域の台地には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは、主に谷田川と西谷田川流域での遺跡について概観する。

旧石器時代は、平北田遺跡²⁾(37)、下河原崎谷中台遺跡³⁾(75)、元宮本前山遺跡⁴⁾(77)で石器集中地点が確認され、ナイフ形石器や角錐状石器、搔器、尖頭器をはじめ、石核や剥片などが出土している。また、鳥名前野東遺跡⁵⁾(7)、鳥名一町田遺跡⁶⁾(9)、鳥名境松遺跡¹⁰⁾、鳥名ツバタ遺跡⁷⁾(16)でナイフ形石器や尖頭器、サイドスクレイパー、面野井北ノ前遺跡⁸⁾(25)で荒屋型彫器、当遺跡⁹⁾でナイフ形石器や尖頭器、細石刃石核などが採集されており、当地域における石器製作と狩猟生活の様子を示す資料が蓄積されている。

縄文時代は、元宮本前山遺跡で早期の炉穴、下河原崎谷中台遺跡で早期の炉穴や中期から晩期にかけての建物跡、鳥名ツバタ遺跡で早期と中期の建物跡やフラスコ状土坑、鳥名境松遺跡で中・後期の建物跡や土器焼成遺構、土坑などがそれぞれ確認されている。これらの遺跡は河川を望む台地の縁部に立地し、特に早期の集落が西谷田川左岸で成立する様子がうかがえる。当遺跡においても埋没穴5基のほか、16区で早期前半の燃糸文、11区で早期後半の条痕文系の土器片が出土している³⁰⁾。そのほか、各調査区で前期から後期にかけての土器片や石鏃、石斧、磨石、石皿などが採集されており、当時の人々の生活の痕跡をうかがうことができる。

弥生時代の遺跡は当地域では少なく、当遺跡南部の埋没谷周辺から後期後半の土器片が採集されているだけである。出土した土器片には初痕が認められ、当地域の稲作を考える上で興味深い¹¹⁾。

古墳時代前期になると、谷田川沿いに小規模な集落が点在するようになる。鳥名一町田遺跡では、南関東系の土器を伴う初期の集落が出現し、当遺跡や鳥名前野遺跡¹²〈6〉では集落跡、鳥名前野東遺跡では集落に付随した形で方形周溝墓3基が確認されている。また、面野井古墳群¹³〈28〉では、方形周溝墓4基と円墳1基が確認され、周溝からは南関東系の装飾壺、及び底部穿孔壺の土師器が出土しており、谷田川上流域に南関東系の文化を持った集団が移住してきたことが明らかとなっている。特に第2号方形周溝墓からは、方台部に木棺直葬の埋葬施設が確認され、副葬品として石製の勾玉と管玉、ガラス製の玉類が出土し、県内でも貴重な調査事例である。

中期になると、集落が西谷田川沿いにも広がりを見せ、前述した遺跡に加えて鳥名ツバタ遺跡や谷田部漆遺跡¹⁴〈56〉、上登丸古屋敷遺跡¹⁵〈57〉、真瀬三度山遺跡¹⁶〈58〉などで集落跡が確認されている。特に、元宮本前山遺跡では滑石製模造品の製作跡が確認され、下河原崎谷中台遺跡では県内初の琴柱形石製品が出土しており、注目できる。これらの集落は、台地縁辺部や低湿地へ向かう緩斜面部に適度な距離をおいて営まれており、その立地や経営には台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強く考えられる。

後期になると、6世紀後半以降、台地全体に集落域が拡大していく様子が確認できる。当遺跡周辺では鳥名八幡前遺跡¹⁷〈3〉、鳥名前野遺跡、鳥名前野東遺跡、平北田遺跡などの集落が継続して営まれており、当遺跡の集落は、近接するこれらの遺跡と補完し合う形をとりながら、古墳時代の終わりまで存続したものと考えられる。また、当該期は古墳が急増し、当遺跡南東部の台地先端部で径約19mと約8mの円墳2基が確認されている。当遺跡周辺では鳥名前野古墳¹⁸〈8〉、鳥名榎内古墳群¹⁹〈13〉、鳥名榎内西古墳群²⁰〈14〉、鳥名関ノ台古墳群²¹〈18〉、面野井古墳群、下河原崎高山古墳群²²〈74〉などがあり、いずれも径10～20mの小円墳からなる地域的な群集の在り方を示している。中でも、当遺跡北側に隣接する鳥名関ノ台古墳群は、全長約40mの前方後円墳と円墳27基が存在したと言われ、被葬者は鳥名地区の盟主的存在であった可能性が高い。

奈良時代になると、鳥名地区は急速に集落の再編が進むようになる。その背景には、律令国家の成立と国郡制の整備が考えられ、当地区は河内郡鳥名郷に編入される。当遺跡や鳥名八幡前遺跡は、大型建物跡とそれに付随する掘立柱建物跡が集落の中心で、いずれも真北を主軸とした配置をとるようになる。さらに、当遺跡の中央部にL字状に掘立柱建物群が配置され、郷関連の官衙施設の可能性も指摘されている。一方、7世紀に一旦集落が途絶えていた鳥名前野遺跡や鳥名前野東遺跡では、8世紀中頃に再び集落が形成される。それは、空閑地となっていた当地が、律令体制の進展と共に再開発の適地となったためと考えられる。しかし、これらの遺跡以外に鳥名地区では集落が認められなくなり、当遺跡周辺だけに集落が集中する現象が認められる。

平安時代になると遺跡数はさらに減少し、集落として明確に捉えられるのは当遺跡と鳥名八幡前遺跡だけとなる。両遺跡は、鍛冶生産や紡績などの手工業関連の遺構・遺物が確認でき、9世紀への集落の継続性を考えたとき、極めて示唆的である。また、大規模な集落を残し、8世紀以来の集落が消滅していく状況は、律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成と考えることもできる。また、当遺跡の南東部の斜面では湧水点に木枠を設置した水場が構築されており、その周辺からは多量の土器や木製品が出土している。特に「鶴名」と記された黒書土器や人名が記された木簡が目目できる。この水場において、当集落の人々による祭祀行為の可能性が想定されている¹⁰。

9世紀の集落再編も10世紀を迎えると新たな展開を示し、鳥名八幡前遺跡も集落としての終焉を迎えることになる。一方、当遺跡ではそれ以降も集落が存続し、11世紀まで継続的に営まれている。その後の集落の様相は、不明瞭であるが、墓坑や井戸跡から平安時代末期と考えられる和鏡や小銅片が出土しており、遺物の面から有力者の存在をうかがうことができる。

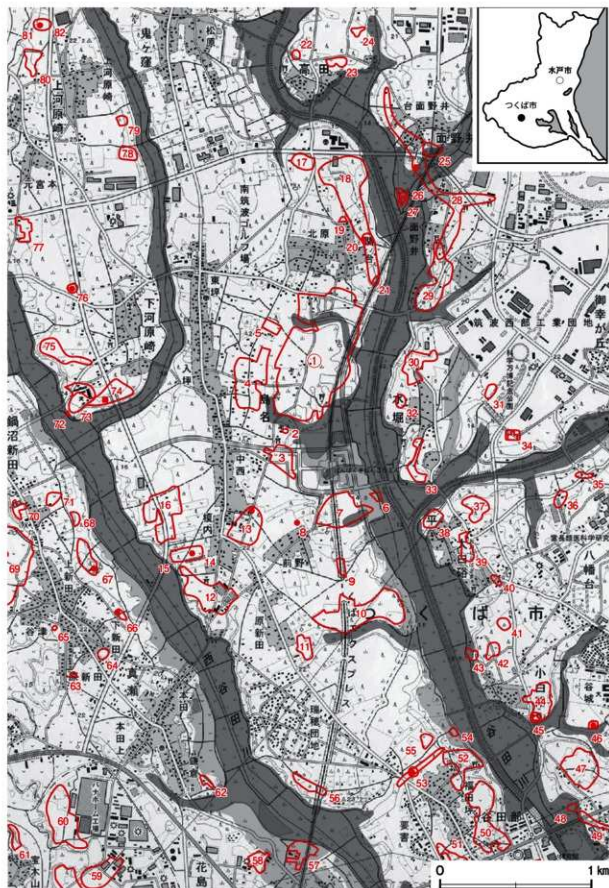
平安時代末期には、鳥名地区周辺は八条院領として立荘された田中荘に組み込まれ、鎌倉時代以降に田中荘は小田氏の支配下となる。当該期の周辺の遺跡は、平出氏の居城と伝えられる面野井城跡〔27〕や鳥名前野東遺跡がある。鳥名前野東遺跡では、方一町に巡る堀に囲まれた方形居館が確認され、この在地有力者が鳥名地区一帯を治めていたものと思われる。永仁五年（1297）には、当遺跡の中央部西寄りに妙徳寺が開山し、当遺跡では梵鐘の乳や鰐口などの鋳型片が出土した鋳造土坑が確認されている。また、15世紀後半から17世紀前半にかけての幕城が確認され、妙徳寺との関連をうかがうことができる。妙徳寺周辺では幅5m、深さが2mの薬研堀が確認され、寺域周辺は防衛施設としての機能も果たしていたことが明らかとなってきた¹⁷⁾。

※ 本章は、既刊の「鳥名熊の山遺跡」を参照し、加筆した。文中の〈 〉内の番号は、第3図及び表1の当該番号と同じである。

註

- 1) 日本の地質「関東地方」編集委員会「日本の地質3 関東地方」共立出版 1986年10月
- 2) 舟橋理「平北田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第336集 2011年3月
- 3) a 高野裕隆「下河原崎谷中台遺跡・鳥名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第282集 2007年3月
b 齋藤真弥「下河原崎谷中台遺跡・下河原崎高山古墳群 上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4」『茨城県教育財団文化財調査報告』第292集 2008年3月
- 4) 高野裕隆「元宮本前山遺跡 上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第265集 2006年3月
- 5) a 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「鳥名前野東遺跡・鳥名城松遺跡・谷田部津遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
b 飯泉達司「鳥名前野東遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第215集 2004年3月
c 小松崎和治「鳥名城松遺跡・鳥名前野東遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅺ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第281集 2007年3月
- 6) 鹿島直樹「鳥名一町田遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第230集 2004年3月
- 7) a 佐野正「科学博関連道路谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 ツバタ遺跡・高山古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告』第22集 1983年3月
b 菅川修「鳥名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第203集 2003年3月
- 8) 鹿島直樹「鳥名岡・台南B遺跡・面野井北ノ前遺跡 常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第231集 2004年3月
- 9) 酒井雄一・渡邊浩美・齋藤貴史・清水哲「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅡ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第280集 2007年3月
- 10) 小澤重雄「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第328集 2010年3月
- 11) 福田義弘・飯泉達司「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第214集 2004年3月
- 12) 福田義弘「鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ 鳥名前野東遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- 13) 小林和彦「面野井古墳群 都市計画道路新都市中央通りバイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第391集 2014年3月

- 14) 白田正子「(仮称) 壹丸地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 三度山遺跡・古屋敷遺跡」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第132集 1988年3月
- 15) a 青木仁昌「鳥名八幡前遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第201集 2003年3月
b 菊池直哉「鳥名八幡前遺跡 都市計画道路鳥名上河原崎線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第283集 2007年3月
- 16) 清水哲「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第380集 2013年3月
- 17) 兼子博史・坂本勝彦・田中方里子・櫻井二郎「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅣ」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第390集 2014年3月



第3図 鳥名熊の山遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1「谷田部」）

表1 鳥名熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町
①	鳥名熊の山遺跡	○	○	○	○	○	○	42	小白窟民部山遺跡				○			
2	鳥名薬師遺跡				○			43	小白窟水表面遺跡				○			
3	鳥名八幡前遺跡				○	○	○	44	小白窟海道端遺跡					○	○	
4	鳥名本田遺跡				○	○	○	45	小白窟海道端塚群						○	○
5	鳥名中代遺跡				○			46	谷田部カロウド塚古墳				○			
6	鳥名前野遺跡		○		○	○	○	47	谷田部台成井遺跡		○					
7	鳥名前野東遺跡	○	○		○	○	○	48	谷田部下成井遺跡		○					○
8	鳥名前野古墳				○			49	谷田部台町古墳群				○			
9	鳥名一町田遺跡	○	○		○		○	50	谷田部福田前遺跡				○	○		
10	鳥名城松遺跡	○	○		○			51	谷田部漆出口遺跡		○				○	○
11	鳥名タカド口遺跡		○		○			52	谷田部福田遺跡		○		○			
12	鳥名榎内南遺跡	○			○	○		53	谷田部大堀遺跡						○	○
13	鳥名榎内古墳群				○			54	谷田部山合遺跡		○				○	○
14	鳥名榎内西古墳群				○			55	谷田部陣馬遺跡		○		○			
15	鳥名榎内遺跡				○			56	谷田部漆遺跡		○		○	○		
16	鳥名ツバタ遺跡	○	○		○	○	○	57	上笠丸古屋敷遺跡				○	○	○	○
17	鳥名関の台遺跡				○			58	真瀬三度山遺跡		○		○	○		○
18	鳥名関ノ台古墳群				○			59	二本松遺跡		○					
19	鳥名関ノ台塚						○	60	西山遺跡		○				○	○
20	鳥名関ノ台南A遺跡				○	○		61	苗代山遺跡		○					
21	鳥名関ノ台南B遺跡	○	○				○	62	真瀬戸崎遺跡				○	○	○	○
22	高田和田台遺跡				○			63	真瀬西原遺跡						○	○
23	高田遺跡				○		○	64	真瀬中畑遺跡		○		○			○
24	高田原山遺跡				○	○		65	真瀬新田谷津遺跡		○					
25	面野井北ノ前遺跡	○			○	○	○	66	真瀬新田古墳群							
26	面野井西ノ台塚						○	67	真瀬堀附南遺跡		○					
27	面野井城跡						○	68	真瀬堀附北遺跡				○			
28	面野井古墳群				○		○	69	真瀬山田遺跡		○		○	○		
29	面野井南遺跡				○	○	○	70	真瀬山田北遺跡		○		○			
30	水堀下道遺跡				○	○	○	71	鍋沼新田長峰遺跡		○		○			
31	水堀遺跡				○			72	下河原崎高山窟跡				○			
32	水堀屋敷添遺跡		○		○			73	下河原崎高山遺跡				○			
33	水堀道後前遺跡					○		74	下河原崎高山古墳群					○		
34	大和田氏屋敷跡						○	75	下河原崎谷中台遺跡		○	○		○		
35	柳橋仲畑遺跡				○		○	76	下河原崎古墳群				○			
36	柳橋遺跡				○		○	77	元宮本前山遺跡		○	○		○		
37	平北田遺跡	○	○		○	○	○	78	元中北東藤四郎遺跡					○		
38	平後遺跡						○	79	元中北鹿島明神古墳					○		
39	大白窟西ノ裏遺跡				○		○	80	上河原崎本田遺跡					○	○	○
40	大白窟桜下遺跡							81	上河原崎小山台古墳							
41	大白窟民部山遺跡				○			82	上河原崎八幡脇遺跡				○			

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

鳥名熊の山遺跡は、つくば市の南西部に位置し、谷田川右岸の標高13～24mの台地上に立地している。調査区は便宜上1～16区（第1図）に分けており、今回の報告分は、平成25年度に調査した14区4,457㎡についてである。

調査の結果、竪穴建物跡23棟（古墳時代11・奈良時代2・平安時代10）、掘立柱建物跡1棟（古墳時代）、井戸跡2基（平安時代）、土坑116基（平安時代12・時期不明104）、火葬施設1基（室町時代）、溝跡3条（江戸時代2・時期不明1）、遺物包含層1か所（平安時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に30箱出土している。主な遺物は、土師器（坏・高台付坏・高台付皿・碗・脚付鉢・高坏・甕・小形甕・甗）、須恵器（坏・高台付坏・壺・脚付長頸壺・甕・大甕・甗）、灰軸陶器（碗・長頸瓶）、土師質土器（鉢）、陶器（香炉・壺）、土製品（土玉・管状土錘・支脚・竜鈎・不明土製品）、石器（鎌・磨石・砥石）、剥片、金属製品（刀子・鎌・釘・巡方・煙管・鉛玉）などである。

第2節 基本層序

当調査区は、標高19～22mの台地上から台地斜面部にかけて立地している。14区南西部（D7i2区）に設定したテストピットで基本土層（第4図）の観察を行った。以下、観察結果から層序を説明する。

土層は9層に分層でき、第3～6層が関東ローム層である。

第1層は、黒褐色を呈する表土層である。粘性・締まりともに弱く、層厚は5～25cmである。

第2層は、暗褐色を呈する旧表土層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は7～35cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は17～35cmである。

第4層は、暗褐色を呈する第2黒色帯（BBⅡ）層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は13～28cmである。

第5層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は10～27cmである。

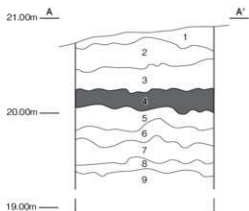
第6層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層で、粘性・締まりともに普通で、層厚は6～27cmである。

第7層は、にぶい黄褐色を呈する常総粘土層への漸移層である。粘性・締まりともに強く、層厚は15～30cmである。

第8層は、灰白色を呈する常総粘土層への漸移層である。粘性・締まりともに強く、層厚は7～18cmである。

第9層は、褐灰色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は25cmまで確認したが、下層は未掘のため本来の層厚は不明である。

なお、遺構は、第3層上面で確認した。



第4図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡11棟、掘立柱建物跡1棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第2434号竪穴建物跡（第5図）

調査年度 竈から東部にかけての大部分は平成16年度に調査し、当財団調査報告『第280集』において報告している。残る西部は平成25年度に調査した。柱穴の番号については、今回報告分と合わせて、既調査分を新しい番号に更新した。

位置 14区南西部のE7c9区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3181号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.65m、短軸4.58mの方形で、主軸方向はN-38°-Wである。壁は高さ5cmで、ほぼ直立している。今回の調査では、西部とP4を確認した。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。今回の調査では、壁溝を確認できなかった。

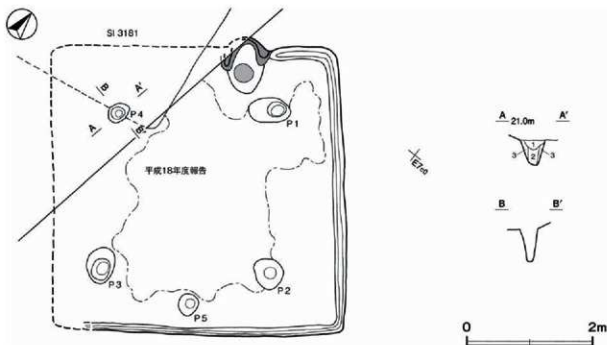
竈 北壁の東寄りに付設されている。『第280集』を参照されたい。

ピット 5か所。P4は深さ52cmで、規模と配置から主柱穴である。第1・2層は柱抜き取り後の堆積層で、第3層は埋土である。P1～P3、P5については、『第280集』を参照されたい。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック少量

所見 今回の調査では遺物は出土していないが、時期は、既調査状況から古墳時代後期と考えられる。



第5図 第2434号竪穴建物跡実測図

第 2441 号竪穴建物跡 (第 6・7 図)

調査年度 東部は平成 16 年度に調査し、当財団調査報告『第 280 集』において報告している。残る西部は平成 25 年度に調査した。柱穴の番号については、今回報告分と合わせて、既調査分を新しい番号に更新した。

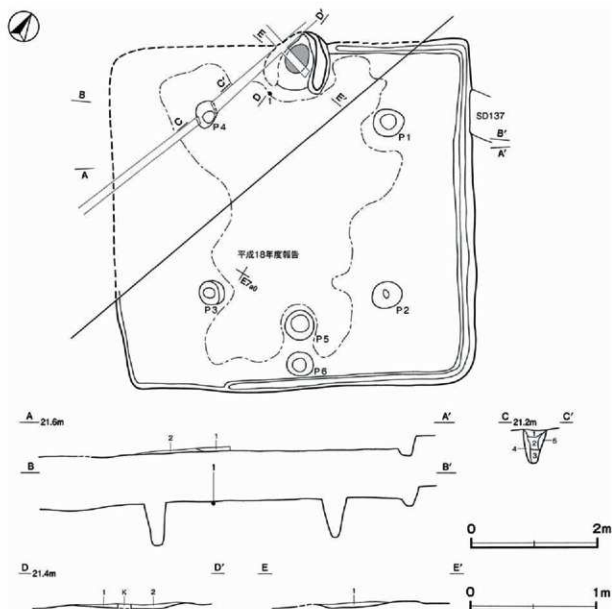
位置 14 区南西部の D 7 9 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 137 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.62 m、短軸 5.41 m の方形で、主軸方向は N - 33° - W である。壁は高さ 8 ~ 28 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈周辺から中央部にかけて踏み固められている。今回の調査部分では、壁溝は竈の東側でわずかに確認できたのみである。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 93 cm で、燃烧部幅は 54 cm である。袖部は削平のため明確ではないが、残存状況から地山を掘り残し、その上に粘土ブロックを積み上げて構築されていた



第 6 図 第 2441 号竪穴建物跡実測図

と推定できる。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめて構築され、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、煙道部から外傾している。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量 2 褐色 焼土粒子多量、炭化粒子微量

ピット 6か所。P4は深さ66cmで、規模と配置から主柱穴である。第1～3層は柱抜き取り後の堆積層で、第4・5層は埋土である。P1～P3、P5、P6については、『第280集』を参照されたい。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量 4 にふい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
2 褐色 ロームブロック多量 5 暗褐色 ローム粒子多量
3 褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量

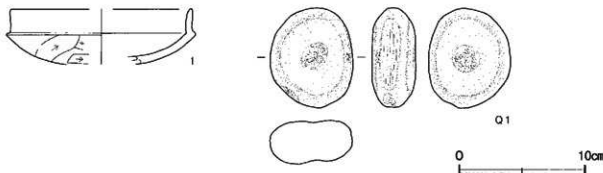
覆土 2層に分層できる。今回の調査では、覆土がわずかなため堆積状況の判断が困難であるが、既調査状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック中量 2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子少量

遺物出土状況 今回の調査では、土師器片8点(坏2、高台付坏1、甕5)、石器1点(磨石)のほか、須恵器片1点(甕)が出土している。1は竈周辺の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器と既調査状況から6世紀後葉に比定できる。



第7図 第2441号竈穴建物跡出土遺物実測図

第2441号竈穴建物跡出土遺物観察表(第7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	土師器	坏	[142]	(4.4)	-	長石・赤色粒子	にふい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面へつ刷り	覆土下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	磨石	7.9	6.6	3.5	261.4	安山岩	円み3か所 磨痕2か所	覆土中	PL21

第3170号竈穴建物跡(第8・9図 PL3)

調査年度 東部は平成16年度に調査し、当財団調査報告『第280集』において報告している。東部以外は平成25年度に調査した。柱穴の番号については、今回報告分と合わせて、既調査分を新しい番号に更新した。

位置 14区西部のD7d3区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 6.60 m、短軸 6.12 m の方形で、主軸方向は N - 20° - W である。壁は高さ 8 ~ 21cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、壁際までほぼ全面が踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 144cm で、燃焼部幅は 57cm である。全体を楕円形に床面から 14cm 掘りくぼめ、ロームブロックや粘土粒子を含む第 13 ~ 22 層を埋土して構築されている。袖部は、その上に粘土粒子や焼土ブロックを含んだ第 10 ~ 12 層を積み上げて構築されている。火床部は、床面を 10cm ほど掘りくぼめて構築され、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 50cm 掘り込まれ、煙道部から外傾している。

竈土層解説

1 灰黄褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子中量	13 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
2 灰黄褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子中量	14 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量
3 赤褐色	焼土ブロック多量	15 暗褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物中量、粘土粒子少量
4 黒褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック中量、炭化粒子少量	16 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量
5 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量	17 にい黄褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック中量、炭化物少量	18 黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子中量
7 にい黄褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化物中量	19 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子中量
8 暗褐色	粘土ブロック多量、炭化物中量、焼土ブロック少量	20 暗褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
9 にい黄褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物中量	21 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
10 にい黄褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化物少量	22 暗褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子中量
11 暗褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック中量、炭化物少量		
12 にい黄褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック中量、炭化粒子少量		

ピット 5 か所。P1 ~ P4 は深さ 40 ~ 88cm で、規模と配置から主柱穴である。P5 は深さ 42cm で、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。第 1 ~ 5 層は柱抜き取り後の堆積層で、第 6 層は埋土である。P2 については、『第 280 集』を参照された。

ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量	4 にい黄褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子多量	5 暗褐色	ロームブロック中量
3 灰黄褐色	ロームブロック中量	6 黒褐色	ロームブロック多量

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。長径 96cm、短径 82cm の楕円形で、深さは 40cm である。底面は平坦で、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化物中量		

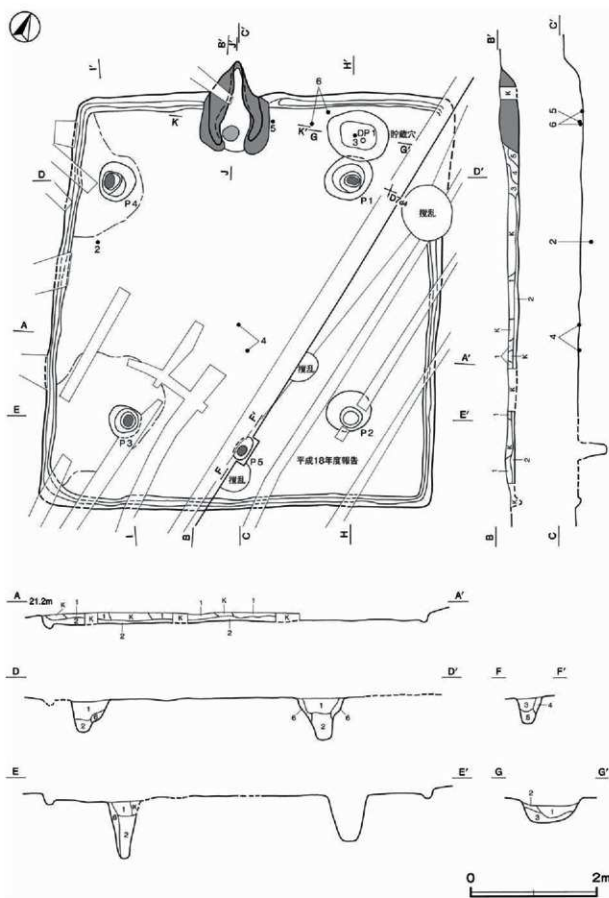
覆土 5 層に分層できる。多くの層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

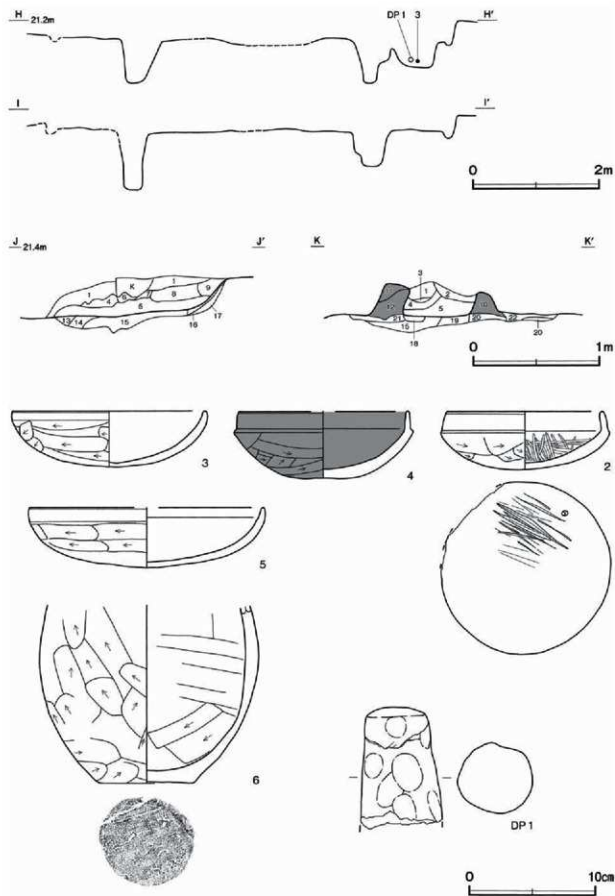
1 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	4 暗褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
2 にい黄褐色	ローム粒子少量	5 灰黄褐色	粘土ブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量
3 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量		

遺物出土状況 今回の調査では、土師器片 395 点（坏 49、高坏 3、甕 341、瓶 2）、手捏土器 1 点、土製品 2 点（支脚）のほか、縄文土器片 3 点（深鉢）、須恵器片 4 点（坏 1、甕 3）、土師質土器片 1 点（鍋）、陶器片 1 点（碗）、磁器片 1 点（猪口）、粘土塊 4 点、礫 1 点が、全体の覆土下層から床面にかけて出土している。埋め戻しの過程で廃棄されたと考えられる。3・DP1 は貯蔵穴の覆土下層から出土しており、廃絶時に遺棄されたものとみられる。2 は掘方の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器と既調査状況から 6 世紀後葉に比定できる。



第8图 第3170号竖穴建物跡実測图



第9図 第3170号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 3170 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 9 図)

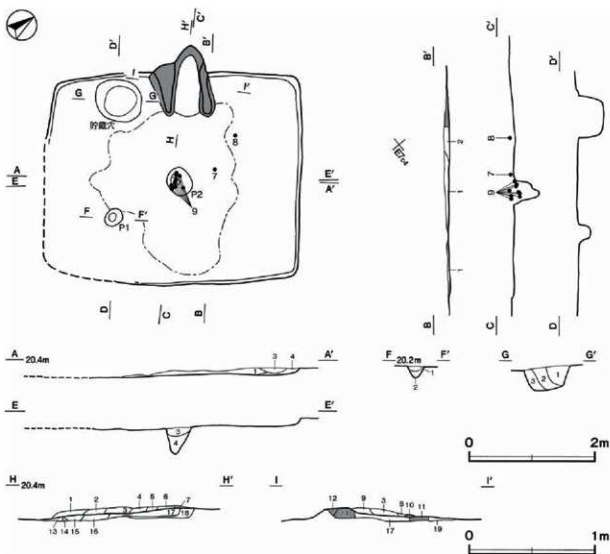
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	土師器	坏	123	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へう張り 内面へう張りき 底部底石に転用	縦方覆土中	80% PL.15
3	土師器	坏	152	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・内面横ナデ 体部外面へう張り 内面ナデ	貯蔵穴 覆土下層	90% PL.15
4	土師器	坏	[133]	5.4	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へう張り 内面ナデ	床面	50%
5	土師器	坏	[185]	4.8	-	長石・赤色粒子	浅黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へう張り 内面ナデ	床面	40%
6	土師器	甕	-	(14.1)	7.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面へう張り 内面へう張り後へうナデ	床面	40%

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	支脚	(9.7)	(6.5)	4.6	(3207)	長石・石英	にぶい黄褐色	ナデ 指頭旺盛	貯蔵穴 覆土下層	PL.22

第 3177 号竪穴建物跡 (第 10・11 図 PL 3)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の E 7c3 区、標高 20 m ほどの台地斜面部に位置している。



第 10 図 第 3177 号竪穴建物跡実測図

規模と形状 長軸4.06 m、短軸3.38 mの長方形で、主軸方向はN-51°-Wである。壁は高さ4～10cmで、外傾している。

床 平坦である。竈周辺から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。右袖は残存状態が不良で、明確ではない。規模は焚口部から煙道部まで114cmで、燃焼部幅は40cmである。全体を楕円形に床面から5cm掘りくまめ、ロームブロックや粘土粒子を含んだ第13～19層を埋土して構築されている。袖部は、その上に粘土粒子やローム粒子を含んだ第10～12層を積み上げて構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、明確な火床面は確認できない。煙道部は壁外に46cm掘り込まれ、煙道部から外傾している。

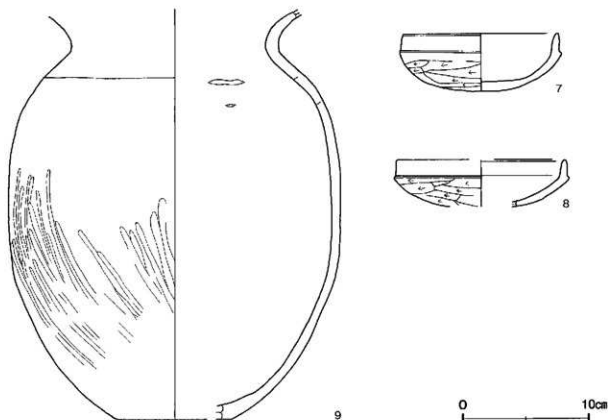
竈土層解説

- | | | | |
|-----------|------------------------------|-----------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量 | 11 におい黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 におい黄褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、粘土粒子少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子中量、ロームブロック少量 | 14 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 におい黄褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 15 暗褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物中量、ロームブロック少量 |
| 6 におい黄褐色 | 焼土粒子多量、粘土粒子中量 | 16 褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック少量 |
| 7 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 17 黒褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子中量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 18 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 9 黒褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量 | 19 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 10 におい黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

ピット 2か所。P1は深さ20cm、P2は深さ40cmで、ともに柱穴と考えられるが、詳細は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |



第11図 第3177号竈穴建物跡出土遺物実測図

貯蔵穴 北西コーナー部に付設されている。長径70cm、短径68cmの円形で、深さは40cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量、粘土粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 濃い黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | | |

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片60点(環26, 壺34)、自然遺物(種子)のほか、縄文土器片1点(深鉢)が出土している。

9はP2の覆土上層から横位で出土しており、廃絶時、柱抜き取り後に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と比定できる。

第3177号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
7	土師器	環	121	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面へう割り	覆土下層	50% PL15
8	土師器	環	[133]	[3.7]	-	長石・石英・赤色粒子	に、い、橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面へう割り	覆土下層	40%
9	土師器	壺	-	[32.5]	[90]	長石・石英・赤身・繊維	に、い、黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面へうナデ	体部外面へう割き	P2 覆土上層	80% PL19

第3179号竪穴建物跡 (第12・13図)

調査年度 平成25年度

位置 14区南西部のE7e5区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第3188号竪穴建物跡を掘り込み、第7411・7412・7466号土坑に掘り込まれている。

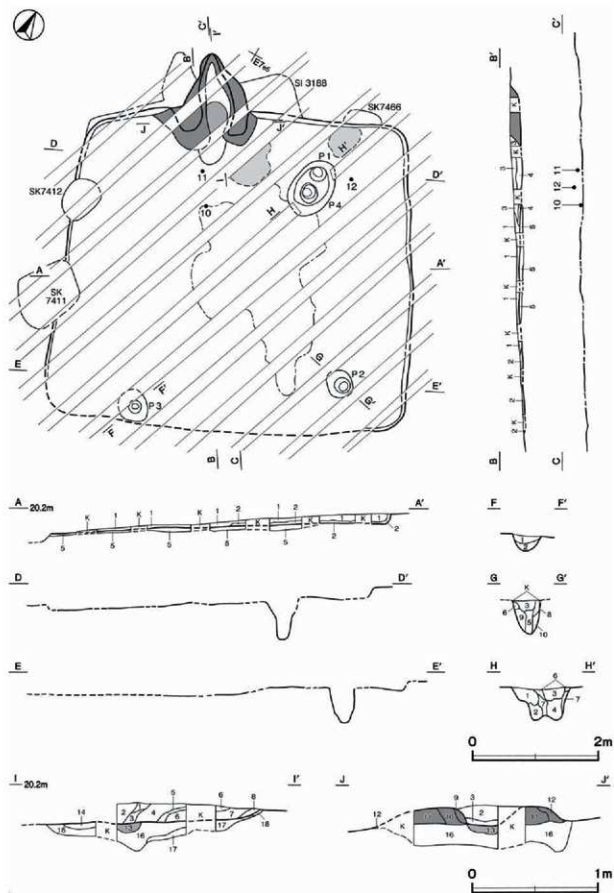
規模と形状 長軸5.75mで、短軸は5.12mしか確認できなかった。長方形で、主軸方向はN-30°-Wと推定される。壁は高さ3~18cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を平坦に掘り下げ、ロームブロックを含む第5層を埋土して構築されている。竈周辺及び北東部壁際から焼土が出土している。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで178cmで、燃焼部幅は39cmである。全体を楕円形に床面から25cm掘りくぼめ、ロームブロックを含んだ第13~18層を埋土して構築されている。袖部は、その上に粘土粒子や焼土ブロックを含んだ第9~12層を積み上げて構築されている。火床部は、第16層上面に構築され、第13層は火床面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に90cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

覆土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|----------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 11 濃い黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子微量 | | |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 13 赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 14 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化物・粘土粒子中量 | 15 黒褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物中量、ローム粒子少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 16 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量 |
| 8 濃い黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 17 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒子少量 |
| 9 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少量 | 18 暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、粘土粒子中量、ロームブロック少量 | | |



第 12 图 第 3179 号竖穴建物跡実测图

ピット 4か所。P1～P4は深さ26～65cmで、規模と配置から主柱穴である。第1～5層は柱抜き取り後の覆土、第6～10層は埋土である。土層及び配置から、P4からP1へ柱を立て替えたことが考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 7 褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量 | 10 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |

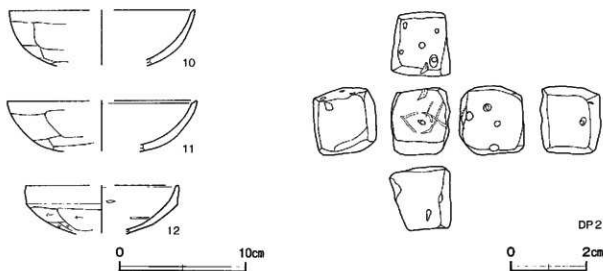
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。第5層は、貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子中量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子多量、ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 におい・褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片199点(坏53, 甕145, 瓶1), 土製品3点(支脚2, 不明土製品1)のほか、須恵器片2点(坏), 陶器片6点(碗), 磁器片1点(碗), 瓦片2点, 金属製品1点(鉛玉)が竈周辺の覆土上層から床面にかけて出土している。10～12は、それぞれ埋め戻しの過程で、廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第13図 第3179号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3179号竪穴建物跡出土遺物観察表(第13図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	土師器	坏	[146]	(4.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい・褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土下層	10%
11	土師器	坏	[150]	(4.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中層	10%
12	土師器	坏	[120]	(3.8)	-	長石・石英	におい・黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り内面ナデ	覆土上層	30%

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP2	不明土製品	1.8	1.6	1.7	5.7	長石・石英	におい・黄褐色	マイクロ紋 線彫 刺突痕	覆土中	P5.22

第 3181 号竪穴建物跡 (第 14 図)

調査年度 平成 25 年度

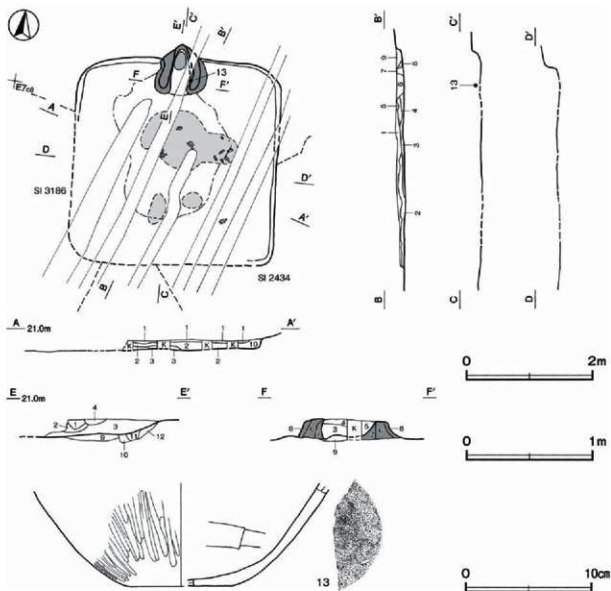
位置 14 区南西部の E 7 c8 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 2434 号竪穴建物跡を掘り込み、第 3186 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 南部が削平されているため、推定規模は、長軸 3.25 m、短軸 3.24 m である。平面形は方形で、主軸方向は N-5°-W と推定できる。壁は高さ 7~14 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈の焚口部から中央部にかけて踏み固められている。中央部から炭化材及び焼土が出土している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 82 cm で、燃焼部幅は 34 cm である。袖部は、粘土粒子を含んだ第 6~8 層を積み上げて構築されている。火床部は全体を楕円形に床面から 5 cm 掘りくぼめ、第 9~12 層を埋土して構築されている。火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 20 cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。



第 14 図 第 3181 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量	7 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子多量
2 褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	8 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子中量	9 黒褐色	炭化粒子多量、焼土ブロック中量
4 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量	10 褐色	ロームブロック多量
5 褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量	11 褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子中量
6 黄褐色	粘土ブロック多量、炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量	6 暗褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック多量、炭化物中量、焼土ブロック少量	7 におい黄褐色	粘土粒子多量
3 暗褐色	炭化物多量、ロームブロック中量	8 暗褐色	ローム粒子多量、炭化物少量
4 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土ブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化物中量
5 におい黄褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化物中量	10 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片60点(坏15, 甕45), 須恵器片4点(甕), 粘土塊1点が出土している。13は、竈内部の右袖脇から出土していることから、竈の廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器と重複関係から7世紀代と考えられる。

第3181号竈穴建物跡出土遺物観察表(第14図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の野蠻はか	出土位置	備考
13	土師器	甕	—	(8.2)	(8.2)	長石・石英・赤色粒子	におい黄褐色	普通	体部外面へラ磨き 内面へラナデ	竈覆土中層	5%

第3182号竈穴建物跡(第15図)

調査年度 平成25年度

位置 14区南西部のD7j6区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第589号溝に掘り込まれている。

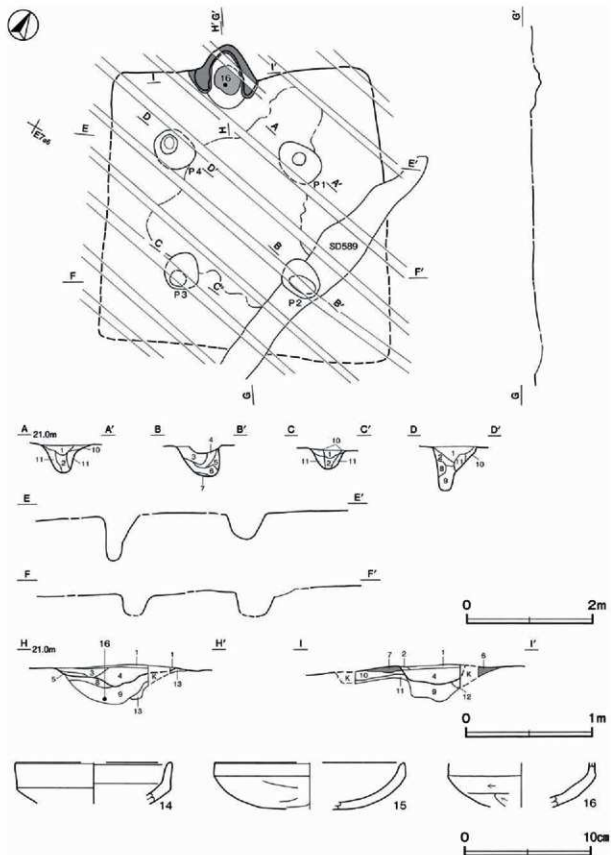
規模と形状 南部が削平を受けているため、推定される規模は、長軸4.62m、短軸4.18mである。確認した柱穴の位置から、長方形で、主軸方向はN-34°-Wと推定できる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで92cmで、燃焼部幅は48cmである。全体を楕円形に床面から30cm掘りくぼめ、第8～13層を埋土して構築されている。袖部は、その上に粘土粒子を含んだ第6・7層を積み上げて構築されている。火床面は、第8・9層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量	9 暗褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	炭化粒子・粘土粒子中量、焼土粒子少量	10 におい黄褐色	ロームブロック・粘土粒子中量、焼土ブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
4 褐色	焼土粒子中量、炭化粒子微量	12 暗褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック少量
6 におい黄褐色	粘土粒子多量、ロームブロック中量		
7 におい黄褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子中量		
8 暗褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量		



第15图 第3182号竖穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 4か所。P1～P4は深さ32～70cmで、規模と配置から主柱穴である。第1～9層は柱抜き取り後の堆積層で、第10・11層は埋土である。

ピット土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物少量	7	黒褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量	8	暗褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量	9	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量
4	暗褐色	ローム粒子多量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量
5	黒褐色	ロームブロック中量	11	黒褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
6	にがい黄褐色	ロームブロック多量			

遺物出土状況 土師器片21点（坏9、甕12）のほか、縄文土器片1点（深鉢）が出土している。16は、竈掘方の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。

第3182号竪穴建物跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	土師器	坏	[122]	(3.2)	-	赤色粒子	灰黄緑	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	5%
15	土師器	坏	[148]	(3.7)	-	長石・石英	にがい黄緑	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	10%
16	土師器	坏	-	(3.5)	-	長石・赤色粒子・細砂	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へ張り内面ナデ	竈部下方	10%

第3183号竪穴建物跡（第16～19図 PL3・4）

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のD6j9区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.78m、短軸3.64mの方形で、主軸方向はN-36°-Wである。壁は高さ18～42cmで、ほぼ直立している。

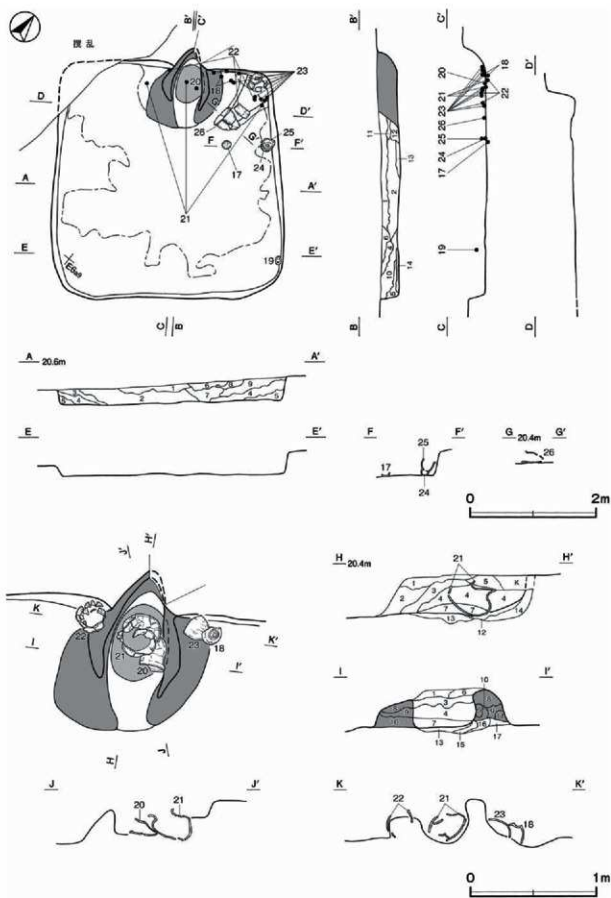
床 ほぼ平坦で、北東コーナー部に7cmほどの高まりが確認できた。竈の焚口部から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cmで、燃焼部幅は48cmである。床面から10cm掘りくぼめ、第12～17層を埋土して構築されている。袖部は、その上に粘土粒子を含んだ第8～11層を積み上げて構築されている。火床面は、第13層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子少量	8	暗褐色	粘土粒子中量、炭化粒子少量
2	暗褐色	焼土粒子多量、ロームブロック・炭化物・粘土ブロック中量	9	暗褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3	にがい黄褐色	炭化物・粘土粒子多量、焼土ブロック少量	10	暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
4	にがい黄褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量	11	暗褐色	炭化物・粘土粒子少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子少量	12	暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量、炭化粒子少量
6	にがい黄褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量	13	黒褐色	炭化粒子多量、焼土ブロック中量
7	にがい黄褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子中量、ローム粒子少量	14	褐色	炭化粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量
			15	黒褐色	炭化粒子多量、焼土粒子少量
			16	褐色	焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子少量
			17	黒褐色	炭化粒子多量、焼土粒子中量

覆土 14層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれ、不規則に堆積していることから埋め戻されている。



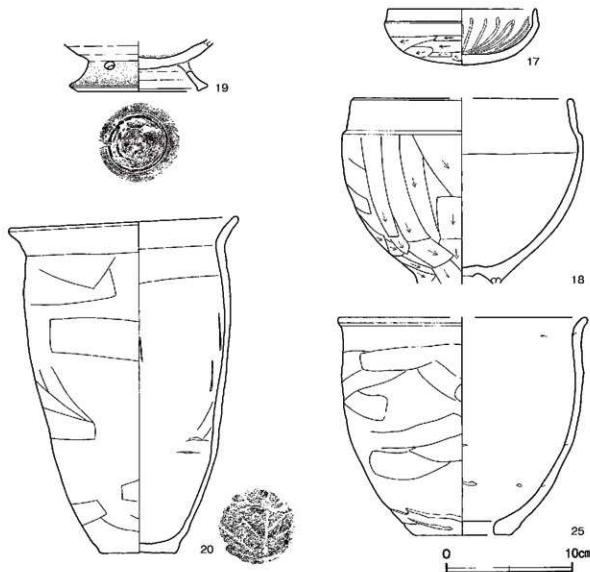
第16图 第3183号竖穴建物跡实测图

土層解説

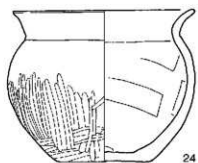
- | | | | |
|-------|-------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化物少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物中量 | 9 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物中量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量、炭化物少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 12 にい貴褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子多量、ロームブロック・炭化物中量 | 13 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化物中量 |
| 7 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子多量 | 14 褐色 | ロームブロック多量、炭化物少量 |

遺物出土状況 土師器片 57 点（坏 7，御付鉢 1，甕 41，小形甕 1，瓶 7），須恵器片 3 点（坏 2，御付長頸壺 1）のほか、陶器片 1 点（碗）が竈周辺の床面を中心に出土している。17 は中央部やや東側の床面から正位で、20 は竈の火床部、26 は竈の東側の床面からそれぞれ横位で、24・25 は甕に瓶を載せた状態で中央東壁付近の床面から正位でそれぞれ出土しており、廃絶時に遺棄されたものといえる。また、18・21～23 はそれぞれ床面から覆土下層にかけての覆土中や竈の内外から分散して出土した破片が接合したことから、埋め戻し時に投棄されたか、据え置かれていたものが落下し割れた可能性が考えられる。19 は南東コーナー部の覆土中層から出土しており、埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

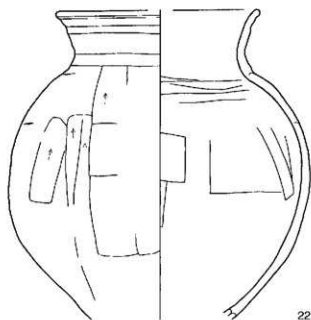
所見 時期は、出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



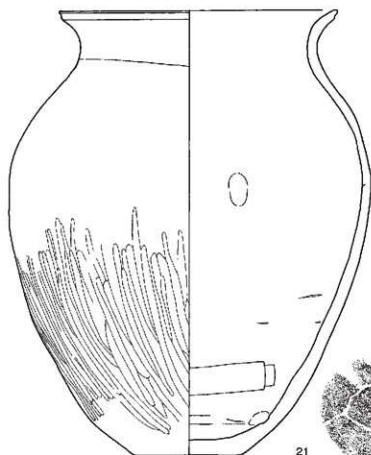
第 17 図 第 3183 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



24



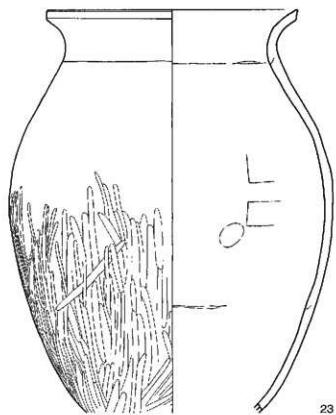
22



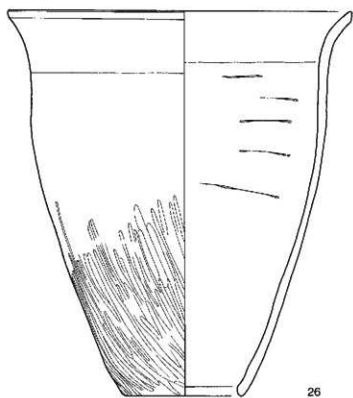
21



第 18 图 第 3183 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



23



26



第 19 图 第 3183 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)

第3183号竪穴建物跡出土物観察表(第17～19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
17	土師器	坏	11.7	4.4	-	長石・石英・赤母	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 内部ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	床面	95% PL15
18	土師器	舞付鉢	[17.2]	[14.7]	-	長石・石英・赤母・細砂	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ 脚部欠損	体部外面ヘラ削り	竈基部	50% PL17
19	灰土器	舞付長頸壺	-	[4.0]	9.6	長石	灰色	良好	脚部外側からの穿孔3か所	底部回転ヘラ削り	覆土中層	10% PL18 TK309 型式
20	土師器	甕	17.8	26.6	6.0	長石・石英・赤母・糠	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部本葉痕	体部外・内面ヘラナデ	竈火床部	80% PL19
21	土師器	甕	21.8	35.3	8.7	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 指頭圧痕 底部ナデ	体部外面ヘラ削り	竈大床部 覆土下層	80% PL19
22	土師器	甕	[15.6]	[24.6]	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	竈基部 床面	60%
23	土師器	甕	19.9	[32.0]	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 指頭圧痕	体部外面ヘラ削り	竈基部 覆土下層～床面	70% PL19
24	土師器	小形甕	14.1	12.1	7.3	長石・石英	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	床面	95% PL17
25	土師器	瓶	[19.4]	17.3	[7.6]	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	床面	60% PL20
26	土師器	瓶	27.2	30.4	9.2	長石・石英・赤母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り	床面	90% PL20

第3184号竪穴建物跡(第20・21図 PL5)

調査年度 平成25年度

位置 14区南西部のE7c5区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第139号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.99m、短軸3.82mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁は高さ5～13cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈の焚口部から中央部にかけて踏み固められている。壁下には壁溝がほぼ全体に巡っている。床面の全域から炭化材及び焼土が出土している。

竈 北壁の西寄りに付設されている。北東部が第139号溝に掘り込まれているため、焚口部から煙道部の一部と左袖部しか遺存していない。規模は焚口部から煙道部まで97cmで、残存している燃焼部幅は29cmである。袖部は、地山を掘り残し、その上に、粘土粒子や焼土粒子を含んだ第6・7層を積み上げて構築されている。火床部は、床面を5cmほど掘りくぼめた部分に第8層を埋土して構築され、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量 | 5 褐 色 | 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化物微量 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、粘土粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 7 暗褐色 | 炭化粒子中量、炭化粒子中量、焼土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |

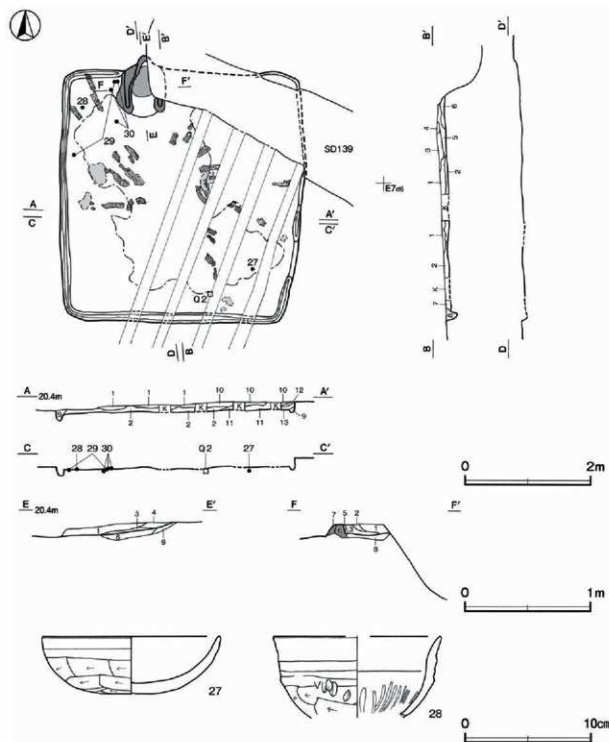
覆土 13層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれ、不規則に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

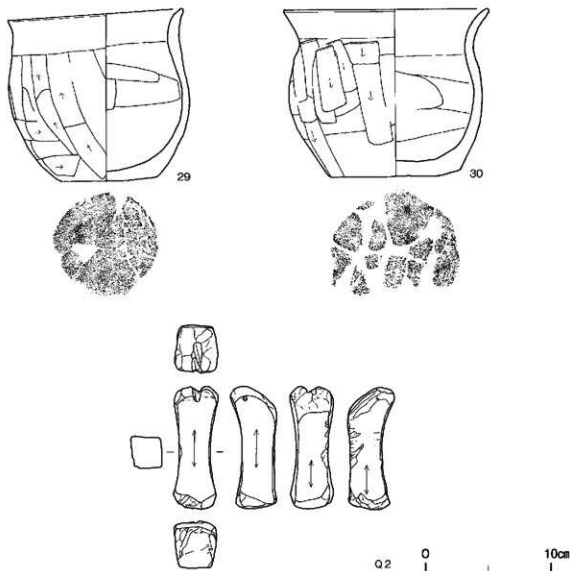
- | | | | |
|----------|------------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | 7 黒褐色 | 炭化物多量、ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物中量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量、炭化物・焼土粒子中量 | 10 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量 |
| 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量、炭化物中量、焼土粒子・粘土粒子少量 | 12 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量 |
| | | 13 黒褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片 35点 (坏10, 碗1, 甕13, 小形甕2, 瓶9), 石器1点 (紙石) が全体の覆土下層から床面にかけて出土している。27は、ほぼ完形で南東部の床面から正位で出土していることから、遺棄されたものとみられる。29・30は北西部の床面から出土しており、分散した破片が接合したことから、埋め戻し時に投棄されたと考えられる。Q2は南部の床面から出土している。

所見 炭化材は、中央に向かう形で確認されていることから、垂木などの上屋構造の部材とみられる。炭化材とともに焼土が出土していることから焼失建物と考えられる。時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第20図 第3184号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第21図 第3184号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3184号竪穴建物跡出土遺物観察表(第20・21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
27	土師器	坏	14.1	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ割り	床面	95% PL15
28	土師器	椀	[13.2]	(6.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 上縁部 内面ヘラ割り	体部外面ヘラ割り	床面	20%
29	土師器	小形甕	13.8	13.7	8.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	体部外面ヘラ割り	床面	80% PL17
30	土師器	小形甕	16.0	13.2	10.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	体部外面ヘラ割り	床面	60% PL17

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	砥石	9.7	3.5	3.7	150.7	凝灰岩	砥面4面 端面1面に溝状の研磨痕 未穿孔	床面	PL21

第3187号竪穴建物跡(第22・23図 PL5)

調査年度 平成25年度

位置 14区南西部のE7el区、標高19mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 上部を第7413号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 上部を第7413号土坑に掘り込まれているため、長軸は3.66m、短軸は3.41mしか確認できなかった。方形で、主軸方向はN-62°-Wである。壁は高さ10～26cmで、外傾している。

床 平坦である。硬化面は確認できなかった。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで82cmで、燃焼部幅は34cmである。遺存状態が不良なため、火床部及び焚口部、袖部の構築材の粘土を確認したのみである。

ピット 2か所。P1・P2は深さ25・30cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|----------|----------------------|
| 1 におい褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 3 褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量 | 4 におい黄褐色 | 粘土粒子中量、炭化粒子少量 |

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。長径108cm、短径56cmの楕円形で、深さは32cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

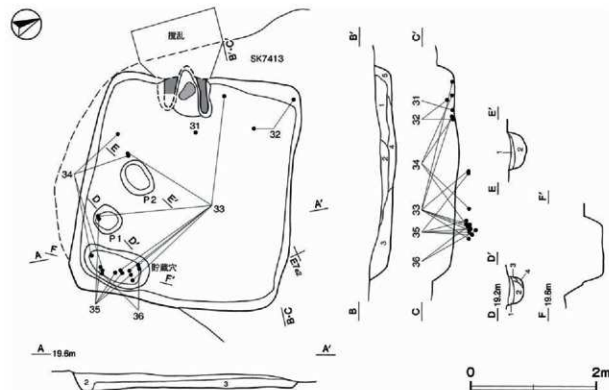
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

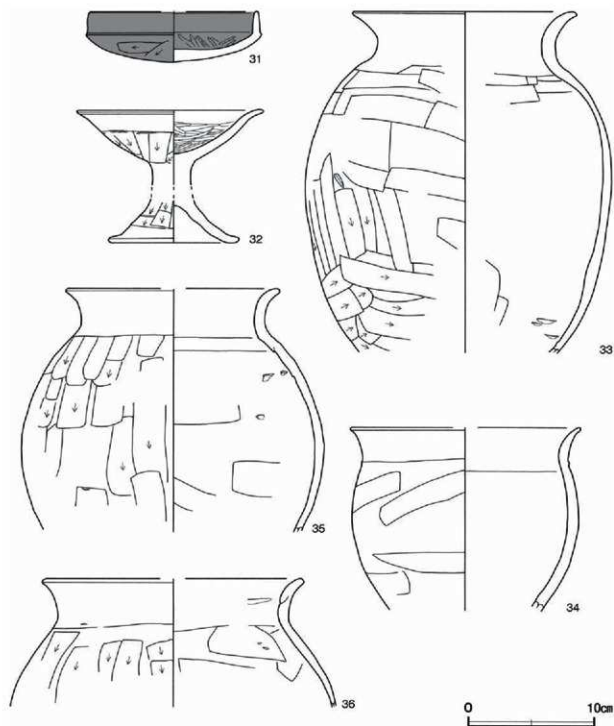
- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 4 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片106点(坏12、高坏1、甕93)、手捏土器1点のほか、縄文土器片2点(深鉢)、須恵器片2点(坏)が、全体の覆土中層から床面にかけて出土している。32～36は、覆土下層から床面、P1、貯蔵穴などから出土し、それぞれ分散した破片が接合しているため、埋め戻しの過程で投棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第22図 第3187号竪穴建物跡実測図



第23図 第3187号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3187号竪穴建物跡出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
31	土師器	杯	[132]	4.0	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	30%
32	土師器	高杯	14.3 (3.4)	[59] (27.0)	10.3	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き 脚部外面ヘラ削り 内面ナデ	掘土下層一 床面	80% PL18
33	土師器	甕	17.4	(27.0)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	掘土下層下層 下1層土下層 床面	30%
34	土師器	甕	[180]	(14.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子	褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ナデ	掘土下層土中層	30% PL17

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
35	土師器	甕	[166]	(19.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へう張り 内面へうナデ	内面 貯蔵穴直下層 P1 直上下層	20%
36	土師器	甕	[201]	(10.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へう張り 内面へうナデ	貯蔵穴直上 中層～下層	10%

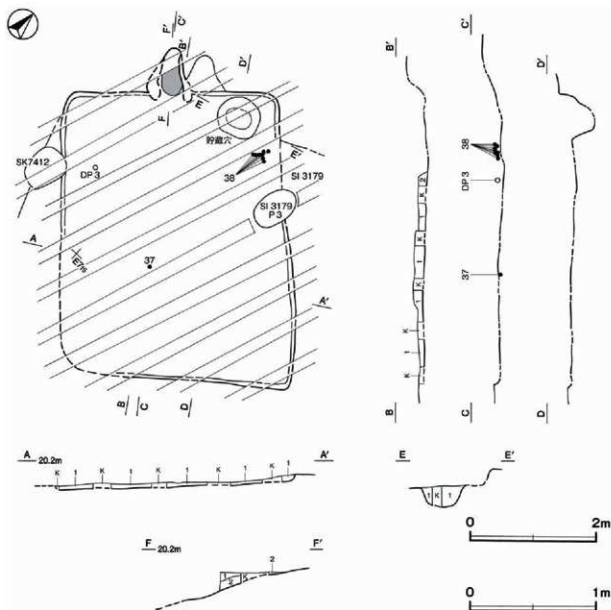
第 3188 号竪穴建物跡 (第 24・25 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の E 7 e5 区、標高 20 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 3179 号竪穴建物、第 7412 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.62 m、短軸 3.56 m の長方形で、主軸方向は $N-43^{\circ}-W$ である。壁は高さ 8 ~ 28 cm で、ほぼ直立している。



第 24 図 第 3188 号竪穴建物跡実測図

床 平坦である。硬化面は確認できなかった。

竈 北壁に付設されている。第3179号竈穴建物の竈で右軸が掘り込まれ、また、攪乱を受けて遺存状態が不良であるため、推定できる規模は焚口部から煙道部まで75cmで、燃焼部幅は35cmほどである。

竈土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 2 暗褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。長径67cm、短径61cmの円形で、深さは32cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量

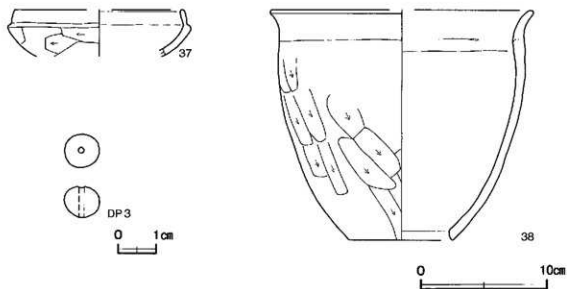
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片47点（坏3、甕43、瓶1）、土製品1点（土玉）のほか、縄文土器片2点（深鉢）、須恵器片1点（甕）、瓦片1点が出土している。37・38・DP3は覆土下層及び床面から出土しており、埋め戻しの過程で廃棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第25図 第3188号竈穴建物跡出土遺物実測図

第3188号竈穴建物跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	土師器	坏	[132]	[37]	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	5%
38	土師器	瓶	[206]	18.3	[82]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	30%
番号	器種	径	高さ	口径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
DP3	土玉	0.9	0.8	0.1	0.7	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ	一方向からの穿孔	覆土下層	

表2 古墳時代堅穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長×短 (m)	壁高 (cm)	床面 構造	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考
							柱穴	出入口	ドット	量	位置					
2434	E 7e9	N-28°-W	[方形]	4.65×4.58	5	平坦	一部	4	1	-	北壁	-	-	土師器	古墳時代後葉	本跡→SK3181
2441	D 7j9	N-33°-W	方形	5.62×5.41	8-28	平坦	一部	4	2	-	北壁	-	人為	土師器、石器	6世紀後葉	本跡→SD137
3170	D 7d1	N-20°-W	方形	6.60×6.12	8-21	平坦	ほぼ全周	4	1	-	北壁	1	人為	土師器、土製品	6世紀後葉	
3177	E 7e3	N-51°-W	長方形	4.06×3.38	4-10	平坦	-	-	-	2	北壁	1	人為	土師器、自然遺物	7世紀前葉	
3179	E 7e5	N-30°-W	[長方形]	5.75×5.12	3-18	粘土 平坦	-	4	-	-	北壁	-	人為	土師器、土製品	7世紀前葉	SK3188→本跡 →SK7411・7412・ 7466
3181	E 7e8	N-5°-W	[方形]	3.25×3.24	7-14	平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、 粘土瓦	7世紀代	SK2431→本跡 →SK3186
3182	D 7j6	N-34°-W	[長方形]	4.62×4.18	-	平坦	-	4	-	-	北壁	-	-	土師器	7世紀前葉	本跡→SD589
3183	D 6j9	N-36°-W	方形	3.78×3.64	18-42	ほぼ 平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	6世紀後葉	
3184	E 7e5	N-0°	方形	3.99×3.82	5-13	平坦	ほぼ 全周	-	-	-	北壁	-	人為	土師器、石器	6世紀中葉	本跡→SD139
3187	E 7e1	N-62°-W	方形	3.66×3.41	10-26	平坦	-	-	-	2	北壁	1	人為	土師器	6世紀中葉	本跡→SK7413
3188	E 7e5	N-43°-W	長方形	4.62×3.56	8-28	平坦	-	-	-	-	北壁	1	人為	土師器、土製品	6世紀後葉	本跡→SK3179、 SK7412

(2) 掘立柱建物跡

第597号掘立柱建物跡 (第26図 PL 5)

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のC7d4区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3194号堅穴建物、第7530号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-90°-Wの東西棟である。規模は、桁行4.2m、梁行3.0mで、面積は126㎡である。柱間寸法は、桁行2.1m(7尺)、梁行1.5m(5尺)で均等に配置され、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、長径64～104cm、短径59～81cmである。深さは18～66cmである。第1～6層が柱抜き取り後の堆積層、第7～10層が埋土である。P1を除いた柱穴の底面に、柱のあたりを確認した。

土層解説 (各柱穴共通)

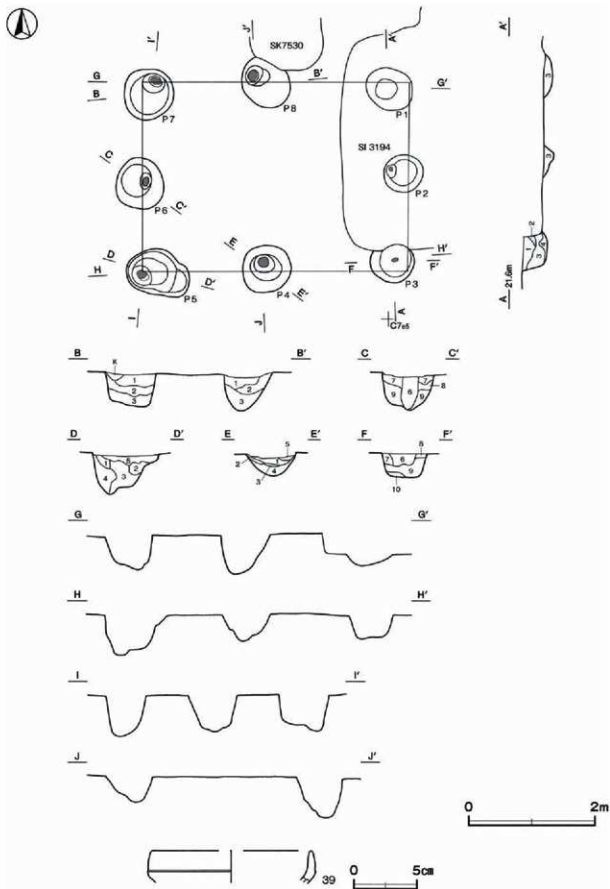
1 黒褐色	ロームブロック少量	6 黒褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量	7 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片18点(坏2、甕16)のほか、須恵器片5点(坏)が出土している。39は、P5の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や第3194号堅穴建物跡との新旧関係から7世紀前葉と考えられる。

第597号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第26図)

番号	種別	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
39	土師器	坏	[125]	[25]	-	長石	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	P5覆土中	5%



第 26 図 第 597 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

2 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡2棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

第3162号竪穴建物跡（第27図 PL6）

調査年度 北部は平成24年度に調査し、当財団調査報告『第390集』にて報告している。北部以外の大部分は平成25年度に調査した。

位置 14区西部のC7c2区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.24m、短軸3.78mの長方形で、主軸方向はN-60°-Eである。壁は高さ45～52cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を平坦に掘り下げ、ロームブロックを含む第7層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が全周している。

竈 北東コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで114cmで、燃焼部幅は30cmである。袖部は、粘土粒子を多量に含んだ第7層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に床面から15cm掘りくぼめ、第8～11層を埋土して構築されている。火床面は第8層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

1 明赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量	8 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子多量、炭化粒子中量
2 赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
4 暗赤褐色	焼土粒子多量、粘土粒子中量、炭化粒子少量	11 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
5 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、粘土粒子少量		
6 暗赤褐色	焼土粒子多量、粘土粒子中量		
7 暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量		

ピット P1は深さ24cmで、規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1～3層は柱抜き取り後の堆積層である。

ピット土層解説

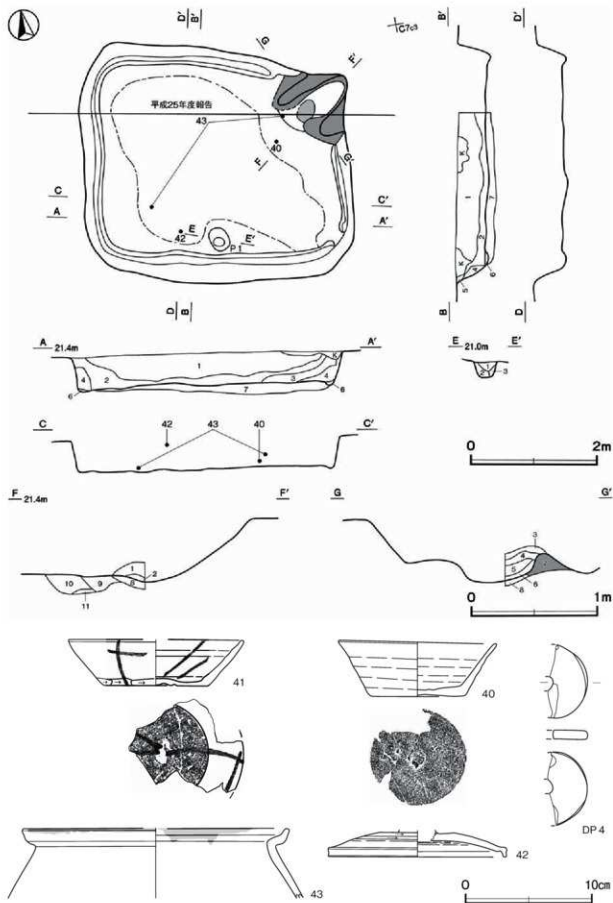
1 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量		

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	6 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	7 濃い黄褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量
4 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子中量		

遺物出土状況 平成25年度の調査では、土師器片147点（坏11、甕136）、須恵器片63点（坏33、甕11、甕19）、土製品1点（紡錘車）のほか、陶器片1点（碗）が、覆土上層から床面にかけて投棄された状況で出土している。40は竈の周辺の覆土下層から出土しており、竈の覆土中から出土した土器と接合している。42は覆土上層から、43は覆土中層から下層にかけて出土している。41・DP4は、それぞれ覆土中から出土している。
所見 時期は、『第390集』では、出土土器から9世紀中葉と報告されているが、平成25年度の調査で出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第27図 第3162号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 3162 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 27 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
40	須恵器	坏	12.4	4.4	7.5	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	底部一方向のへう割り	覆土下層	70% PL15 層ノ内層上
41	須恵器	坏	(137)	3.7	(80)	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部下縁手持ちへう割り 底部一方向のへう割り	覆土中	20% 新治産
42	須恵器	甕	(140)	(21)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	天井部回転へう割り	覆土上層	20% 新治産
43	土師器	甕	(208)	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナゲ 体部外・内面ナゲ	覆土中～下層	5% 口縁部未付着

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 4	結鉢車	(5.8)	0.7	(1.2)	(14.5)	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	両面ナゲ	覆土中	

第 3178 号竪穴建物跡 (第 28・29 図 PL 6)

調査年度 平成 25 年度

重複関係 第 7419 号土坑に掘り込まれている。

位置 14 区南西部の E 7e3 区、標高 20 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 3.56 m、短軸 3.55 m の方形で、主軸方向は N-17°-E である。壁は高さ 23～30 cm で、直立している。

床 やや凹凸がある。竈の焚口部から中央部を中心に、踏み固められている。壁下には、壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120 cm で、燃焼部幅は 40 cm である。袖部は、粘土粒子やローム粒子を含んだ第 12～15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 5 cm 掘りくぼめ、第 16・17 層を埋土して構築されている。火床面は第 16 層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 30 cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。

覆土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	11 暗褐色	炭化粒子中量、ローム粒子少量
2 暗褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量	12 黄褐色	ロームブロック多量、粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黄褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	13 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
4 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量	14 にぶい黄褐色	炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
5 褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	15 暗褐色	炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
6 暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	16 暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
7 黒褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	17 黒褐色	炭化粒子中量
8 にぶい黄褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量		
9 暗褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子少量		
10 褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子中量		

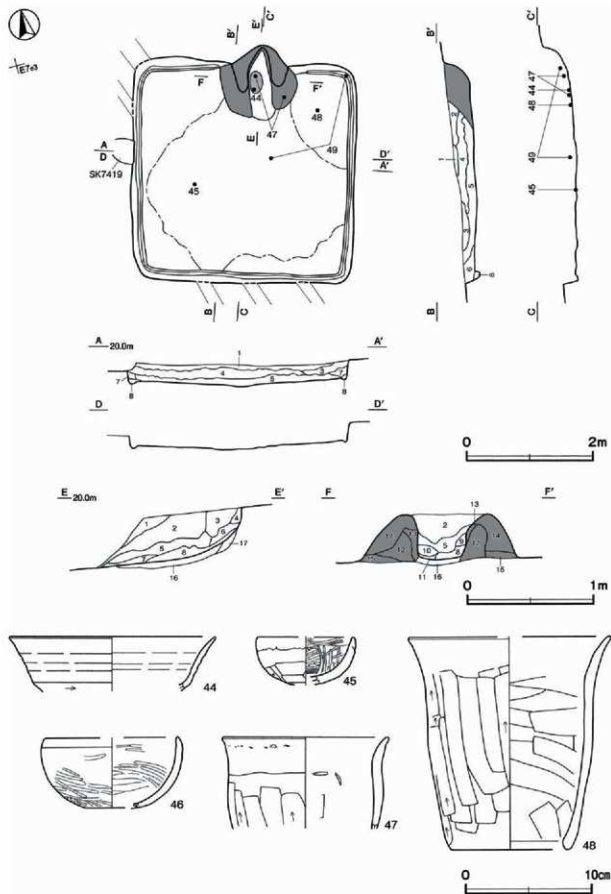
覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化物少量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量	6 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ローム粒子多量、粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	8 黒褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片 100 点 (坏 17, 輪 2, 甕 77, 小形甕 1, 甕 3), 須恵器片 15 点 (坏 8, 高台付坏 1, 蓋 1, 甕 5), 粘土塊 3 点が覆土中層から床面にかけて、埋め戻しの過程で投棄された様相で出土している。44 は竈の火床面から出土しており、47 は竈火床部と袖部からそれぞれ出土したものが接合している。45・48 はそれぞれ床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から、8 世紀前葉に比定できる。



第28图 第3178号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第29図 第3178号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3178号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第28・29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
44	須恵器	坏	[162]	(4.3)	-	長石・石英・赤母	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り	竈火床面	10% 新治窯	
45	土師器	椀	[7.6]	(3.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 内面ヘラ磨き	床面	30%	
46	土師器	椀	[10.4]	5.6	[4.2]	雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラ磨き	覆土中	20%	
47	土師器	小形壺	13.0	(7.2)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	竈壁部・火床部	20%
48	土師器	瓶	[15.8]	16.9	[9.6]	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	床面	30%	
49	土師器	瓶	[23.0]	(9.1)	-	長石・石英・細砂	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り	覆土下層	10%

表3 奈良時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考		
				長軸×短軸 (m)	高 (cm)			柱穴	土人ロ	灶						
3162	C 762	N - 60° - E	長方形	4.24 × 3.78	45 - 52	粘土 平塗	全周	-	1	-	北東	-	人土	土師器 土師器 須恵器	8世紀前半	
3178	E 763	N - 17° - E	方形	3.56 × 3.55	23 - 30	赤や 西白	全周	-	-	-	北東	-	人土	土師器 土師器 粘土塊	8世紀後半	本跡→SK7419

3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡10棟、井戸跡2基、土坑12基、遺物包含層1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第3171号竪穴建物跡 (第30図)

調査年度 東部は平成24年度に調査し、当財団調査報告『第390集』にて報告している。西部は平成25年度に調査した。

位置 14区西部のD7b4区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3165号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 掘削を受けているため、確認できた規模は、長軸4.25m、短軸2.90mである。平面形は長方形で、主軸方向はN-73°-Wと推定できる。壁は高さ22～25cmで、ほぼ直立している。

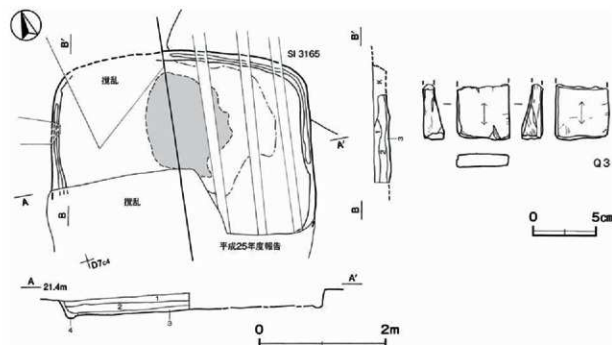
床 平坦である。北部で火熱を受けたと考えられる焼土範囲を確認した。西壁の壁下に壁溝が巡っている。

覆土 4層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3	にぶい黄褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
2	にぶい黄褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	4	褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 平成25年度の調査では、土師器片16点(坏4, 皿1, 甕10, 瓶1), 須恵器片6点(甕), 石器1点(砥石), 金属製品1点(刀子,)のほか, 陶器片1点(鉢), 磁器片1点(碗)が出土している。
所見 時期は, 出土土器と既調査状況から9世紀中葉に比定できる。床面に火熱を受けた焼土範囲が確認され, 覆土中に焼土粒子や炭化粒子を含むことから焼失建物跡の可能性が高い。



第30図 第3171号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第3171号竪穴建物跡出土遺物観察表(第30図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	砥石	(4.4)	(4.2)	(1.7)	(39.1)	凝灰岩	紙面2面	覆土中	PL21

第3180号竪穴建物跡(第31～33図 PL7)

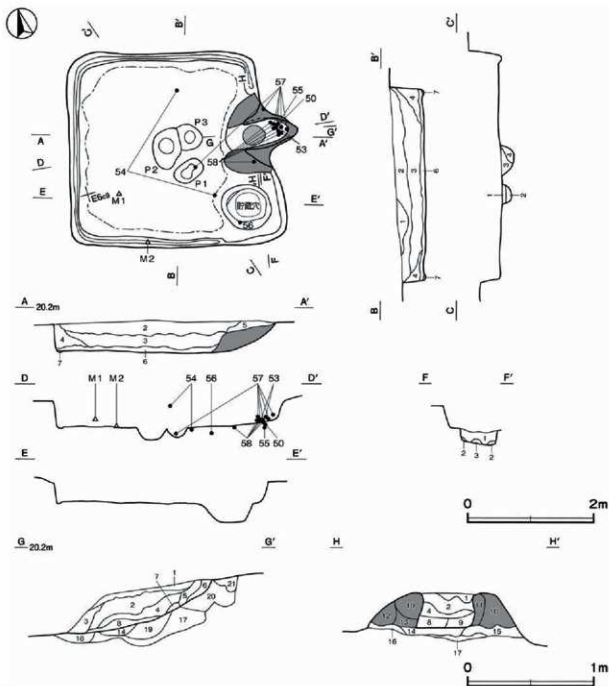
調査年度 平成25年度

位置 14区南西部のE6b9区, 標高20mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.41m, 短軸3.08mの長方形で, 主軸方向はN-105°-Eである。壁は高さ31～50cmで, 直立している。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には南東コーナー部を除いて溝が巡っている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで117cmで, 燃焼部幅は45cmである。全体を楕円形に床面から18cm掘りくぼめ, ロームブロックを含んだ第14～21層を埋土している。袖部は, その上に粘土粒子や焼土ブロックを含んだ第10～13層を積み上げて構築されている。火床部は, 床面とはほぼ同じ高さを利用しており, 火床面は第14層上面で, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ, 火床部から外傾している。火床部には, 土師器の坏と高台付坏の2個体が逆位で重ねられた状態で据えられており, 支脚として使用されていたと考えられる。



第31図 第3180号竪穴建物跡実測図

竪土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|-----------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 にい・黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 14 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物中量、ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 16 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化物・粘土粒子中量 | 17 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒子少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 18 暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 8 にい・黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 19 褐色 | ロームブロック多量 |
| 9 赤褐色 | 焼土ブロック多量 | 20 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 10 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少量 | 21 褐色 | ロームブロック多量、炭化物少量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、粘土粒子中量、ロームブロック少量 | | |

ピット 3か所。P1～P3は深さ14～20cmで、それぞれ柱穴と考えられるが、性格は不明である。第1～4層は柱抜き取り後の堆積層である。

ピット土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒 褐色 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | 3 黒 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 2 濃い黄褐色 ロームブロック多量、粘土粒子中量 | 4 黒 褐色 焼土ブロック・炭化物多量、ロームブロック中量 |

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径80cm、短径70cmの楕円形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 3 暗 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐 色 粘土粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | |

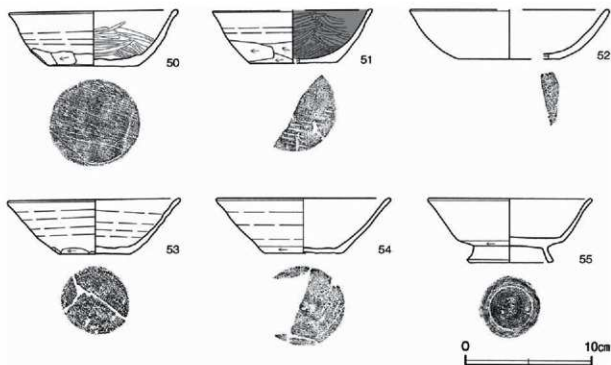
覆土 7層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

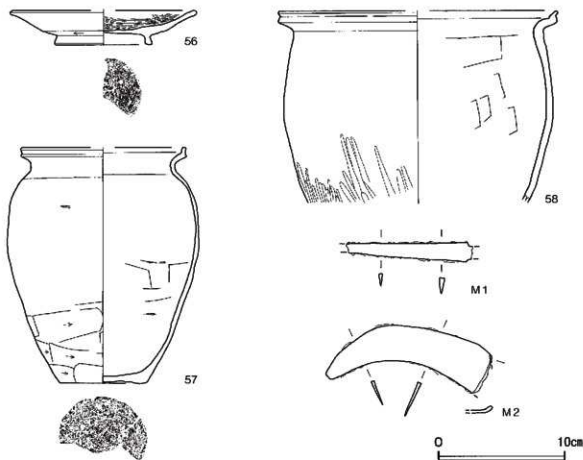
- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 5 黒 褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック中量 |
| 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗 褐色 炭化物・焼土粒子多量、ロームブロック中量 |
| 3 暗 褐色 ロームブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量 | 7 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片266点（坏29、高台付坏2、高台付皿1、甕233、瓶1）、須恵器片76点（坏29、甕47）、灰軸陶器片2点（長頸瓶）、粘土塊6点、石器1点（砥石）、金属製品3点（刀子、鎌、釘）のほか、縄文土器片4点（深鉢）、陶器片2点（壺）、石核1点が出土している。遺物は竈内を中心に、覆土中層から床面にかけて全体に出土していることから、遺棄及び埋没していく過程で混入したものとみられる。50と55は、火床部からそれぞれ逆位で重ねられた状態で出土している。火熱を受けており、支脚として使用されていたと考えられる。53・57・58は竈内部及び周辺から出土しており、竈の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。M1は南西部の覆土中層から、M2は南部の壁溝から、それぞれ出土している。覆土中から出土した灰軸陶器片は細片のため図示できなかったが、猿投竈底である。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第32図 第3180号竈穴建物跡出土遺物実測図(1)



第33図 第3180号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第3180号竪穴建物跡出土遺物観察表(第32・33図)

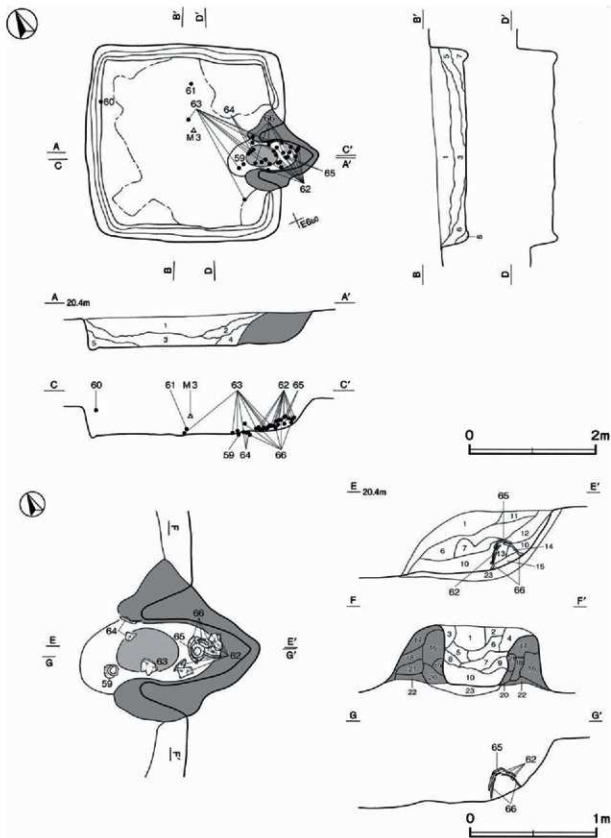
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
50	土師器	坏	131	4.5	7.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	内面ヘラ磨き	竈火床部	90% PL15
51	土師器	坏	[124]	4.2	[68]	長石	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	内面ヘラ磨き	覆土中	30%
52	土師器	坏	[156]	3.9	[80]	長石・石英・赤色粒子・細砂	にぶい黄橙	普通	底部ヘラナデ		覆土中	30%
53	須恵器	坏	134	4.5	5.3	長石・石英・赤色粒子・細砂	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り	底部一方向のヘラ削り	竈土上層	90% 新山原 PL15
54	須恵器	坏	136	4.4	6.2	長石・石英・赤色粒子・細砂	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り	底部一方向のヘラ削り	覆土上層・床面	50% 新山原 PL15
55	土師器	高台付坏	127	5.1	6.1	長石・石英・赤色粒子・細砂	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り	底部回転ヘラ削り	竈火床部	90% PL16
56	土師器	高台付甕	[144]	2.7	[77]	長石・石英・赤色粒子・細砂	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	竈土上層	30%
57	土師器	甕	[128]	18.7	6.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈地床・大床部	30%
58	土師器	甕	[219]	[153]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面ヘラ削き 内面ヘラナデ	竈地床・大床部	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	刀子	(100)	1.6	(0.5)	(15.7)	鉄	刃先・基部欠損 刃部断面三角形	覆土中層	PL22
M 2	鎌	(130)	(5.4)	0.3	(34.6)	鉄	刃部断面三角形 基部削り返し	床面	PL22

第3185号竪穴建物跡(第34～36図 PL 8)

調査年度 平成25年度

位置 14区南西部のE 6a⑨区。標高20mほどの台地斜面部に位置している。



第34図 第3185号竪穴建物跡実測図

規模と形状 長軸3.16m, 短軸3.14mの方形で, 主軸方向は $N-114^{\circ}-E$ である。壁は高さ36~58cm, ほは直立している。

床 平坦で、竈の焚口部から中央部を中心に踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。

竈 東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140cmで、燃焼部幅は50cmである。床面から8cm掘りくぼめ、第23層を埋土している。袖部は、その上に粘土粒子や焼土ブロックを含んだ第16～22層を積み上げて構築されている。火床面は第23層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ、火床部から外傾している。火床面には、縦に分割された須恵器瓶と土師器甕に土師器小形甕の下半が逆位で重ねられた状態で据えられており、支脚として使用されていたと考えられる。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12 極暗褐色	炭化粒子多量、焼土粒子・粘土粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子少量
3 暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量	14 極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量
4 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	15 極暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色	炭化粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、ロームブロック微量	16 暗褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
6 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	17 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
7 暗褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量	18 にぶ黄褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・粘土粒子少量
8 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	19 暗褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック中量、粘土粒子少量
9 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	20 暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子少量
10 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	21 にぶ黄褐色	粘土粒子多量、炭化粒子少量
11 黒褐色	炭化粒子・粘土粒子中量、焼土粒子少量	22 褐色	ロームブロック多量
		23 黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物中量

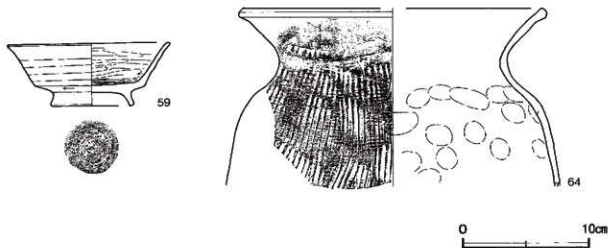
覆土 7層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

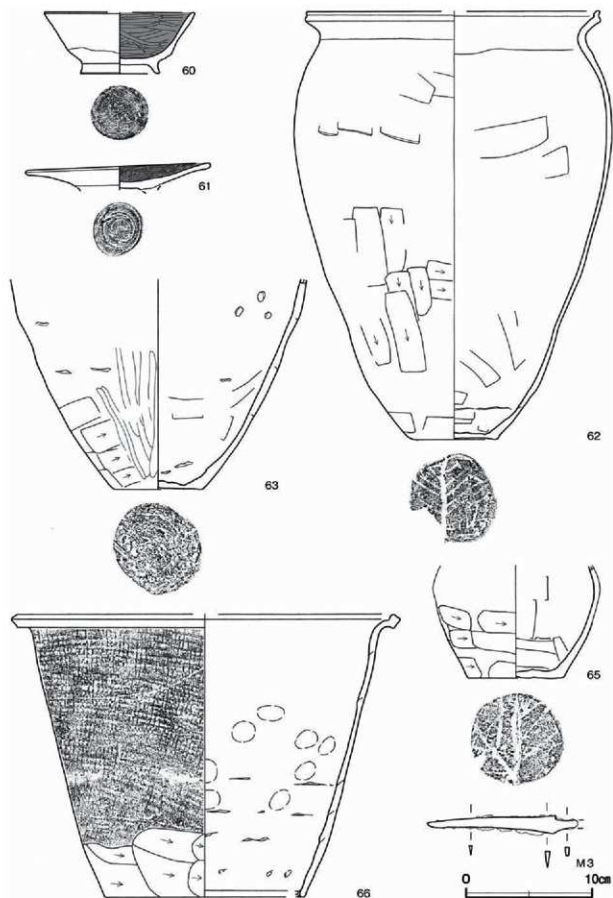
1 黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子中量	5 にぶ黄褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物中量	6 暗褐色	炭化物・ローム粒子中量、焼土粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子多量	7 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
4 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子多量、ロームブロック中量		

遺物出土状況 土師器片171点（坏39、高台付坏2、高台付皿1、甕128、小形甕1）、須恵器片65点（坏49、甕13、瓶3）、粘土塊1点、鉄滓1点（16.74g）、金属製品1点（刀子）が、全体の覆土層から床面にかけて混入した状況で出土している。62・65・66は、竈の火床面からそれぞれ逆位で重ねられた状態で出土している。62・66はそれぞれ縦に分割されたものを斜めに重ねており、その上に65の小形甕下半のみを最上部に据えていた。それぞれ火熱を受けており、支脚として使用されていたと考えられる。64は竈の左袖部脇から出土しており、袖部の補強材として用いられたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第35図 第3185号竈穴建物跡出土遺物実測図(1)



第36图 第3185号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 3185 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 35・36 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
59	土師器	高台付杯	127	5.1	6.1	長石・石英・赤母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転へう張り 内面へう磨き 底部回転へう張り	床面	80% PL.16
60	土師器	高台付杯	[117]	4.9	6.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端ナデ 内面へう磨き 底部ナデ	覆土上層	50% PL.16
61	土師器	高台付杯	145	(2.1)	-	長石・石英・赤母	にぶい黄	普通	体部内面へう磨き 底部回転へう張り	覆土下層	60% PL.18
62	土師器	甕	[230]	34.0	6.5	長石・石英・赤母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面へうナデ・へう張り 内面へうナデ 底部本磨肌	竈火床面	40% PL.19
63	土師器	甕	-	(16.7)	6.9	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面へう張り後へう磨き 内面へうナデ	覆土下層-床面	40%
64	須恵器	甕	[236]	(14.1)	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面格子状可き内面ナデ 指環肌	竈火床面	20% 新治産
65	土師器	小形甕	-	(8.9)	7.5	長石・石英・赤母・赤色粒子・粗糠	にぶい黄橙	普通	体部外面へう張り 内面へうナデ 底部本磨肌	竈火床面	50%
66	須恵器	甕	[300]	22.4	[16.0]	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面格子状可き下部へう張り 内面ナデ 指環肌	竈火床面	40% 新治産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M.3	刀子	(11.9)	1.5	0.4	(12.4)	鉄	刃部断面三角形 茎部断面長方形	覆土中層	PL.22

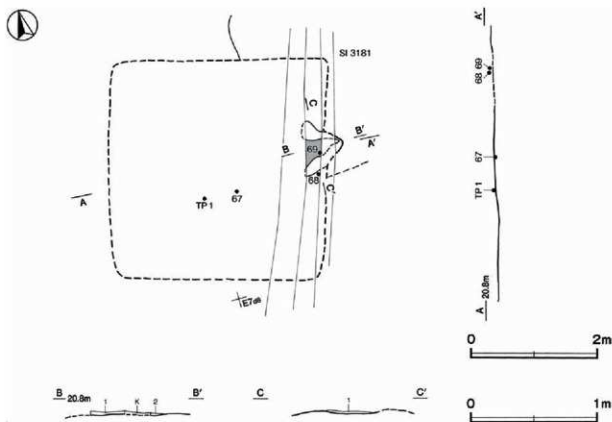
第 3186 号竪穴建物跡 (第 37・38 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の E 7c8 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3181 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 大部分が削平されているが、竈の位置と遺物の出土状況から、推定される規模は長軸 3.46 m、短軸 3.44 m の方形で、主軸方向は N-103°-E である。



第 37 図 第 3186 号竪穴建物跡実測図

床 ほぼ平坦である。

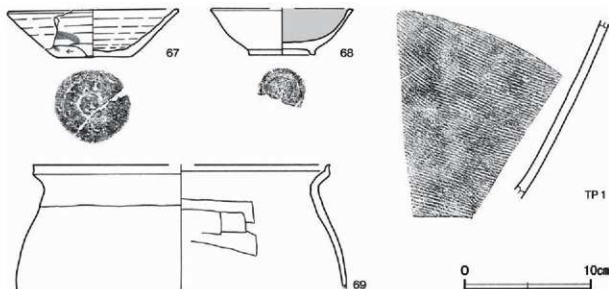
竈 東壁中央部に付設されている。削平を受けているため、遺存している規模は焚口部から煙道部まで60cmで、燃焼部幅は30cmである。袖部は地山を掘り残り構築されている。火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、壁外に30cm掘り込まれている。

竈土層解説

1 褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量

2 暗褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片3点(甕)、須恵器片7点(坏1、蓋1、甕5)、灰軸陶器片1点(碗)が、覆土下層から床面にかけて出土している。69は竈の火床部から出土しており、竈廃絶時に廃棄されたものとみられる。所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第38図 第3186号竈穴建物跡出土遺物実測図

第3186号竈穴建物跡出土遺物観察表 (第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
67	須恵器	坏	133	3.8	5.8	長石・石英	灰	普通	体部下端平持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り 墨書「1」	床面	80% 新古瀬 PL15
68	灰軸陶器	碗	[108]	3.7	[51]	長石・石英	灰白	鍛造	体部内面灰軸刷毛塗り 底部ヘラ記号「一」	覆土下層	30% PL17 黒屋14室式
69	土師器	甕	[234]	[99]	-	長石・石英・炭化	濃い黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	竈火床部	5%
TP1	取土層	甕	-	-	-	長石・石英・炭化	灰	普通	体部外面横位の平形吹き 内面ナデ	床面	新古瀬 PL21

第3189号竈穴建物跡 (第39図 PL9)

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のD6g0区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第520号溝に掘り込まれている。

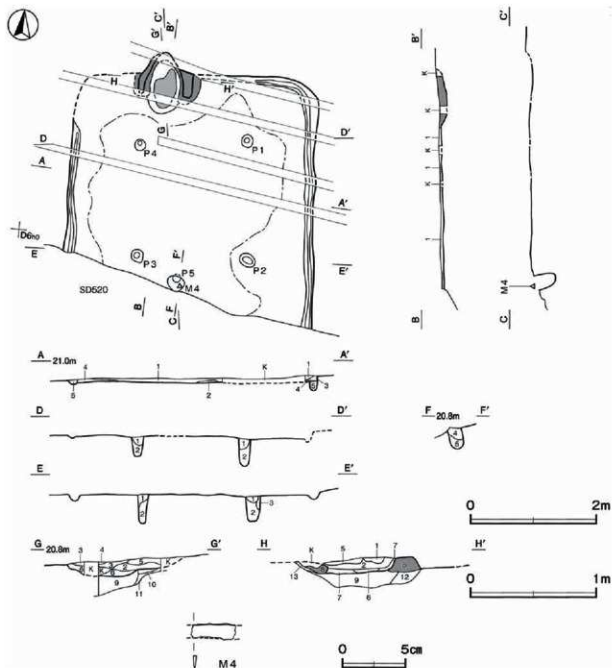
規模と形状 北西コーナー部が削平され、南部を第520号溝に掘り込まれているため、長軸は4.00mで、短軸は3.88mしか確認できなかった。方形または長方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁は高さ2~10cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北西コーナー部を除いて、壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部やや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cmで、燃焼部幅は48cmである。全体を楕円形に床面から15cm掘りくぼめ、第9～13層を埋土している。袖部は、その上に粘土粒子を主体とする第8層を積み上げて構築されている。火床部は第9・10層上面で、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量 | 7 暗褐色 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 8 にい・黄褐色 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量 |
| 5 褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 10 褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化物少量 |
| | 11 褐色 ローム粒子多量、粘土粒子中量 |
| | 12 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量 |
| | 13 にい・黄褐色 ローム粒子多量、粘土粒子中量 |



第39図 第3189号竈穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。P1～P4は深さ32～46cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ34cmで、南壁際
の中央部付近に位置していると推定されることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1～5層は、
柱抜き取り後の堆積層である。

ピット土層解説

1 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	4 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗 褐色	ロームブロック中量	5 黒 褐色	ロームブロック中量
3 にぶい褐色	ローム粒子多量		

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	3 暗 褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量
2 暗 褐色	焼土粒子・粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	4 にぶい黄褐色	ローム粒子多量
		5 暗 褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片24点(坏4, 甕19, 瓶1), 金属製品1点(刀子)が、竈の周辺を中心に出土している。
出土土器は細片のため、図示できなかったが、出土した土師器坏は口ロ成形で、底部に回転へら切りが認め
られる。M4は、P5の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。

第3189号竪穴建物跡出土遺物観察表(第39図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	刀子	(3.6)	(1.2)	(0.2)	(2.9)	鉄	刃先・基部欠損 刃部断面三角形	P5覆土上層	

第3190号竪穴建物跡(第40・41図 PL9)

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のD69区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.54m、短軸2.80mの長方形で、主軸方向はN-16°-Eである。壁は高さ10～24cmで、
ほぼ直立している。

床 平坦で、竈の焚口部から中央部を中心に踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで132cmで、燃焼部幅は35cmである。床面から
5cm掘りくぼめ、第14層を埋して構築されている。袖部は左袖の下を土坑状に掘り込み、第15・16層を埋
土し、その上に粘土粒子や焼土ブロック・炭化粒子を含んだ第11～13層を積み上げて構築されている。火床
面は第14層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に92cm掘り込まれ、火床部から外傾して
いる。

覆土層解説

1 暗 褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量	8 にぶい黄褐色	焼土粒子多量
2 灰黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子中量、炭化粒子少量	9 褐 色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量
3 黒 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量、粘土粒子少量	10 暗 褐色	焼土粒子多量、ロームブロック中量、炭化物少量
4 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	11 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
5 黒 褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	12 黒 褐色	焼土ブロック・炭化粒子多量、ローム粒子少量
6 灰黄褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量	13 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子中量、炭化粒子少量
7 暗 褐色	焼土ブロック・炭化物少量	14 にぶい黄褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子中量
		15 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量
		16 褐 色	炭化物・ローム粒子中量、焼土ブロック少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ12～32cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ14cmで、南壁際
の中央部付近に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1～6層は柱抜き取り後
の堆積層である。

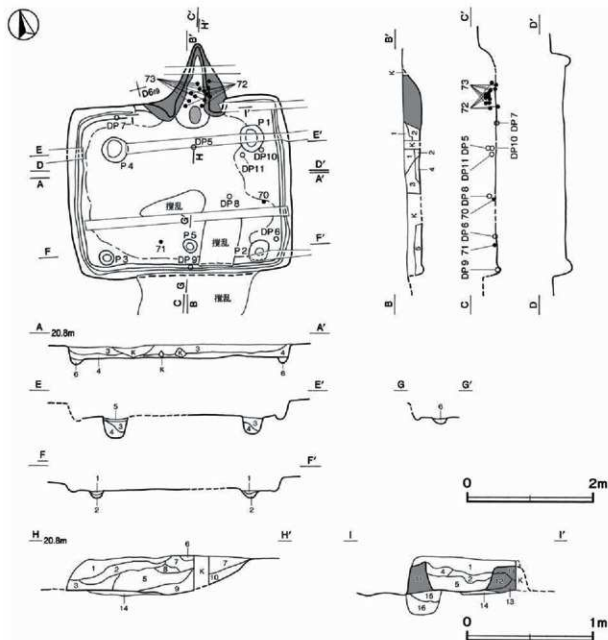
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量 |

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれていることから、埋め戻さ
れている。

土層解説

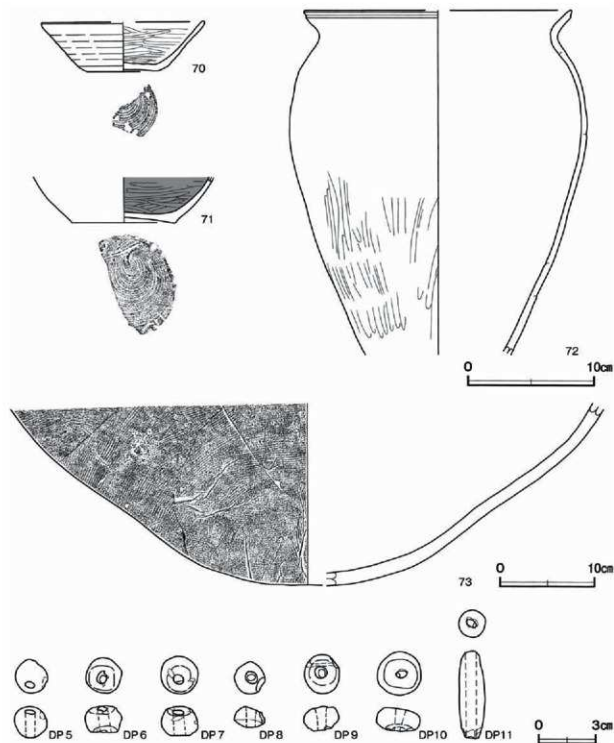
- | | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量、炭化物少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 にい | 黄褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子中量、炭化物少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | |



第40図 第3190号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 89 点 (坏 10, 甕 79), 須恵器片 4 点 (坏 2, 甕 1, 大甕 1), 土製品 10 点 (土玉 8, 管状土錘 2), 金属製品 3 点 (刀子 2, 鉛玉 1), 鉄滓 1 点 (2.40g) が, 全体の覆土中層から床面にかけて出土している。70 は東部, 71 は南部のそれぞれ床面から出土している。72・73 は竈の火床面から出土しており, 竈廃絶時に廃棄されたものとみられる。DP 5 ~ DP11 は覆土下層から床面にかけて全体に広がって出土しており, 埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 41 図 第 3190 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3190 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 41 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
70	土師器	坏	[127]	3.9	[5.5]	長石	橙	普通	体部内面へう磨き 底部回転糸切り	床面	20%
71	土師器	坏	-	[3.6]	[8.2]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部内面へう磨き 底部回転糸切り	床面	40%
72	土師器	甕	[21.1]	[27.4]	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へう磨き 内面ナデ	甕大床面	30%
73	須恵器	大甕	-	[19.1]	-	長石・石英・ 細砂	暗黄灰	普通	体部外面横位の並行押し 内面ナデ	甕大床面	10% 新治産

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 5	土玉	1.9	1.6	0.5	4.3	長石	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL22
DP 6	土玉	1.9	1.4	0.6	4.4	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL22
DP 7	土玉	2.0	1.6	0.6	5.3	長石・赤色粒子	にぶい黄褐色	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL22
DP 8	土玉	1.7	1.1	0.6	2.0	長石	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL22
DP 9	土玉	2.1	1.3	0.6	3.6	長石	橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL22
DP10	土玉	2.3	1.3	0.3 ~ 0.6	5.7	長石・石英	にぶい黄褐色	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL22
DP11	管状土師	1.5	4.7	0.4 ~ 0.6	8.4	長石・石英	灰黄褐色	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL22

第 3191 号竪穴建物跡 (第 42 ~ 44 図 PL10)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の D 6 c9 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 5.32 m、短軸 5.00 m の方形で、主軸方向は N - 1° - W である。壁は高さ 14 ~ 28 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。貼床は、ピット周辺の 4 か所を確認面から 42 ~ 59 cm の深さに凹凸のある不整形円形に掘り込み、ローム粒子主体の第 17 ~ 19 層を埋土後に踏み固めて構築されている。

竪 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 104 cm で、燃焼部幅は 50 cm である。全体を楕円形に床面から 22 cm 掘りくぼめ、第 20 ~ 27 層を埋土している。袖部は右袖の下を土坑状に掘り込み、第 28 層を埋土している。その上に粘土粒子や焼土ブロック・炭化物を含んだ第 14 ~ 19 層を積み上げて、左右の袖部を構築している。火床面は第 20・21 層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 20 cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。

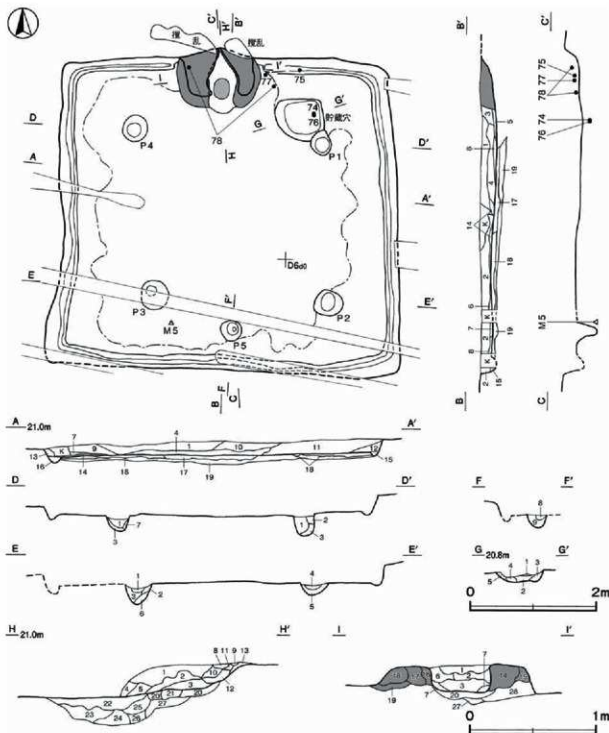
甕土層解説

1 暗褐色	炭化粒子・粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量	15 黒褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
2 灰黄褐色	焼土ブロック多量、粘土粒子中量、炭化物少量	16 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子多量、炭化物・ローム粒子少量
3 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量、粘土粒子中量	17 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
4 にぶい褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化物中量	18 黒褐色	粘土粒子多量、炭化物中量、焼土ブロック少量
5 黒褐色	炭化粒子多量、焼土ブロック・粘土粒子中量	19 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
6 暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物・粘土粒子中量	20 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
7 黒褐色	焼土ブロック・ロームブロック中量、炭化粒子少量	21 赤褐色	焼土ブロック多量
8 暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子・粘土粒子中量	22 黒褐色	炭化粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子中量
9 暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物中量、ロームブロック・粘土粒子少量	23 黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量
10 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子中量、焼土ブロック少量	24 黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量、炭化物少量
11 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子中量、粘土粒子少量	25 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量
12 暗褐色	焼土ブロック多量、炭化物・ローム粒子中量	26 にぶい黄褐色	焼土ブロック中量
13 暗褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量	27 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量
14 にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子多量、ロームブロック少量	28 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ22～36cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ34cmで、南壁際の中央部付近に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1～9層は柱抜き取り後の堆積層である。

ピット土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|----------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 6 に白い黄褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 に白い黄褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 9 に白い黄褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |



第42図 第3191号竪穴建物跡実測図(1)

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。長径78cm、短径68cmの楕円形で、深さは18cmである。底面は平坦で、壁はほぼ外傾している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------|----------|--------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量、炭化物・ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 におい黄褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子中量 |
| 3 におい黄褐色 | 炭化物・ローム粒子・粘土粒子中量、焼土ブロック少量 | | |

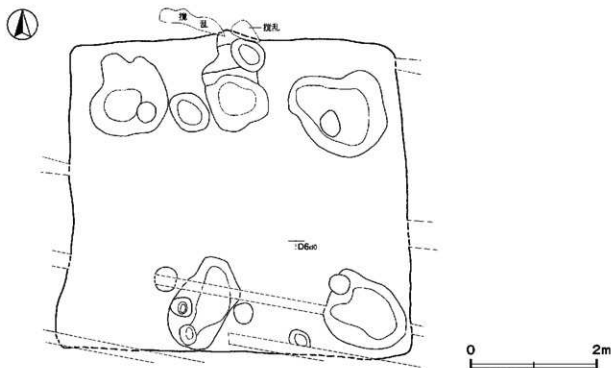
覆土 16層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。第17～19層は貼床の構築土である。

土層解説

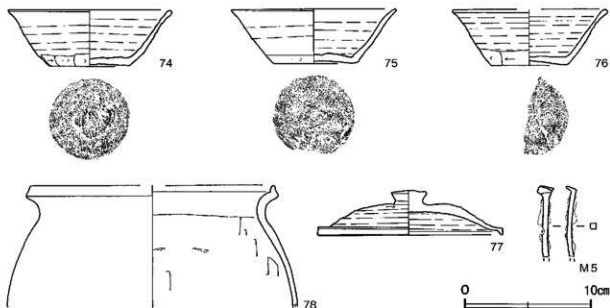
- | | | | |
|----------|----------------------------|-----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・粘土粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量 | 11 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック中量、炭化物少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 黒褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 におい黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化物中量 | 13 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量 | 14 におい黄褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック中量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 暗褐色 | 炭化粒子多量、ロームブロック中量、焼土粒子少量 | 16 褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 17 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| | | 18 灰黄褐色 | ローム粒子多量 |
| | | 19 におい黄褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片183点(坏5、甕178)、須恵器片81点(坏33、高台付坏1、蓋11、盤2、壺1、甕33)、金属製品1点(釘)のほか、縄文土器片5点(深鉢)、古墳時代の土師器片2点(高坏)、瓦質土器片1点(鉢)、陶器片5点(擂鉢1、壺3、甕1)、鉄滓1点(22.75g)、石核1点が、全体の覆土層から床面にかけて出土している。75・77は竈の右袖付近から、74・76は貯蔵穴の底面から出土しており、それぞれ遺棄されたものとみられる。M5が、P3脇の掘方覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第43図 第3191号竪穴建物跡実測図(2)



第44図 第3191号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3191号竪穴建物跡出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
74	須恵器	坏	12.7	4.5	6.4	長石・石英・ 雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	貯蔵穴底面 PL15	90% 新治窯
75	須恵器	坏	12.9	4.4	6.3	長石・石英・ 雲母	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	覆土下層	80% 新治窯 PL15
76	須恵器	坏	[12.0]	4.4	[6.1]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ナデ	貯蔵穴底面	40% 新治窯
77	須恵器	蓋	14.5	3.6	-	長石・石英	灰	普通	天弁部回転ヘラ削り	覆土下層	70% 新治窯 PL16
78	土師器	壺	[19.3]	(9.8)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	に30%黄鉄	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	釘	(5.7)	(1.2)	(0.4)	(5.9)	鉄	先端部欠損 断面方形の様状	掘方覆土中	PL22

第3192号竪穴建物跡(第45～47図 PL10・11)

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のC6h9区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第7495号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.99m、短軸は2.66mの長方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁は高さ27～40cmで、ほぼ直立している。

床 平坦である。ほぼ全面が踏み固められている。北壁及び東壁の一部を除く壁下には、壁溝が巡っている。

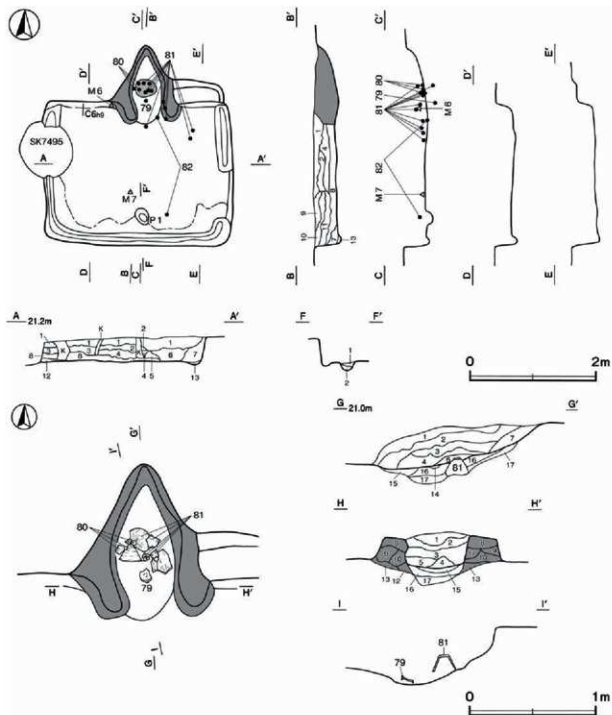
棚状施設 北壁東部に設置されている。幅0.8m、奥行0.3mで、地山を掘り込んでいる。確認面からの深さは10cmで、床面から高さは25cmである。底面は平坦である。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで124cmで、燃焼部幅は50cmである。全体を楕円形に床面から14cm掘りくぼめ、第14～17層を埋土している。袖部は地山を8cmほど掘り下げ、粘土粒子や焼土粒子・炭化粒子を含んだ第8～13層を積み上げて構築している。火床面は第16層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に94cm掘り込まれ、火床部から外傾している。火床部には甕の体部下半

が逆位で据えられており、支脚として使用されていたと考えられる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 11 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 濃い黄褐色 | 粘土粒子多量、炭化粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子多量、粘土粒子中量、炭化粒子少量 | 14 明赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子中量 | 15 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物多量、ロームブロック中量 |
| 6 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子少量 | 16 黒褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、粘土粒子少量 | 17 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | | |
| 9 黒褐色 | 粘土粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |
| 10 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | | |



第45図 第3192号竈穴建物跡実測図

ピット P 1は深さ15cmで、南壁際の中央部付近に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1・2層は柱抜き取り後の堆積層である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量 2 黒褐色 ローム粒子少量

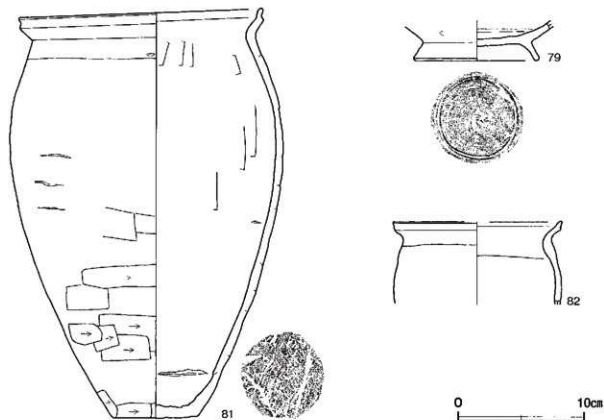
覆土 13層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

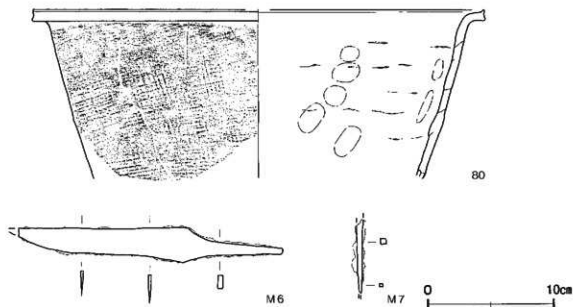
- | | | | |
|---------|-------------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 2 にい黄褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子・粘土粒子少量 | 8 黒色 | 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 粘土粒子多量、ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 11 にい黄褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 | 粘土粒子多量、ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 12 黒褐色 | ローム粒子多量 |
| | | 13 黒褐色 | ロームブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片183点(坏23、高台付坏1、甕158、小形甕1)、須恵器片8点(坏1、鉢1、甕6)、金属製品2点(刀子、釘)が、全体の覆土中層から床面にかけて出土している。79は竈火床部の掘方から正位で出土している。81は竈の火床面に体部下半を逆位にして据えられた状態で出土しており、支脚に転用していたと考えられる。その体部上半は、竈の内部や周辺から出土している。80は竈の火床面から、82は竈付近の床面と出入口付近の覆土中層から、M 6は竈の左袖付近の覆土中層、M 7は出入口付近の床面から、それぞれ出土しており、埋め戻しの際に投棄されたとみられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第46図 第3192号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第47図 第3192号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第3192号竪穴建物跡出土遺物観察表(第46・47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
79	土師器	高台付耳	-	(3.2)	9.5	長石・石英・ 粘土	明黄褐色	普通	体部下端回転へう張り 底部回転へう張り	竈跡方	30%
80	須恵器	鉢	(35.8)	(13.4)	-	長石・石英・ 赤母	浅黄	普通	口縁部外・内面積ナテ 体部外面格子状叩き 内面ナテ 部面積	竈火床面	10% PL21
81	土師器	甕	19.0	32.5	6.7	長石・石英・ 赤母・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部外・内面積ナテ 体部外面へう張り 内面へうナテ 底部木重痕	竈火床面 覆土下層	80% PL19
82	土師器	小形甕	(13.2)	(6.6)	-	長石・石英・ 赤母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面積ナテ 体部外・内面ナテ	覆土中層・ 床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 6	刀子	(21.0)	2.8	0.4	(4.28)	鉄	刃先欠損 刃部断面三角形 茎部長方形	覆土中層	PL22
M 7	釘	(5.9)	(0.6)	(0.4)	(3.6)	鉄	頭部・先端部欠損 断面方形の棒状	床面	

第3193号竪穴建物跡(第48図 PL11)

調査年度 平成25年度

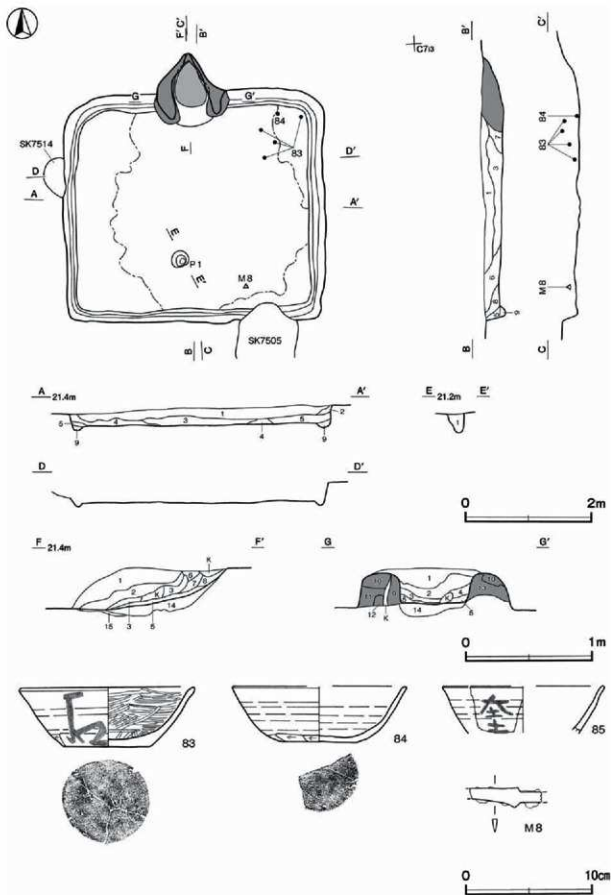
位置 14区西部のC7区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第7505・7514号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.17m、短軸3.66mの長方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁は高さ23~29cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈の焚口部から出入口にかけて踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は54cmである。袖部は、地山の上に粘土粒子や焼土粒子・炭化粒子を含んだ第9~13層を積み上げて構築している。火床部は全体を楕円形に床面から10cm掘りくぼめ、第14・15層を埋土して構築されている。火床面は第14層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ、火床部から外傾している。



第48图 第3193号竖穴建物跡・出土遺物実測図

電土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック微量	8	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2	黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量、ロームブロック・炭化物少量	9	暗褐色	焼土粒子多量、炭化粒子・粘土粒子少量
3	暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子多量、炭化物少量	10	黒褐色	ロームブロック多量、炭化粒子中量、粘土粒子少量
4	灰黄褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量	11	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、粘土粒子少量	12	暗褐色	粘土粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
6	黒褐色	炭化粒子・粘土粒子中量、焼土粒子少量	13	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	14	暗褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量
			15	褐色	ローム粒子・焼土粒子中量

ピット P1は深さ32cmで、南壁際の中央部付近に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1層は、柱抜き取り後の堆積層である。

ピット土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物微量
---	-----	------------------------

覆土 9層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	黒褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量	7	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	8	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子中量、焼土粒子少量	9	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子中量			

遺物出土状況 土師器片165点(坏24、甕141)、須恵器片12点(坏6、高台付坏2、蓋1、甕3)、金属製品1点(刀子)、礫1点が、東部を中心に覆土上層から下層にかけて出土している。83は、北東コーナー一部の覆土上層から下層にかけて外側から流れ込んだ様相を示して出土しており、埋没の過程で混入したものとみられる。84は覆土下層、M8は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。

第3193号竪穴建物跡出土遺物観察表(第48図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置
83	土師器	坏	136	4.8	6.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘクリ内面ヘクリ跡 底部一方のヘクリ 墨書「石」	90%	PL16 覆土上～下層
84	須恵器	坏	[135]	4.4	[60]	長石・石英	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘクリ 底部一方のヘクリ	30%	竪穴底
85	須恵器	坏	[128]	[3.8]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶ黄褐	普通	体部ロコナデ 墨書「産□」	5%	竪穴底 PL21 覆土中

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置
M8	刀子	(5.7)	1.5	0.4	(6.4)	鉄	刃先・基部欠損 刃部断面三角形	覆土中層

第3194号竪穴建物跡(第49～51図 PL12・13)

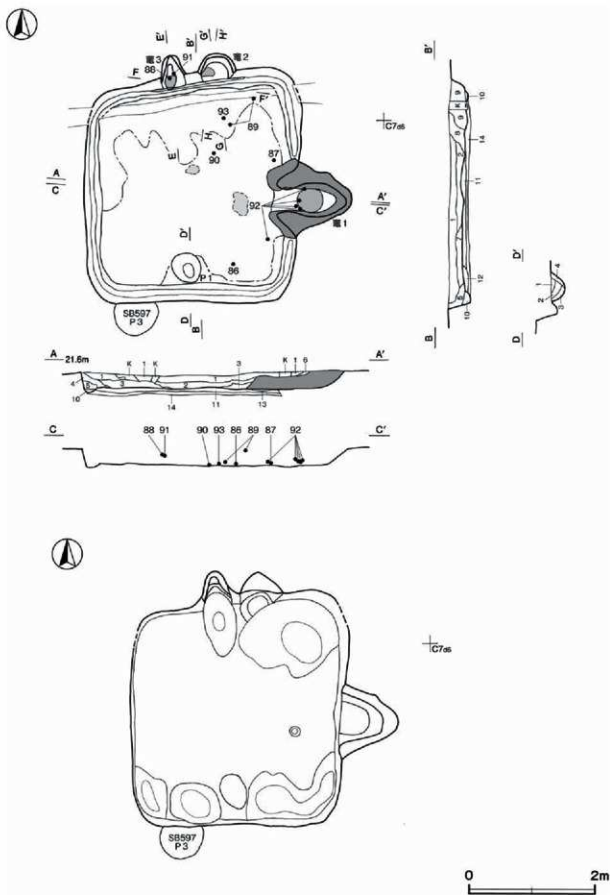
調査年度 平成25年度

位置 14区西部のC7d5区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

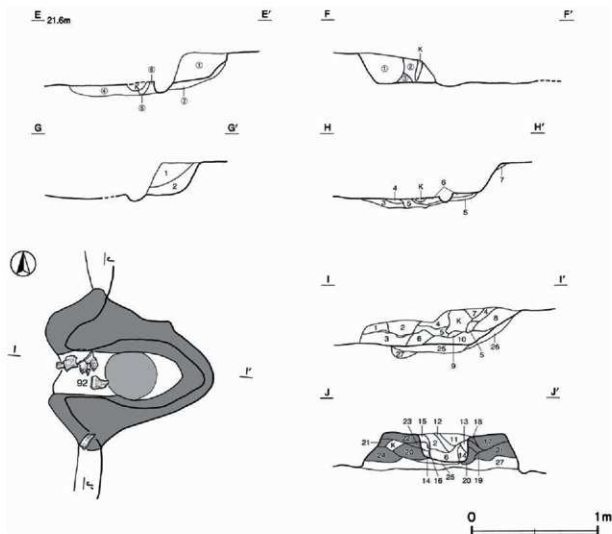
重複関係 第597号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.71m、短軸3.45mの方形で、主軸方向はN-89°-Eである。壁は高さ22～24cmで、ほぼ直立している。

床 やや凹凸がある貼床で、ほぼ全体が踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。中央部に大熱を受けたと考えられる焼土範囲が確認された。貼床は、北西部を除く各コーナー周辺に確認面から38～46cmの



第49图 第3194号竖穴建物跡実测图(1)



第50図 第3194号竈穴建物跡実測図(2)

深さで凹凸のある不整楕円形状に掘り込み、ロームブロック主体の第11～14層を8～14cm埋土し構築されている。

竈 3か所。竈1は東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は38cmである。壁溝を第27層で埋め戻し、壁外に向かって不整楕円形に床面から6cmほど掘りくぼめ第25・26層を埋土している。袖部は、埋土した第27層の上に粘土粒子や焼土粒子・炭化粒子を含んだ第17～24層を積み上げて構築されている。火床面は第25層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に84cm掘り込まれ、火床部から外傾している。竈2は北壁中央部のやや東寄りに付設されている。煙道部の掘り込みと火床部、掘方が確認できた。楕円形に床面から7cmほど掘りくぼめ第3～6層を埋土している。火床面は第4～6層上面で、火熱を受けてわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、火床部から外傾している。竈3は北壁中央部のやや西寄りに付設されている。煙道部の掘り込みと火床部、掘方が確認できた。楕円形に床面から9cmほど掘りくぼめ第④～⑦層を埋土している。火床面は第⑦層上面で、火熱を受けてわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ、火床部から外傾している。土層の観察と遺存状態から、竈3から竈2へ、竈2から竈1へ作り替えられている。

竈1土層解説

1	暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	13	灰黄褐色	粘土粒子多量、焼土粒子少量
2	黒褐色	焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子少量	14	暗褐色	ローム粒子多量、粘土粒子中量、炭化粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	15	にぶい黄褐色	粘土粒子多量、焼土粒子少量
4	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量	16	暗褐色	焼土粒子少量、粘土ブロック微量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	17	暗褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
6	褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量	18	暗褐色	粘土粒子中量、炭化粒子少量
7	暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量	19	褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量
8	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量	20	暗褐色	焼土粒子多量、炭化粒子・粘土粒子少量
9	にぶい黄褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量	21	暗褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
10	暗褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量	22	暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
11	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	23	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
12	黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量、炭化粒子少量	24	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量

竈2土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	4	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	5	暗褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	6	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量

竈3土層解説

①	暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子中量	⑤	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量
②	暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子中量、粘土粒子少量	⑥	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
③	褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量	⑦	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量
④	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量			

ピット P1 は深さ24cmで、南壁際の中央部付近に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1～3層は柱抜き取り後の堆積層で、第4層は埋土である。

ピット土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量

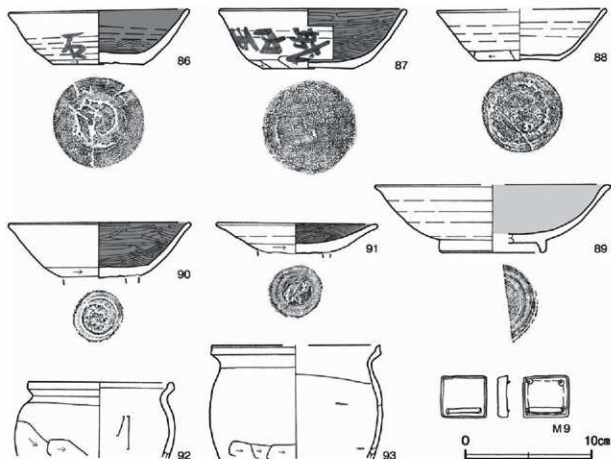
覆土 10層に分层できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第11～14層は、貼床の構築土である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量	7	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子中量、焼土ブロック少量	8	暗褐色	焼土粒子多量、ロームブロック中量、炭化粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	9	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4	黒褐色	ロームブロック中量	10	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子多量	11	暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子中量
6	暗褐色	炭化物・粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量	12	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
			13	褐色	ロームブロック・炭化粒子中量
			14	暗褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片184点(坏35、高台付坏2、高台付皿2、甕143、小形甕2)、須恵器片48点(坏21、甕27)、灰釉陶器片3点(椀2、壺1)、土製品1点(支脚)、金属製品1点(巡方)、雲母片岩3点が、全体の覆土上層から床面にかけて出土している。86は南部から逆位で、87は東部から正位で、90は中央部から正位で、それぞれ床面から遺棄された状態で出土している。89は、北部の竈2の周辺の覆土上層から下層にかけて出土している。92は、竈1の火床部から竈廃絶時に遺棄された状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。竈の作り替えが2回されている。最初に北壁中央部やや西寄りに付設された竈3から北壁中央部やや東寄りの竈2に、作り替えがされた。次に、竈2廃絶後、東壁中央部の竈1へ2回目の作り替えがされている。



第51図 第3194号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3194号竪穴建物跡出土遺物観察表(第51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
86	土師器	坏	14.2	4.4	7.2	長石・石英	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ割り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ切り縁ナデ 磨き「石」	床面	95% PL.16
87	土師器	坏	14.6	4.8	7.1	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方のヘラ割り 磨き「城高土」	床面	80% PL.16
88	須恵器	坏	[133]	4.1	6.4	長石・石英・ 赤色粒子	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方のヘラ割り	覆3覆土中層	50% 新治原 PL.16
89	灰釉陶器	碗	[18.4]	5.4	[8.2]	長石	灰白 灰キープ	普通	体部内面灰釉施し磨き 底部回転ヘラ割り 底部回転ヘラ切り	覆土上層 下層	30% PL.17 直径90露穴
90	土師器	高台付坏	14.2	(4.4)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ割り 内面ヘラ磨き	床面	50% PL.16
91	土師器	高台付坏	12.5	(2.4)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ割り 内面ヘラ磨き	覆3覆土中層	70% PL.18
92	土師器	小形壺	11.3	(6.1)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ割り 内面ヘラナデ	覆1覆土下層	30%
93	土師器	小形壺	[13.2]	(9.0)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ割り 内面ナデ	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 9	箔方	3.4	3.7	1.0	(21.8)	銅	脚新4か所 透かし孔 2.5 × 0.4cm	覆土中	PL.22

表4 平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	構造	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考		
				長さ×幅(m)	高さ(cm)			土柱	出入口	ピット					竈	竈穴
3171	D 761	N - 73° - W	[長方形]	4.25 × (2.9)	22 - 25	平照	一部	-	-	-	-	自然	土師器、須恵器、 石器、金属製品、 土師器、須恵器、 灰釉陶器、石器、 金属製品	9世紀中葉	SE3165 → 本跡	
3180	E 619	N - 105° - E	[長方形]	3.41 × 3.08	31 - 50	平照	ほぼ 全現	-	-	3	東壁	1	自然	土師器、須恵器、 石器、金属製品	9世紀中葉	

番号	位置	主軸方向	平面形	視 視	壁 高	床 面	内 部 施 設				覆 土	主な出土遺物	時 期	備 考		
				長軸×短軸 (m)			(cm)	柱穴	土入口	ピット					重	貯蔵穴
3185	E 6a9	N-114°-E	方形	3.16 × 3.14	36-58	平坦	全面	-	-	-	兼壁	-	白土	土師器、須恵器、 粘土埴、鉄滓、金 銅製品	9世紀中葉	
3186	E 7c8	N-103°-E	[方形]	[3.86] × [3.44]	-	ほぼ 平坦	-	-	-	-	兼壁	-	-	土師器、須恵器、 佐雑陶器	9世紀中葉	S1381 → 本跡
3189	D 6g9	N-5°-W	ほぼ圆形	4.00 × (3.88)	2-10	平坦	ほぼ 全面	4	1	-	北壁	-	人為	土師器、金銅製品	9世紀代	本跡 → SD620
3190	D 6f9	N-16°-E	長方形	3.54 × 2.80	10-24	平坦	全面	4	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、 土師器、金銅製品	10世紀前半	
3191	D 6c9	N-1°-W	方形	5.32 × 5.00	14-28	陥没 平坦	全面	4	1	-	北壁	1	人為	土師器、須恵器、 金銅製品	9世紀中葉	
3192	C 6i8	N-2°-W	長方形	2.99 × 2.66	27-40	平坦	ほぼ 全面	-	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、 金銅製品	9世紀中葉	籠裏に楕円形土師 器 → SR7495
3193	C 7i2	N-4°-W	長方形	4.17 × 3.66	23-29	平坦	全面	-	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、 土師器、金銅製品	9世紀後半	本跡 → SR7505・ 7514
3194	C 7d5	N-89°-E	方形	3.71 × 3.45	22-24	陥没 中心 凹凸	全面	-	1	-	北壁2 兼壁1	-	人為	土師器、須恵器、 佐雑陶器、金銅製 品	9世紀後半	SE597 → 本跡

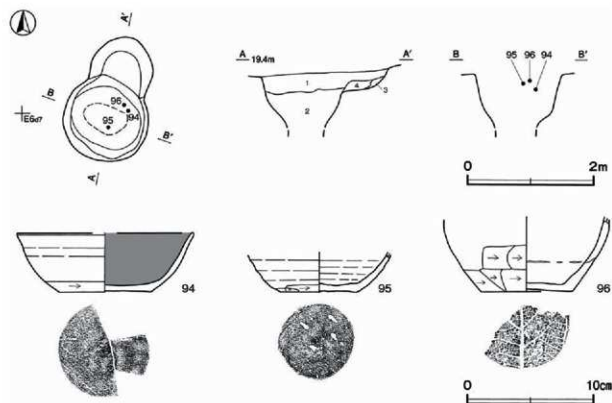
(2) 井戸跡

第 248 号井戸跡 (第 52 図 PL13)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区南西部の E 6c7 区、標高 19 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 確認面は長径 1.37 m、短径 1.28 m の円形である。確認面から楕円形に深さ 28 cm 掘りくぼめた後、ロート状に 50 cm ほど掘り下げ、さらに径 0.68 m の円筒状に掘り下げている。深さ 100 cm ほど掘り下げた時点で、湧水と崩落のおそれがあることから調査を断念したため、下部の構造は不明である。楕円形に掘りくぼめた部分は、掘り下げる際の足場になっていた可能性がある。



第 52 図 第 248 号井戸跡・出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子・焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片24点(坏10、甕14)、須恵器片4点(坏2、甕2)が出土している。94・95・96は覆土上層から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものとみられる。

所見 埋め戻された時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第248号井戸跡出土遺物観察表(第52図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
94	土師器	坏	[138]	4.7	7.2	灰石・石英・ 長石	明黄褐色	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部ナデ	覆土上層	40%
95	須恵器	坏	-	(3.2)	5.9	灰石・石英・ 長石	灰	普通	体部下端手持ヘラ削り 底部一方のヘラ削り	覆土上層	50% 新治窯
96	土師器	甕	-	(6.0)	[7.2]	灰石・石英・ 長石	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ 底部木葉直	覆土上層	10%

第249号井戸跡(第53図 PL13)

調査年度 平成25年度

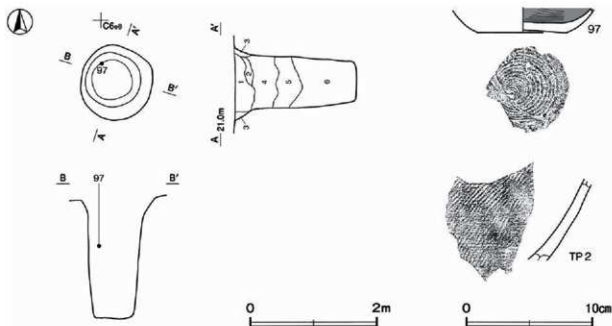
位置 14区西部のC6e8区、標高21mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 確認面は、径1.20mの円形である。確認面から円筒状に深さ195cm掘り下げ、底面はほぼ平坦である。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子中量 |
| 2 黒色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子中量、焼土ブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |



第53図 第249号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片4点(坏1, 甕3), 須恵器片2点(壺, 鉢), 礫3点が出土している。97は覆土中層から, TP 2は覆土中から出土している。それぞれ, 埋め戻しの過程で投棄されたものとみられる。

所見 埋め戻された時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第 249 号井戸跡出土遺物観察表 (第 53 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
97	土師器	坏	-	(20)	[7D]	長石・石英・ 珪石	橙	普通	体部内面へう磨き	底部回転未切り	覆土中層	20%
TP 2	須恵器	鉢	-	-	-	長石	灰青 褐色	普通	体部外面斜位の平行印き	内面ナデ	覆土中	東海道 埋21

表5 平安時代の井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	横面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
248	E 6c7	-	円形	1.37 × 1.28	(100)	-	ロート状	人為	土師器, 須恵器	
249	C 6e8	-	円形	1.20 × 1.20	195	-	直立	人為	土師器, 須恵器, 礫	

(3) 土坑

第 7471 号土坑 (第 54 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の C 6j8 区, 標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.10 m, 短径 0.98 m の楕円形で, 長径方向は N - 67° - W である。深さは 22 cm で, 底面は平坦である。壁は外傾している。

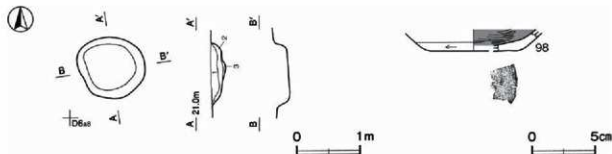
覆土 3 層に分層できる。第 3 層は, 黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第 1・2 層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 3 黒色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片7点(坏3, 甕4)が出土している。98は覆土中から出土しており, 周囲からの土砂の流入の過程で混入したものとみられる。

所見 時期は, 出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から, 9世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり, 有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第 54 図 第 7471 号土坑・出土遺物実測図

第 7471 号土坑出土遺物観察表 (第 54 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
98	土師器	坏	-	(1.7)	(7.0)	灰石・石英・ 磁石	にぶい肌	普通	体部下通回転へう振り 底部回転へう振り 内面へう磨き	覆土中	5%

第 7474 号土坑 (第 55 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の C 67 区、標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.10 m、短径 1.03 m の円形である。深さは 24 cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

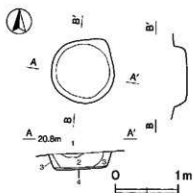
覆土 4 層に分層できる。第 4 層は、黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第 1～3 層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 3 点 (甕) が出土している。遺物は細片のため図示できなかったが、土師器甕片は、口縁端部がつまみ上げられている。

所見 時期は、出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から、9 世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり、有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第 55 図 第 7474 号土坑実測図

第 7475 号土坑 (第 56 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の C 68 区、標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.12 m、短径 0.99 m の楕円形で、長径方向は N - 87° - W である。深さは 30 cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

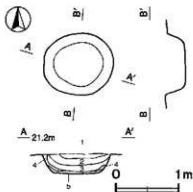
覆土 5 層に分層できる。第 5 層は、黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第 1～4 層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量
- 5 黒色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 2 点 (坏) が出土している。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から、9 世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり、有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第 56 図 第 7475 号土坑実測図

第 7476 号土坑 (第 57 図 PL14)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の C 6 j9 区、標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径 0.98 m、短径 0.92 m の円形である。深さは 29 cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

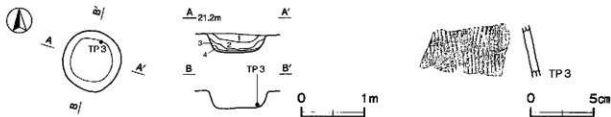
覆土 4 層に分層できる。第 4 層は、黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第 1～3 層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量 | 4 黒色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片 4 点 (坏 2、甕 2)、須恵器片 1 点 (甕) が出土している。TP 3 は覆土下層から出土しており、周囲からの土砂の流入の過程で混入したものとみられる。

所見 時期は、出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から、9 世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり、有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第 57 図 第 7476 号土坑・出土遺物実測図

第 7476 号土坑出土遺物観察表 (第 57 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 3	須恵器	甕	長石・雲母	黒灰	外部外面格子状叩き 内面ナデ	覆土下層	5% 調査票 PL21

第 7477 号土坑 (第 58 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の C 6 i8 区、標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径 0.84 m、短径 0.78 m の円形である。深さは 15 cm で、底面は皿状である。壁は外傾している。

覆土 3 層に分層できる。第 3 層は、黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第 1・2 層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

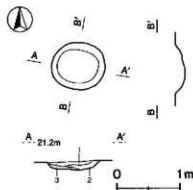
土層解説

- | |
|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 3 黒色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片 3 点 (坏 1、甕 2) が出土している。遺物は細片のため図示できなかったが、土師器坏片はロクロ成形されている。

所見 時期は、出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から、9 世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり、有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。

第 58 図 第 7477 号土坑実測図



第 7486 号土坑 (第 59 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西部の C 6 8 区、標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 7493 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径は 1.11 m、短径は 0.98 m しか確認できなかった。楕円形で、長径方向は N - 42° - W と推測される。深さは 31 cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

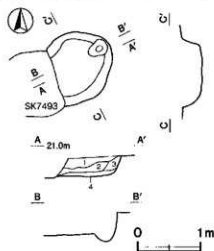
覆土 4 層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片 6 点 (甕)、須恵器片 1 点 (甕) が出土している。遺物は細片のため図示できなかったが、須恵器甕片は体部外面に平行叩きが施されている。

所見 時期は、出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から、9 世紀代と考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第 59 図 第 7486 号土坑実測図

第 7493 号土坑 (第 60 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14 区西南部の C 6 8 区、標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 7486 号土坑を掘り込んでいる。

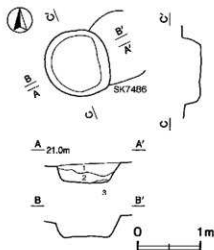
規模と形状 長径 1.15 m、短径 1.05 m の円形である。深さは 30 cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 3 層に分層できる。第 3 層は、黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第 1・2 層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐色 ロームブロック多量
- 3 黒 色 ローム粒子中量

所見 遺物は出土していないが、時期は、遺構の形状及び周囲の遺構との関係から、9 世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり、有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第 60 図 第 7493 号土坑実測図

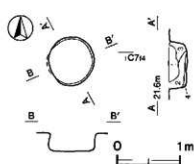
第 7510 号土坑 (第 61 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 14区西部のC7B3区、標高21mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.74m、短径0.68mの円形である。深さは30cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

覆土 4層に分層できる。第4層は、黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第1～3層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。



第61図 第7510号土坑実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームアブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片5点(甕)、須恵器片1点(蓋)が出土している。

遺物は細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から、9世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり、有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。

第7511号土坑 (第62図 PL14)

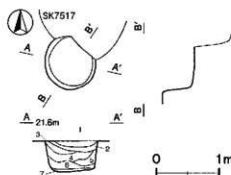
調査年度 平成25年度

位置 14区南西部のC7D1区、標高21mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第7517号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径は0.86mで、短径は0.70mしか確認できなかった。円形と推測される。深さは50cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

覆土 7層に分層できる。第7層は、黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第1～6層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。



第62図 第7511号土坑実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ロームアブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームアブロック・炭化粒子中量
- 3 黒褐色 ロームアブロック・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ロームアブロック・炭化粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 7 黒色 ローム粒子中量

所見 遺物は出土していないが、時期は、遺構の形状及び周囲の遺構との関係から、9世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり、有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。

第7515号土坑 (第63図)

調査年度 平成25年度

位置 14区南西部のC6e0区、標高21mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.70m、短径0.67mの円形である。深さは19cmで、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層できる。第4層は、黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第1～3層は周囲から流れ

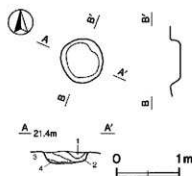
込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 黒色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片4点(坏2, 甕2), 須恵器片1点(坏)が出土している。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から, 9世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり, 有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第63図 第7515号土坑実測図

第7516号土坑 (第64図)

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のC6e9区, 標高21mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.97m, 短径0.90mの円形である。深さは23cmで, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

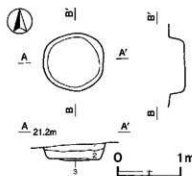
覆土 3層に分層できる。第3層は, 黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第1・2層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 黒色 ローム粒子・炭化粒子中量

遺物出土状況 土師器片12点(坏2, 甕10)が出土している。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から, 9世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり, 有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第64図 第7516号土坑実測図

第7518号土坑 (第65図)

調査年度 平成25年度

位置 14区南西部のC6j0区, 標高21mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.03m, 短径1.02mの円形である。深さは25cmで, 底面は平坦である。壁は外傾している。

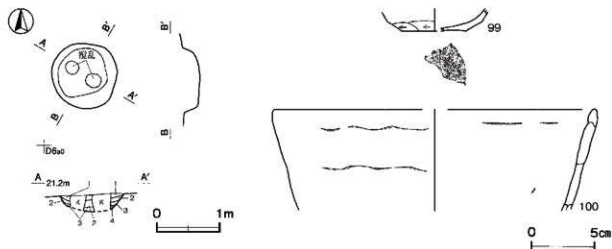
覆土 4層に分層できる。第4層は, 黒色土で有機物が堆積したものとみられる。第1~3層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片6点(坏2, 甕3, 瓶1), 須恵器片2点(坏)が出土している。99・100はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器と遺構の形状及び周囲の遺構との関係から、9世紀代と考えられる。最下層の黒色土の堆積が顕著であり、有機物が堆積したものと考えられる。屋外における貯蔵施設と考える。



第65図 第7518号土坑・出土遺物実測図

第7518号土坑出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
99	須恵器	坏	-	(1.8)	[5.1]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持へう削り 底部へう削り	覆土中	5%
100	土師器	瓶	[25.4]	(8.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	5%

表6 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
7471	C 6/8	N-67'-W	楕円形	1.10 × 0.98	22	平坦	外傾	自然	土師器	
7474	C 6/7	-	円形	1.10 × 1.03	24	平坦	外傾	自然	土師器	
7475	C 6/8	N-87'-W	楕円形	1.12 × 0.99	30	平坦	外傾	自然	土師器	
7476	C 6/9	-	円形	0.98 × 0.92	29	平坦	外傾	自然	土師器、須恵器	
7477	C 6/8	-	円形	0.84 × 0.78	15	凹状	外傾	自然	土師器	
7486	C 6/8	N-42'-W	[楕円形]	1.11 × (0.98)	31	平坦	外傾	自然	土師器、須恵器	本跡→SK7493
7493	C 6/8	-	円形	1.15 × 1.05	30	平坦	外傾	自然		SK7486→本跡
7510	C 7/3	-	円形	0.74 × 0.68	30	平坦	直立	自然	土師器、須恵器	
7511	C 7/1	-	[円形]	0.86 × (0.70)	50	平坦	直立	自然		本跡→SK7517
7515	C 6/e0	-	円形	0.70 × 0.67	19	平坦	ほぼ直立	自然	土師器、須恵器	
7516	C 6/e9	-	円形	0.97 × 0.90	23	平坦	ほぼ直立	自然	土師器	
7518	C 6/j0	-	円形	1.03 × 1.02	25	平坦	外傾	自然	土師器、須恵器	

(4) 遺物包含層

第4号遺物包含層（第66～68図 PL14）

調査年度 平成25年度

位置 14区西部のD 6a4区からD 6j6区にかけて、標高20mほどの谷部に位置している。

確認状況 表土を除去した段階で、14区の西部に黒色土が堆積した谷部を確認した。その一部に、土師器片



第 66 图 第 4 号遺物包含層実測図

や須恵器片を主体とする遺物の広がりを確認したことから、遺物包含層とした。遺物包含層は、さらに調査区域外に広がっているものとみられる。

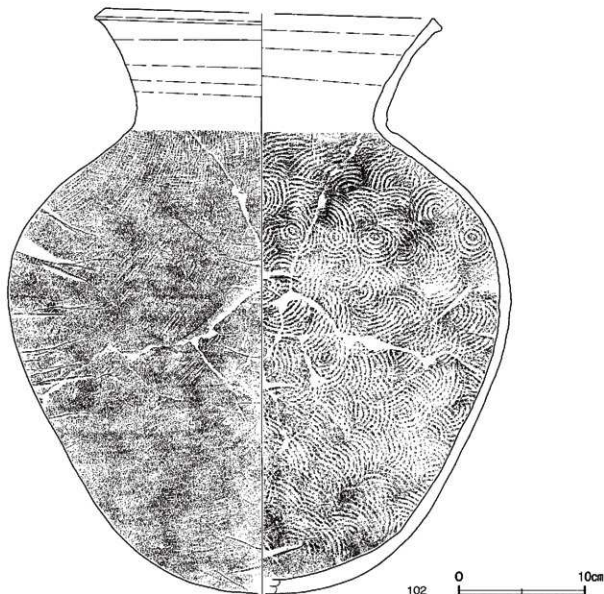
調査の方法 遺跡全体を網羅した広域グリッドを利用し、D 6a4区を北西隅の起点として包含層の確認範囲に4mの基本グリッドを設定した。グリッドごとに堆積土を掘り下げ、遺物の出土地点を記録した。

覆土 4層に分層できる。台地の斜面部から、谷部に向かって傾斜に沿って堆積した様相を示している。

土層解説

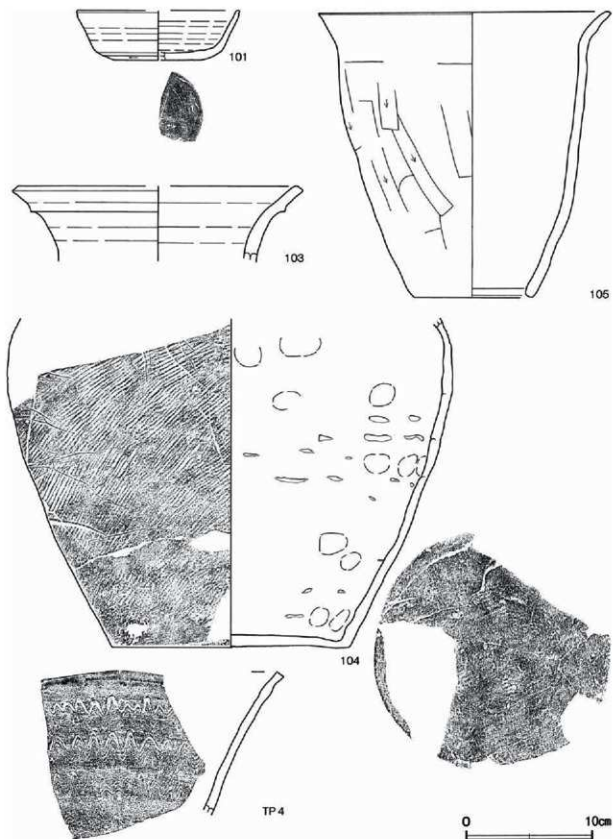
- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------------|
| 1 黒色 | ロームブロック少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)、土師器片516点(坏24、高台付坏1、甕490、瓶1)、須恵器片166点(坏92、高台付坏2、蓋6、盤2、高盤1、壺4、甕58、瓶1)、灰釉陶器片1点(碗)、土師質土器片2点(内耳鍋)、磁器片1点(碗)、金属製品1点(不明)が出土している。多くの土器は破片であり、台地上の土砂が谷に流入する過程で混入したものと考えられる。102はほぼ完形で出土しており、使用を終えた段階で谷に廃棄されたとみられる。104は破片が広く散らばっており、投棄されたものと考えられる。



第67図 第4号遺物包含層出土遺物実測図(1)

所見 遺物は縄文時代から中世にかけて確認され、長期に渡って周辺の土砂が流入し、谷が埋没していったものとする。その中で、当遺物包含層は、出土土器から8世紀前葉から9世紀前葉に形成されたと考えられる。



第68図 第4号遺物包含層出土遺物実測図(2)

第4号遺物包含層出土遺物観察表(第67・68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
101	須恵器	坏	[127]	4.0	[68]	長石・石英	青灰	普通	体部下縁回転へう割り 底部回転へう割り へう割(土×)	D 6 i3	30% 新治産
102	須恵器	甕	[260]	45.7	-	長石・石英	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位の平行叩き 後斜位の平行叩き 体部外面斜位の平行叩き 内面同心円文の当具痕	D 6 i4	90% 新治産 PL18
103	須恵器	甕	[21.9]	(6.0)	-	長石・石英・ 細礫	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ	D 6 a5	5% 新治産
104	須恵器	甕	-	(26.1)	18.8	長石・石英・ 赤色胎土	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面指頭圧痕 底部ナデ	D 6 i4	30% 新治産
105	土師器	瓶	22.8	22.7	9.4	長石・石英・ 赤色胎土	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	D 6 i3	90% PL20
TP 4	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・ 赤胎土	灰黄褐色 腐食層	普通	口縁部外・内面横ナデ 外面3条の細線状文 3段拍文	D 6 a3	新治産 PL21

4 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、火葬施設1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

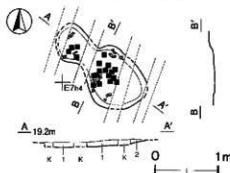
火葬施設

第7467号土坑(第69図)

位置 14区南西部のE7g4区、標高19mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 平面形は呂字状で、主軸方向はN-128°-Eである。通風孔の規模は長さ0.70mで、上幅0.58m、下幅0.43mである。確認面からの深さは8cmで、底面は皿状を呈し、燃焼部に向かってわずかに傾斜している。燃焼部は南北軸(横幅)1.07m、東西軸(奥行き)0.85mの隅丸長方形で、主軸と鋭角(20度)に交わっている。確認面からの深さは10cmで、底面はほぼ平坦である。壁は緩やかに傾斜している。

覆土 2層に分層できる。炭化材・ローム粒子・焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。



第69図 第7467号土坑実測図

土層解説

- 1 黒色 炭化材多量、骨片中量、焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化材粒子・骨片少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片3点(甕)が出土している。周囲から混入したもので、遺構に伴うものではない。

所見 底面に炭化材や焼土、骨片が堆積した火葬施設である。時期は、遺構の形状や周囲の火葬施設・墓坑との関係から、室町時代と考えられる。周囲の遺構については、「第280集」を参照されたい。

5 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、溝跡2条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

溝跡

第139号溝跡(第70図)

調査年度 本跡は、14区南西部のD7i4区から、南部のE8h8区にかけて確認した。南部のE7i8区からE8h8区を平成16・17年度に調査し、「第280集」にて報告している。D7i4区からE7i8区を平成25年度に調査した。

位置 14区南西部のD7i4区から南部のE8h8区、標高20～21mほどの平坦な台地上から斜面部にかけて位置している。

重複関係 第3184号竪穴建物跡を掘り込み、第7415号土坑、第520号溝に掘り込まれている。

規模と形状 D7i4区から西方向(N-73°-W)に直線状に延び、D7h1区で南方向(N-166°-W)に屈曲している。さらに、E7a1区で東方向(N-110°-E)に屈曲して直線状に延びる。E7b5区とE7c5区でクランク状に屈曲し、さらにE7e8区とE7f8区でクランク状に屈曲し、前回調査区へと続いている。確認できた長さは総延長109.6mで、上幅0.24～1.44m、下幅0.08～0.29m、深さ19～97cmである。断面形はU字状で、中央部が深く掘り込まれている。壁は外傾している。

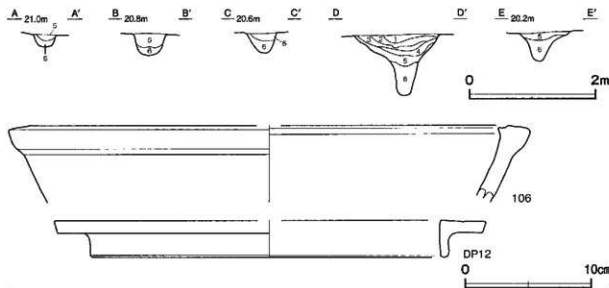
覆土 6層に分層できる。周囲から流れ込んだ様相を示しており、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)、土師器片90点(坏4、甕86)、須恵器片8点(坏3、甕5)、土師質土器片10点(鍋9、鉢1)、瓦質土器片4点(鉢)、陶器片14点(碗11、播鉢3)、磁器片19点(碗9、皿10)、土製品1点(磁鈔)、金属製品1点(煙管)、鉄滓1点(49.85g)、粘土塊1点、礫1点が出土している。106・DP12はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 南部については、『第280集』を参照されたい。墓域の区画や、傾斜面の根切り溝の可能性はある。時期は、出土土器と既調査状況から中世以降に機能し、18世紀代に埋没したと考えられる。



第70図 第139号溝跡・出土遺物実測図

第139号溝跡出土遺物観察表(第70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
106	土師質土器	鉢	[38.0]	(6.1)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口径部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	5%
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	出土位置	備考		
DP12	磁鈔	[34.1]	[27.2]	3.0	(61.5)	長石・石英	にぶい黒	外・内面ナデ	覆土中		

第520号溝跡（第71図）

調査年度 本跡は、14区中央部のD8e4区から、西部のD7h2区にかけて確認した。中央部のD8e4区からD7a4区を平成21・24年度に調査し、『第390集』にて報告している。西部のD7a4区からD7h2区を平成25年度に調査した。

位置 14区中央部のD8e4区から西部のD7h2区、標高21mほどの平坦な台地上から斜面部にかけて位置している。

重複関係 第3189号竪穴建物跡、第7472号土坑、第139号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 前回調査区から続くD7a4区でクランク状に屈曲し、西方向（N-77°-W）に直線状に伸びている。C6j8区で南方向（N-170°-W）に屈曲し、直線状にD6g7区まで伸びている。D6g7区で東方向（N-114°-E）に屈曲しD7h2区まで伸び、第139号溝跡を掘り込んでいる。確認できた長さは総延長1186mで、上幅0.32～1.84m、下幅0.10～0.68m、深さ5～56cmである。断面形は浅いU字状で、緩やかに立ち上がっている。

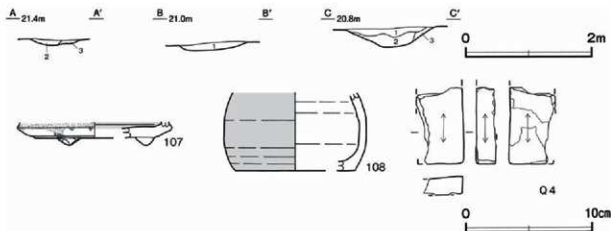
覆土 3層に分層できる。周囲から流れ込んだ様相を示しており、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 3 暗 褐色 ロームブロック多量
2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量

遺物出土状況 土師器片53点（高台付環1、甕52）、須恵器片4点（甕）、土師質土器片3点（鍋）、陶器片6点（碗4、香炉1、壺1）、瓦片2点、石器1点（砥石）、礫1点が、散在した状態で出土している。107・Q4はD6a0区のそれぞれ覆土中層と底面から出土している。108はD6h9区の覆土中層から出土している。

所見 中央部については、『第390集』を参照されたい。地境の根切りとともに、北部から南部に傾斜していることから排水を兼ねた溝と考えられる。時期は18世紀前葉に機能を終えたと考えられる。



第71図 第520号溝跡・出土遺物実測図

第520号溝跡出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考
107	陶器	香炉	-	(1.8)	(9.4)	長石 灰白	三足。	灰輪	瀬戸・美濃系	覆土中層	10%
108	陶器	壺	-	(6.2)	(9.5)	長石 に4い橙	外・内面ロケロナデ	鉄輪	在池。	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	砥石	(6.1)	3.7	1.6	(52.7)	凝灰岩	紙面3面	底面	PL21

表7 江戸時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	縦 横			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(m)
139	D7H-E8跡	N-73°-W N-160°-W N-110°-E	クランク状	(1096)	0.21~1.44	0.08~0.29	19~97	U字状	外傾	自然	土層質土器、灰質土器、陶器、磁器、金属製品	SD184→本跡 →SK7415、 SD620
520	D8e1-D7跡	N-77°-W N-170°-W N-114°-E	クランク状	(1186)	0.32~1.84	0.10~0.68	5~56	浅いU字状	傾斜	自然	土層質土器、陶器、瓦石器	SI3189、SK7472、 SD138→本跡

6 その他の遺構と遺物

今回の調査で時期が明らかでない土坑104基、溝跡1条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

時期や性格が明確でない土坑に関して、規模・形状等を実測図(第72~77図)と土層解説及び一覧表で掲載する。

第7410号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量

第7411号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 4 黒褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量

第7412号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量

第7413号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 6 濃い黄褐色 ロームブロック中量
- 7 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 8 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 10 褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック・炭化物少量
- 11 暗褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量
- 12 黒色 焼土ブロック・ローム粒子少量
- 13 濃い黄褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化物少量
- 14 黒褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック少量
- 15 濃い黄褐色 ロームブロック多量
- 16 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量
- 17 暗褐色 ローム粒子多量

第7415号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第7416号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第7417号土坑土層解説

- 1 濃い黄褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

第7418号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、粘土ブロック少量

第7419号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量

第7420号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第7421号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック多量

第7422号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第7423号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量

第7424号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック中量

第7425号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量

第7426号土坑土層解説

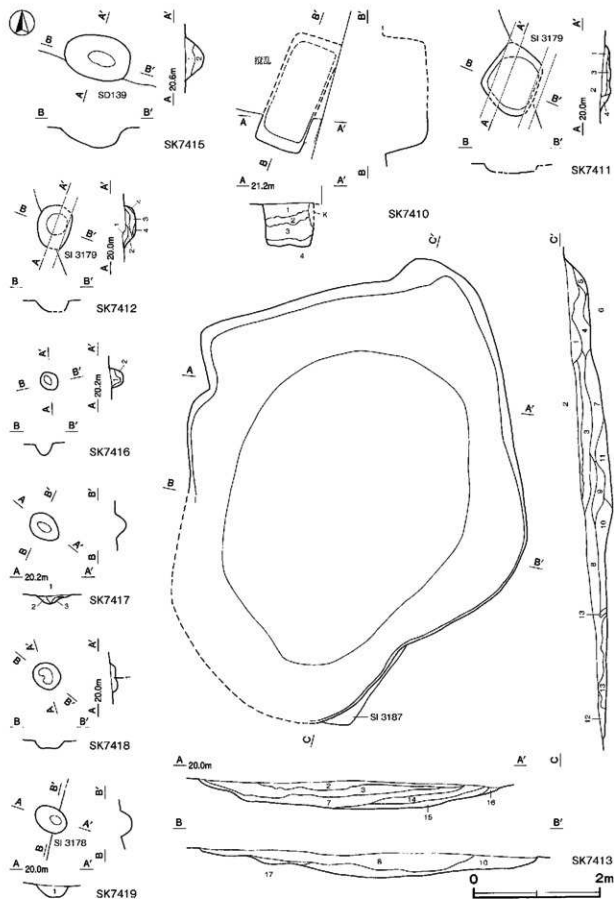
- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック少量

第7427号土坑土層解説

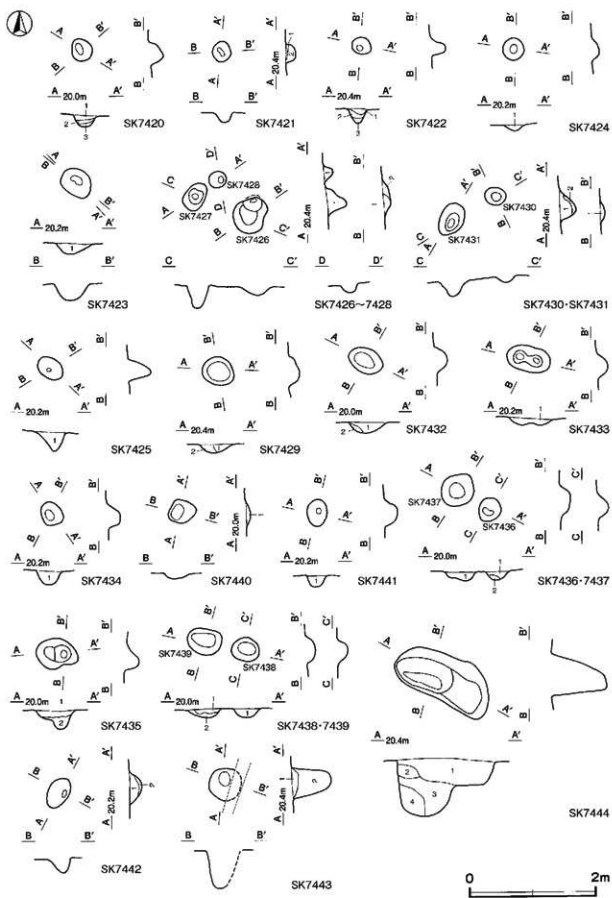
- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量

第7428号土坑土層解説

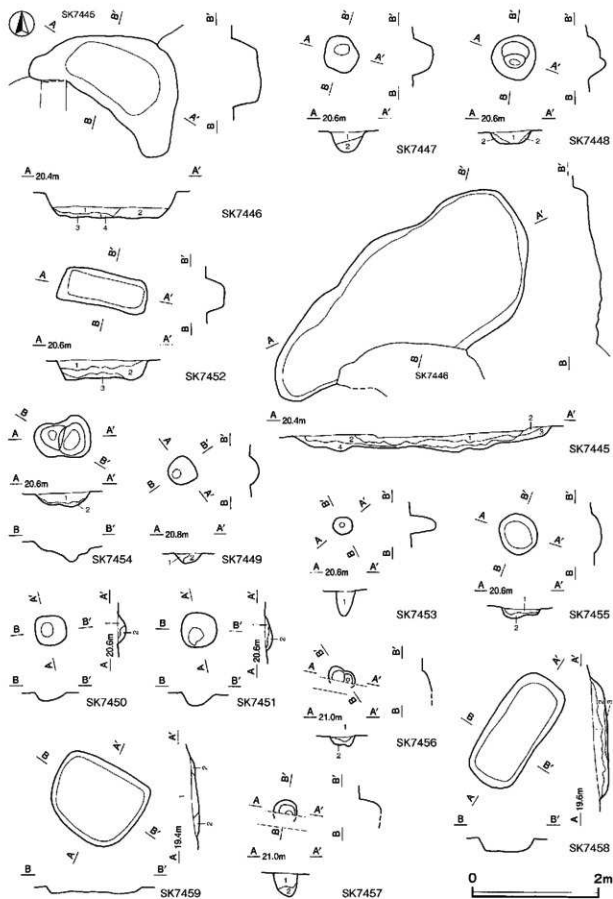
- 1 黒褐色 ローム粒子多量



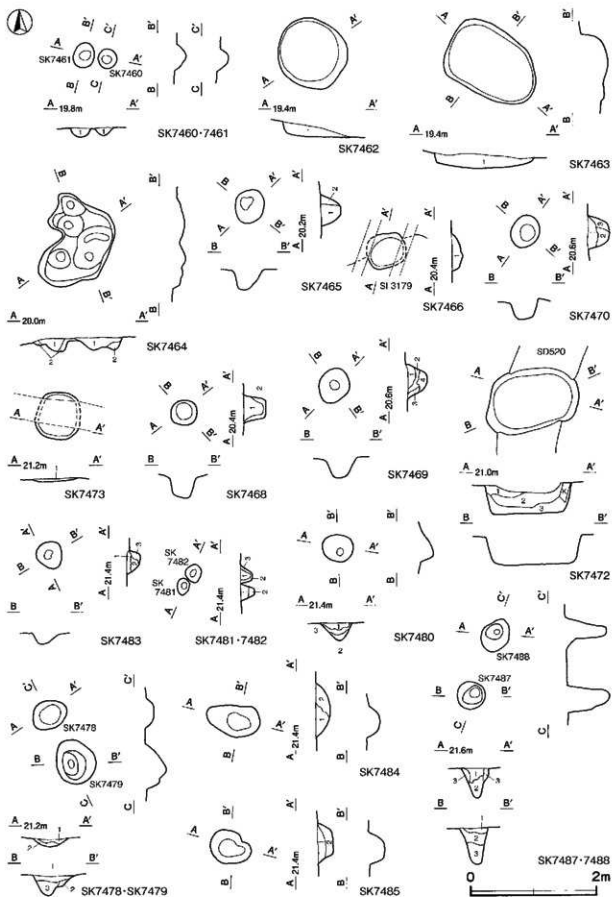
第72図 その他の土坑実測図(1)



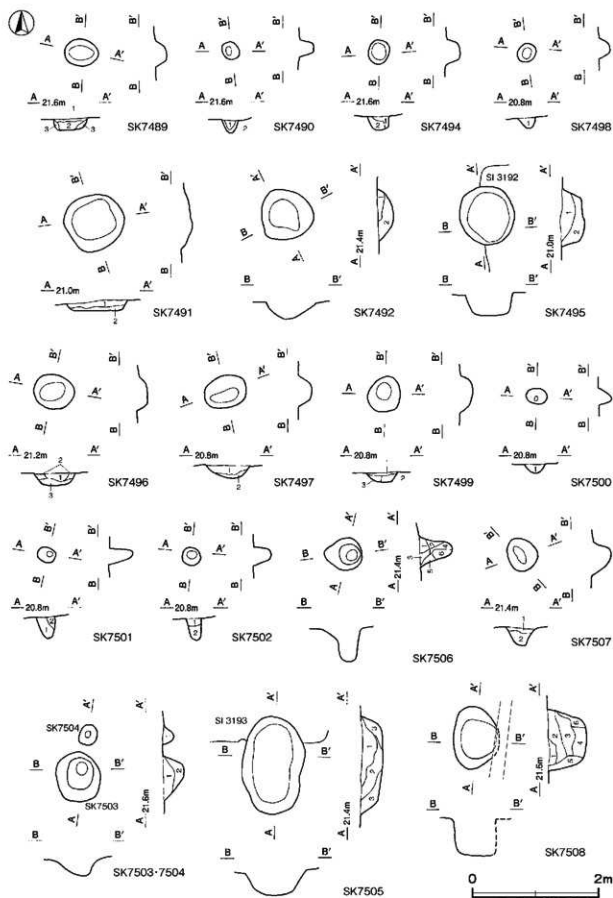
第73図 その他の土坑実測図(2)



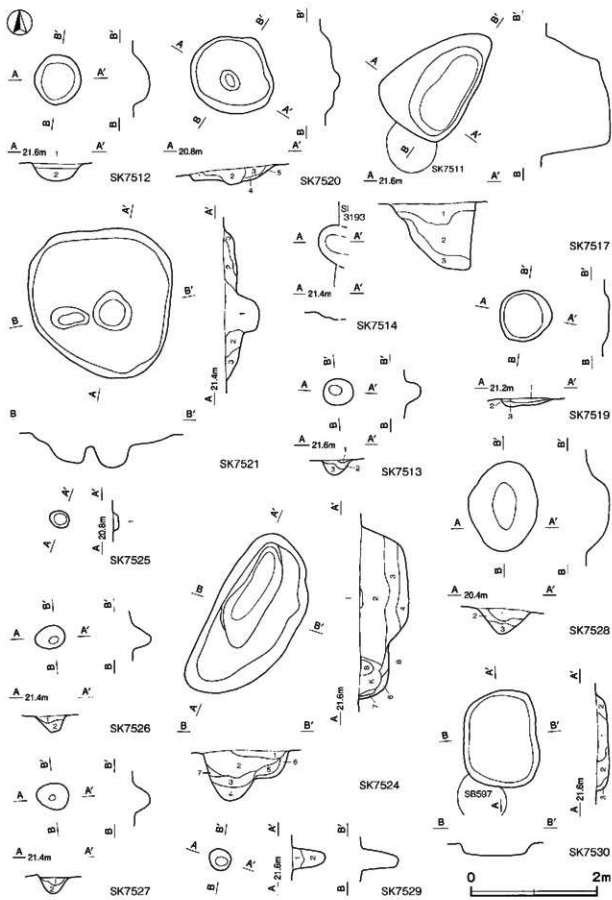
第74図 その他の土坑実測図(3)



第75図 その他の土坑実測図(4)



第76図 その他の土坑実測図(5)



第77図 その他の土坑実測図(6)

第 7429 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 7430 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量

第 7431 号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第 7432 号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

第 7433 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量

第 7434 号土壌層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量

第 7435 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第 7436 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 7437 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

第 7438 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量

第 7439 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 7440 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

第 7441 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第 7442 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第 7443 号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック中量

第 7444 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、炭化物中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック多量

第 7445 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化物少量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第 7446 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量

- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第 7447 号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第 7448 号土壌層解説

- 1 濃い黄褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 7449 号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第 7450 号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物少量

第 7451 号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量

第 7452 号土壌層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第 7453 号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 7454 号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 7455 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第 7456 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第 7457 号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 7458 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第 7459 号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 7460 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第 7461 号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

第 7462 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第 7463 号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量

第 7464 号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 7465 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第 7466 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

第 7468 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第 7469 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量

第 7470 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第 7472 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第 7473 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子多量、焼土ブロック少量

第 7478 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 に近い黄褐色 ロームブロック多量

第 7479 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第 7480 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第 7481 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 7482 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量

第 7483 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 2 に近い黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第 7484 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第 7485 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 7487 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量

第 7488 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

第 7489 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第 7490 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第 7491 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第 7492 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子少量

第 7494 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第 7495 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

第 7496 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第 7497 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第 7498 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

第 7499 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量

第 7500 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第 7501 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子中量

第 7502 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量

第 7503 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量

第 7504 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第 7505 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量

第 7506 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子中量
- 4 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 褐 色 ロームブロック・炭化粒子多量
- 6 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第 7507 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 2 暗 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子中量

第 7508 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 6 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第 7512 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子中量

第 7513 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子中量

第 7517 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック多量

第 7519 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子中量

第 7520 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 黒 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 5 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第 7521 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 3 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子中量

第 7524 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子中量、焼土粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子中量
- 4 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子・粘土粒子少量
- 5 褐 色 粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 7 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 8 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

第 7525 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

第 7526 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子少量

第 7527 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子中量

第 7528 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 3 黒 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第 7529 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子・焼土粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量

第 7530 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック多量
- 2 暗 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

表 8 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	傾 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
740	E 7 a9	N-20'-E	[隅丸長方形]	[1.87] × [0.77]	(69)	(平坦)	(直立)	人為		
741	E 7 f4	N-38'-E	[長方形]	0.98 × [0.86]	18	平坦	外傾	人為	土師器	SI379 → 本跡
742	E 7 e4	N-7'-E	楕円形	[0.70] × 0.52	20	平坦	外傾 緩斜	人為		SI379・3188 → 本跡
743	E 7 d1	N-21'-E	不整楕円形	7.66 × 5.74	48	凹状	緩斜	人為	縄文土器、土師器、陶器、磁器、土製品、鏝	SI387 → 本跡
745	E 7 b4	N-70'-W	楕円形	1.07 × 0.71	31	凹状	緩斜	自然		SI379 → 本跡
746	E 7 d3	N-43'-W	楕円形	0.31 × 0.26	29	凹状	緩斜	自然		
747	E 7 d3	N-52'-W	楕円形	0.55 × 0.39	16	凹状	緩斜	人為		
748	E 7 e3	N-50'-W	楕円形	0.45 × 0.29	13	凹状	緩斜	自然		
749	E 7 e3	N-61'-W	楕円形	0.53 × 0.40	16	凹状	緩斜	自然		SI378 → 本跡
7420	E 7 e3	-	円形	0.38 × 0.35	20	凹状	外傾 緩斜	自然		
7421	E 7 e2	-	円形	0.30 × 0.30	16	凹状	緩斜	自然		

番号	位置	N-長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
7422	E 7 c2	N-67°-W	精円形	0.31 × 0.27	23	皿状	外傾	自然	土師器	
7423	E 7 c1	N-30°-W	精円形	0.53 × 0.43	26	皿状	外傾	自然		
7424	E 7 c1	-	円形	0.35 × 0.34	12	皿状	縦斜	自然		
7425	E 7 c1	N-50°-W	精円形	0.45 × 0.31	34	皿状	ほぼ直立	自然	土師器	
7426	E 6 b0	-	不整円形	0.55 × 0.53	12	皿状	縦斜	自然	土師器、須恵器	
7427	E 6 b0	N-33°-E	精円形	0.48 × 0.34	35	皿状	外傾	自然	土師器、陶器	
7428	E 6 b0	-	円形	0.29 × 0.27	13	皿状	縦斜	自然		
7429	E 6 b0	N-66°-W	精円形	0.53 × 0.45	17	皿状	縦斜	自然		
7430	E 6 b0	N-73°-W	精円形	0.32 × 0.29	8	皿状	縦斜	自然		
7431	E 6 b0	N-27°-E	精円形	0.53 × 0.38	25	皿状	縦斜	自然		
7432	E 6 c0	N-63°-W	精円形	0.58 × 0.40	18	皿状	外傾	自然	土師器	
7433	E 6 b0	N-74°-W	精円形	0.68 × 0.41	16	皿状	縦斜	自然		
7434	E 6 b0	N-16°-W	精円形	0.39 × 0.31	20	皿状	外傾 縦斜	自然	土師器	
7435	E 6 c0	N-77°-W	精円形	0.70 × 0.50	29	有段	外傾	自然	土師器	
7436	E 6 c0	N-40°-E	精円形	0.41 × 0.36	16	皿状	外傾	自然		
7437	E 6 c0	N-37°-E	精円形	0.57 × 0.52	18	凹凸	縦斜	自然	土師器	
7438	E 6 b0	N-76°-W	精円形	0.43 × 0.38	16	皿状	縦斜	自然	土師器、須恵器	
7439	E 6 b0	N-76°-W	精円形	0.53 × 0.41	14	皿状	縦斜	自然	土師器	
7440	E 6 b0	N-67°-W	方形	0.39 × 0.37	8	皿状	縦斜	自然	土師器	
7441	E 6 b0	N-9°-E	精円形	0.44 × 0.32	22	皿状	縦斜	自然		
7442	E 6 b0	N-31°-E	精円形	0.52 × 0.33	23	皿状	外傾	自然		
7443	E 7 c7	-	[円形]	[0.40] × 0.38	58	皿状	ほぼ直立	自然	土師器、須恵器	
7444	E 7 c1	N-65°-W	不整精円形	1.60 × 0.76	87	有段	直立	人為		
7445	E 7 b1	N-53°-E	不整精円形	4.70 × 2.25	31	凹凸	直立	自然		本跡→SK7446
7446	E 7 b1	N-57°-W	不整精円形	2.31 × 1.02	43	平皿	外傾	人為		SK7445→本跡
7447	E 7 a2	-	円形	0.56 × 0.51	30	皿状	外傾	自然		
7448	E 7 a2	-	円形	0.67 × 0.67	25	有段	縦斜	自然		
7449	E 7 a3	-	円形	0.48 × 0.46	15	皿状	縦斜	自然		
7450	E 7 a3	-	円形	0.50 × 0.48	12	皿状	縦斜	自然		
7451	E 7 a3	-	円形	0.55 × 0.53	19	皿状	縦斜	自然	土師器	
7452	E 7 a1	N-80°-W	隅丸長方形	1.49 × 0.55	28	平皿	外傾	人為	土師器	
7453	E 7 b3	-	円形	0.29 × 0.28	40	皿状	ほぼ直立	自然		
7454	E 7 b5	N-73°-W	不整精円形	0.91 × 0.69	23	凹凸	外傾	自然	土師器、須恵器	
7455	E 7 c5	N-21°-W	精円形	0.66 × 0.55	13	皿状	縦斜	自然		
7456	E 7 a6	N-78°-W	不定形	0.43 × (0.23)	16	皿状	皿状	自然	土師器、須恵器	
7457	E 7 a7	N-81°-W	[円形・精円形]	0.37 × (0.22)	34	皿状	ほぼ直立	自然	土師器	
7458	E 7 f3	N-32°-E	長方形	1.94 × 0.89	21	平皿	外傾	人為		
7459	E 7 g4	N-63°-W	精円形	1.50 × 1.27	10	平皿	外傾 縦斜	自然		
7460	E 6 d0	-	円形	0.34 × 0.31	13	皿状	縦斜	自然		
7461	E 6 d0	N-16°-E	精円形	0.41 × 0.33	15	皿状	縦斜	自然	土師器	
7462	E 7 g0	-	円形	1.18 × 1.08	24	平皿	ほぼ直立	自然		
7463	E 7 f2	N-61°-W	精円形	1.53 × 1.06	42	皿状	ほぼ直立 外傾	自然	土師器	
7464	E 6 c0	N-40°-E	不定形	1.46 × 1.12	20	凹凸	ほぼ直立	自然	土師器、須恵器	
7465	E 7 c1	N-30°-E	精円形	0.57 × 0.50	32	皿状	外傾	人為	土師器	
7466	E 7 c5	N-76°-E	[精円形]	[0.62] × 0.54	16	皿状	縦斜	自然		SK179→本跡
7468	D 6 e6	-	円形	0.42 × 0.39	35	平皿	ほぼ直立	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
7469	D 6 06	N-17°-E	楕円形	0.56 × 0.48	30	平坦	外堀	自然		
7470	D 6 07	N-24°-E	楕円形	0.54 × 0.45	34	平坦	外堀	人為		
7472	D 6 08	N-74°-E	[楕円形]	1.54 × (0.98)	47	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	本跡→SD520
7473	D 6 09	-	円形	0.76 × 0.70	4	平坦	緩斜	自然	土師器、須恵器、陶器	
7478	C 6 10	N-57°-E	楕円形	0.60 × 0.46	15	凹状	緩斜	自然		
7479	C 6 10	N-32°-W	楕円形	0.72 × 0.64	33	有段	外堀 緩斜	自然	須恵器	
7480	C 7 11	N-32°-W	楕円形	0.51 × 0.42	28	凹状	外堀 緩斜	自然		
7481	C 6 10	N-6°-E	楕円形	0.26 × 0.18	22	凹状	外堀	自然		
7482	C 6 10	-	円形	0.28 × 0.26	20	凹状	外堀	自然		
7483	C 6 10	-	円形	0.44 × 0.42	17	凹状	外堀 緩斜	人為		
7484	C 6 10	N-76°-W	楕円形	0.84 × 0.50	22	凹状	外堀 緩斜	自然		
7485	C 6 10	N-65°-W	楕円形	0.65 × 0.52	25	平坦	外堀	自然		
7487	D 7 03	-	円形	0.43 × 0.42	66	U字状	ほぼ直立	自然		
7488	C 7 13	N-19°-E	楕円形	0.55 × 0.43	65	U字状	ほぼ直立	人為		
7489	C 7 13	N-79°-W	楕円形	0.53 × 0.43	18	凹状	緩斜	人為		
7490	C 7 13	N-61°-W	楕円形	0.31 × 0.25	22	凹状	ほぼ直立	人為		
7491	C 6 18	-	円形	0.93 × 0.88	15	平坦	緩斜	自然		
7492	C 7 01	-	円形	0.84 × 0.83	26	凹状	緩斜	自然	土師器	
7494	C 7 13	-	円形	0.38 × 0.35	20	平坦	ほぼ直立 外堀	自然		
7495	C 6 08	-	円形	0.92 × 0.90	34	平坦	ほぼ直立	自然	土師器、須恵器	SI392→本跡
7496	C 6 19	N-69°-W	楕円形	0.63 × 0.52	15	凹状	緩斜	自然		
7497	C 6 10	N-70°-E	楕円形	0.69 × 0.50	19	凹状	緩斜	自然		
7498	C 6 19	N-42°-E	楕円形	0.31 × 0.27	15	凹状	緩斜	自然		
7499	C 6 19	N-0°	楕円形	0.55 × 0.50	19	凹状	緩斜	人為		
7500	C 6 09	N-90°	楕円形	0.35 × 0.24	23	凹状	緩斜	自然		
7501	C 6 09	N-74°-W	楕円形	0.29 × 0.25	35	凹状	ほぼ直立 外堀	自然		
7502	C 6 10	-	円形	0.30 × 0.28	35	凹状	ほぼ直立	自然		
7503	C 7 13	N-7°-W	楕円形	0.79 × 0.69	25	凹状	緩斜	自然		
7504	C 7 13	N-8°-E	楕円形	0.33 × 0.29	15	凹状	緩斜	自然		
7505	C 7 12	N-3°-W	楕円形	1.54 × 0.98	39	平坦	外堀	自然	土師器	SI393→本跡
7506	C 6 10	N-82°-E	楕円形	0.58 × 0.50	54	平坦	ほぼ直立	自然		
7507	C 7 11	N-39°-W	楕円形	0.52 × 0.46	29	凹状	外堀	自然		
7508	C 7 05	N-0°	楕円形	0.98 × [0.73]	59	平坦	ほぼ直立	人為		
7512	C 7 05	-	円形	0.78 × 0.73	27	凹状	外堀 緩斜	自然	土師器	
7513	C 7 12	N-88°-E	楕円形	0.48 × 0.41	24	凹状	外堀	自然	土師器	
7514	C 7 11	-	[円形・楕円形]	(0.60) × (0.34)	14	凹状	緩斜	不明		SI393→本跡
7517	C 7 02	N-49°-E	不整楕円形	2.00 × 1.36	108	平坦	外堀	自然	土師器、須恵器	SK7511→本跡
7519	C 6 19	-	円形	0.83 × 0.81	8	平坦	緩斜	自然	土師器	
7520	C 6 07	-	円形	1.38 × 1.28	25	円凸	緩斜	人為		
7521	C 7 11	N-62°-W	不整楕円形	2.60 × 2.36	54	円凸	外堀	自然	土師器	
7524	C 7 12	N-32°-E	楕円形	2.79 × 1.36	80	有段	外堀	人為		
7525	C 7 02	N-55°-W	楕円形	0.33 × 0.25	8	平坦	緩斜	自然		本跡→SI3162
7526	C 7 11	N-90°	楕円形	0.49 × 0.38	29	凹状	ほぼ直立	自然		
7527	C 7 11	N-75°-W	楕円形	0.50 × 0.43	26	凹状	緩斜	自然		
7528	D 6 06	N-0°	楕円形	1.43 × 1.10	35	平坦	緩斜	自然		
7529	C 7 03	-	円形	0.36 × 0.35	60	凹状	ほぼ直立	自然		
7530	C 7 04	N-0°	楕円形	1.54 × 1.19	19	平坦	外堀	自然	土師器	SI697→本跡

(2) 溝跡

第589号溝跡 (第78図)

位置 14区南西部のD7j7区～E7d8区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 D7j7区から南方向(N-192°-E)に直線的に伸び、E7c6区から東方向(N-114°-E)に直角に屈曲しE7d8区まで直線的に伸びている。規模は、上幅0.44～1.44m、下幅0.11～0.70m、深さ5～21cmである。断面は浅いU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

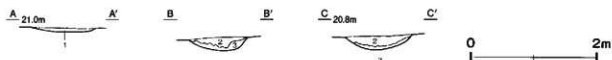
覆土 3層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック・炭化粒子微量 3 褐色 ローム粒子多量
2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片6点(坏1、甕5)、須恵器片1点(甕)が出土している。

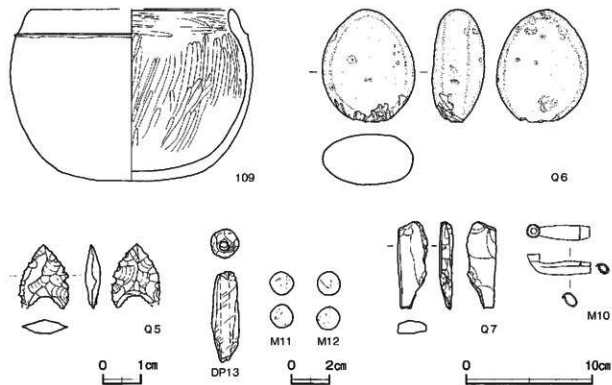
所見 時期は、特定できる土器が出土していないことから不明である。地境の溝と考えられるが、詳細は不明である。



第78図 第589号溝跡実測図

(3) 遺構外出土遺物 (第79図)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表で掲載する。



第79図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
109	土師器	輪	[159]	137	-	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面ナデ 内面へう巻き	SD139 覆土中	40% PL17
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
DP13	管状土師	1.5	4.8	0.5	8.5	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ。一方向からの穿孔		表土	PL22
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q 5	鉄	1.7	1.3	0.4	(06)	黒曜石	両面押圧剥離 凹基無茶鏝		表土	PL21	
Q 6	磨石	8.9	7.3	4.1	321.1	安山岩	全面研磨痕 端部に敲打痕		表土	PL21	
Q 7	割片	6.9	2.4	1.1	168	緑質頁岩	縦長割片		表土		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
M10	埴習	(50)	1.2	1.6	(64)	銅	壺首部 火焔径10cm		SK7413 覆土中	PL22	
番号	器種	径	重量	材質	特徴		出土位置	備考			
M11	鉛玉	1.2	10.5	鉛	表面灰白色 火焼痕の弾*		SK179 覆土中				
M12	鉛玉	1.2	10.1	鉛	表面灰白色 火焼痕の弾*		SK180 覆土中				

第4節 ま と め

1 はじめに

鳥名熊の山遺跡は、平成7年度から調査が実施され、これまでに『茨城県教育財団文化財調査報告』第120・133・149・166・174・190・214・236・264・280・291・322・328・360・380・389・390・403集において報告されている。今回の報告分までの総調査面積は260.191㎡で、県内における最大規模の調査事例である。遺構は、堅穴建物跡2517棟、掘立柱建物跡415棟をはじめ、陥し穴6基、古墳2基、方形堅穴遺構108基、地下式坑81基、堀跡・溝跡385条、道路跡32条、井戸跡231基、大型堅穴遺構8基、火葬施設37基、墓坑77基、水田跡2か所、遺物包含層4か所などにのぼっている。当遺跡は、4世紀から11世紀にかけての集落跡が中心であり、律令期には「河内郡嶋名郷」の拠点集落として機能していた。中世以降も堀や溝による区画や墓域、水田跡などが確認されており、連続と集落が営まれてきたことがうかがえる。

今回、整理を行った調査区域は遺跡北部の14区西部から南西部の範囲で、標高19～22mの台地平坦部から縁辺の斜面部にかけて位置している。調査面積は4,457㎡で、確認した遺構は、堅穴建物跡23棟、掘立柱建物跡1棟、井戸跡2基、土坑116基、火葬施設1基、溝跡3条、遺物包含層1か所である。14区については、これまでに『第280集』、『第390集』において報告がなされている。以下において、時期区分は、これまでの成果との整合性を保つために、『第190集』に準拠する¹⁾。また、遺跡内の建物跡群の空間区分は『第291集』におけるA～F群の6群の区分に基づき考察を行うものとする²⁾。

2 14区の概要

今回の調査で、14区の南で東西に延びていた谷は、調査区の西を北に向かって入り込んでいることが明らかとなった。その谷に向かう緩やかな斜面部に、各時代の生活の痕跡が確認された。建物跡群の空間区分では、A群の西部から南西部に位置づけられる³⁾。以下において、今回報告分の集落の様相を各時代ごとに概観する。

(1) 古墳時代(第80図)

当時代の遺構は、堅穴建物跡11棟と掘立柱建物跡1棟を確認した。その内、時期が明かな堅穴建物跡9棟と掘立柱建物跡1棟について、各時期ごと(第4～6期)の変遷を記述する。なお、時期を明確にできなかった第2434号堅穴建物跡は古墳時代後期、第3181号堅穴建物跡は7世紀代と考えられる。

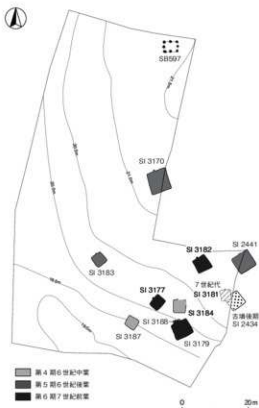
第4期(6世紀中葉)

堅穴建物跡2棟(第3184・3187号堅穴建物跡)が該当する。南西部の標高19～20mの斜面部に構築されていた。14区の当該期の堅穴建物跡は、台地上の平坦部で4棟確認されており、今回の調査で集落が斜面部まで広がっていたことが確認できた。

第5期(6世紀後葉)

堅穴建物跡4棟(第2441・3170・3183・3188号堅穴建物跡)が該当する。当期の集落も台地の平坦部を中心に展開されているが、谷に沿った斜面に当期の堅穴建物跡が建てられていることが確認できた。

第3183号堅穴建物跡からは、TK209型式に比定される須恵器の脚付長頸蓋の脚部が出土している。遺物が壺の周辺に遺棄された状態で多数出土しており、特に壁際に甕を載せた甕が正位で出土している状況からは、当時の煮沸具の保管状況をうかがい知ることができる。



第80図 14区 古墳時代堅穴建物変遷図

第6期（7世紀前葉）

堅穴建物跡3棟（第3177・3179・3182号堅穴建物跡）と掘立柱建物跡1棟（第597号掘立柱建物跡）が該当する。堅穴建物跡3棟は、南部の緩やかな斜面部で確認された。当期の堅穴建物は、調査区内ではほぼ等間隔に位置し、集落が展開されている。古墳時代の堅穴建物跡の確認数は、これまでの調査で指摘されている第4期に増加し、第5期、第6期でも引き続き集落域が拡大するという傾向と合致する。

また、古墳時代の掘立柱建物跡は、これまでの調査で14区では確認されていない。同じA群である13区で、第5期の第548号掘立柱建物跡が確認されているのみである。今回報告分の第597号掘立柱建物跡は、調査区の西部に位置している。同時期の遺構である第3160号堅穴建物跡（平成24年度調査）が当遺構の15mほど北に位置し、主軸線が同様であることから、関連が想定される。

(2) 奈良時代（第81図）

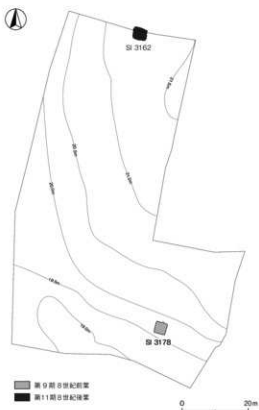
当時代の遺構は、堅穴建物跡2棟（第3162・3178号堅穴建物跡）を確認した。これまでの調査で、第7・8期に減少傾向にあった堅穴建物跡が再び増加傾向を見せることが指摘されているが、今回の調査で確認されたのは、第9期と第11期のそれぞれ1棟ずつであった。しかし、当調査区においては掘立柱建物跡4棟が、東部と南東部の平坦部で確認されている。

第9期（8世紀前葉）

第3178号堅穴建物跡が該当し、南西部の斜面部に位置している。当期の堅穴建物跡は14区全体では中央部の平坦部に3棟、南東部の斜面部で1棟が確認されている。

第11期（8世紀後葉）

第3162号堅穴建物跡が該当し、西部の平坦な台地上に位置している。当遺構は、一部が平成24年度に調査され、『第390集』において9世紀中葉の遺構として報告されている。しかし、今回の調査において残された大部分を調査し、出土遺物から当遺構の時期を8世紀後葉へと変更した。この堅穴建物跡は、北東口



第81図 14区 奈良時代堅穴建物変遷図

ーナー部に竈を有している点が特筆される。コーナーに竈を有している堅穴建物跡は、14区では初出であり、13区を含めたA群では6例目となる。当期に属するのは13区の第2180号堅穴建物跡であり、北壁中央部に付設していた竈を北西コーナー部に作り替えている。コーナー部に竈を有する堅穴建物跡からは、灯明用器と考えられる油煙の付着した土器や鉄鉢形土器などが出土しており、仏教関連施設との関連が指摘されている⁴⁾。今回出土した遺物から、堅穴建物跡の性格を明確に述べることはできないが、当期の集落の中で1棟のみ離れた場所に立地しており、建物内の空間構造も異なることから、特異な存在の堅穴建物であったことが想定できる。

(3) 平安時代 (第82図)

当時代の遺構は、堅穴建物跡10棟、井戸跡2基、土坑12基、遺物包含層1か所を確認した。その内、時期が明かな堅穴建物跡9棟について、各時期(第12～14期)ごとの変遷を以下において記述する。時期は明確に出来なかったが、第3189号堅穴建物跡は9世紀代と考えられる。

第13期(9世紀中葉)

堅穴建物跡6棟(第3171・3180・3185・3186・3191・3192号堅穴建物跡)が該当する。当遺跡の最盛期にあたる。今回報告分においては、遺跡全体で、遺構が多数確認されている第12期の遺構が確認できなかった。当期の6棟は、台地上から谷に向かう斜面部で確認できた。6棟の内、第3186号堅穴建物跡を除く5棟から金属製品(刀子、鎌、釘)が出土している。『第291集』において、当集落の金属製品の保有率が分析されており、当該期は全体で50.4%、A群では68.2%の保有率で、最も保有率の高い時期である⁵⁾。今回の調査でも、当該期の金属製品の保有率の高さが裏付けられたことになる。また、第3180・3186号堅穴建物跡からは灰釉陶器の長頸瓶と椀が出土し、有力者層の存在を想定させる。

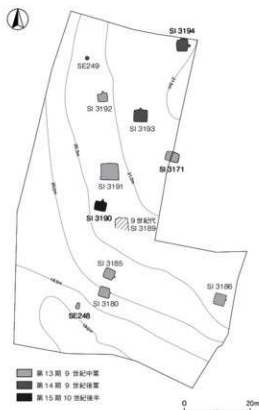
第14期(9世紀後半)

堅穴建物跡2棟(第3193・3194号堅穴建物跡)が該当する。西部の平坦な台地上、やや中央部寄りで確認されている。前期と同様に当遺跡の最盛期である。この2棟から出土した土器器坪には墨書による「石」という文字がともに確認されている。そこから、同一文字を共有する集団の存在が想起される。

また、第3194号堅穴建物跡からは「城内丕」と墨書された土器器坪とともに、灰釉陶器椀や腰帯具の巡方が出土している。これらは、14区ばかりかA群においても、出土例の少ない遺物である。有力者層の存在がうかがえるとともに、集落内における集団関係を再構成する必要のある遺物である。これらのことについては、後述する。

第15期(10世紀前半)

第3190号堅穴建物跡が該当する。西部の斜面部に位置している。当期には、当遺跡の堅穴建



第82図 14区 平安時代堅穴建物変遷図

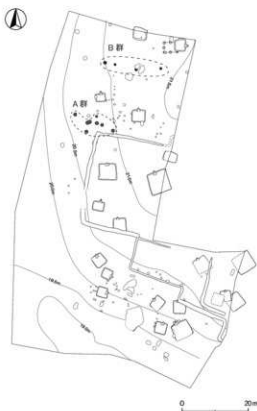
物跡が減少し始める時期である。これまでの調査で、14区での当該期の堅穴建物を確認されていない。A群では、13区で堅穴建物跡4棟と掘立柱建物跡1棟が報告されている。

第3190号堅穴建物跡は、長軸3.54m、短軸2.80mと小形化し、竈の煙道部の掘り込みが92cmと長くなる傾向がみられ、これまで確認されている当期の堅穴建物の特徴を示している。

上記の堅穴建物跡以外に、平安時代の遺構としては、井戸跡2基、土坑12基、遺物包含層1か所が確認された。井戸跡2基（第248・249号井戸跡）は、谷に沿った斜面部に掘られており、水の確保が容易な所で掘削されたと考えられる。位置的に、第248号井戸跡は第3180・3185号堅穴建物跡と、第249号井戸跡は第3193・3194号堅穴建物跡との関連が想定できる。また、今回の報告分で平安時代の土坑とした12基は、径1mほどの円形及び楕円形で、深さが15～50cmのものである。これに類似した平安時代の円形土坑について鶴間正昭氏は、古代の多摩丘陵の開発を特徴付ける遺構として取り上げている⁶⁾。鶴間氏が捉えた円形土坑の特徴について、次のようにまとめることができる。

- ・平面形は概ね円形を呈し、径は1m前後のものが多い。
- ・深さは20～30cmほどのもので、底面が平坦なものが大半を占める。
- ・堆積状況は自然堆積で、使用終了後に開口していたとみられる。
- ・遺物の出土はほとんど見られない。
- ・分布に規則性をもっていたことがうかがわれ、地形との密接な関連が想起される。

円形土坑の性格については、貯蔵穴説、墓坑説、放牧のえさ入れ説などがあるが、貯蔵穴の可能性が趨勢を占めている。鶴間氏は円形土坑の科学分析や堆積状況、分布状況から畑作と関連した貯蔵施設と想定している。神奈川県秦野市の神成松遺跡では円形土坑54基と畝状遺構が⁷⁾、同じく渋沢奈良郷遺跡では円形土坑15基と鋤跡のくはみが多数認められる耕作跡が確認されており⁸⁾、畑作との関連を裏付けるものとなっている。



第83図 14区 平安時代土坑位置図

そこで、当遺跡の円形土坑であるが、大きくA群（第7471・7474・7475・7476・7477・7486・7493・7518号土坑）とB群（第7510・7511・7515・7516号土坑）の2群に分けることができる。これら2群とも、堅穴建物のない部分に掘削されていることがわかる。なお、周辺に同様の平面形の土坑も数基確認できたが、深さが浅く判断が困難なものは除外した。時期は、出土遺物と形状から9世紀代と考えられる。

ここで特筆したいことは、1基を除いて底面に薄く黒色土の堆積が確認されたことである。有機物が腐朽し堆積したと考えられる。覆土は自然堆積で、開口していたと想定され、この黒色土との関連から考えると土坑の底面に有機物が敷かれていたか、もしくは上面に有機物が蓋や覆いをしていたことが想定される。廃棄後、敷物や蓋が朽ちて底面に堆積した可能性が考えられる。同時期の堅穴建物跡の近くにまとまって確認されたことから、これらに伴う細地の貯蔵施設が想定

される。また、鶴岡氏は、円形土坑が谷部で集中していることを指摘している⁹⁾。今回の円形土坑も谷に向かう斜面部で確認されており、地形との関係が考えられるが、今後の検討課題としたい。

また、調査区の西を北に延びる谷に第4号遺物包含層が形成されている。各時代の遺物が出土しているが、主体となるのは当時代の9期の遺物である。これまでもこの谷を利用した交易流通が想定されており¹⁰⁾、周辺での活動の過程で遺物が混入し、遺物包含層が形成されていったと考えられる。

(4) 室町時代

当該期の遺構は、火葬施設(第7467号土坑)がこれに該当する。今回の調査では1基のみの確認であり、上面の大部分が削平されていたことから、明確でない部分が多い。しかし、『第280集』において、本跡の東側で斜面に沿って、中世の地下式坑3基、火葬施設8基、墓坑13基のほか、墓坑の可能性のある土坑が集中しており、墓域が形成されていたことが明らかとなっている¹¹⁾。本跡も、これらの遺構とともに一連の墓域を形成していたといえる。

(5) 江戸時代

溝跡2条を確認した。出土遺物から、第139号溝跡が18世紀代、第520号溝跡が18世紀前葉に埋没したものと考えられる。第139号溝跡は、『第280集』において、時期は中世以降とされ、前述した地下式坑や火葬施設、墓坑などの墓域との間に構築された区画と考えられている¹²⁾。今回の調査で、中世の遺物も散見されるが、18世紀代の遺物が多数出土したため、中世から機能し、18世紀にかけて埋没していた溝と比定した。

また、第520号溝跡も『第390集』で報告されており、前回報告と同様に区画溝と考えられる¹³⁾。また、北から南にかけて傾斜がついていることから、排水の機能も兼ね備えていたと考えられる。時期は、出土遺物から18世紀前葉に機能を終え、埋没したものと考える。

当該期の遺構は、この溝2条のみである。それぞれ区画溝であり、畑地や墓域の区画として機能していたものと思われる。

3 出土遺物の検討

当遺跡は、律令期の河内郡嶋名郷の拠点集落である。今回の調査においても、当該期の遺構が多く確認され、出土遺物から有力者の存在を想定することができる。ここでは、確認された平安時代(第13～15期)の出土遺物で、当調査区の性格を際立たせるであろう文字資料と腰帯具(巡方)を取り上げ考察する。熊の山遺跡の一端を明らかにすることで、遺跡の全体像に迫る一助としたい。

(1) 文字資料

今回の14区の調査において、文字資料として墨書土器が5点出土している。以下の表9の通りである。

表9 14区出土文字資料一覧

番号	遺物番号	取文	種別	材質	器種	部位・方向	遺構	時期	備考
1	67	「□」	墨書	須恵器	坏	体部	SE3186	9世紀中葉	
2	83	「石」	墨書	土師器	坏	体部・正位	SE3193	9世紀後葉	
3	85	「泰□」	墨書	須恵器	坏	体部	SE3193	9世紀後葉	
4	86	「石」	墨書	土師器	坏	体部・正位	SE3194	9世紀後葉	
5	87	「城内王」	墨書	土師器	坏	体部・横位	SE3194	9世紀後葉	

これまで14区では、13点の墨書や刻書などの文字資料が確認されており、13区と合わせたA群においては26点ほどである。

今回特筆される資料は、第3193・3194号竪穴建物跡から出土した墨書土器である。ともに、9世紀後葉に比定される。第3193号竪穴建物跡からは、「石」と記された土師器環と「壘□」と記された須恵器環の2点が出土している。また、第3194号竪穴建物跡からは、腰帯具の巡方とともに「城内丕」と「石」と墨書された土師器環がそれぞれ1点ずつ出土している。

まず、「石」と記された墨書土器について述べていきたい。これまで、「石」と記された墨書土器は、遺跡の南西部のE群から16点、東部のD群で1点出土している。この「石」という文字は、『第322集』において、「同一文字を共有する集団の標識文字」の可能性が指摘されている¹⁰⁾。今回、北部から出土していることで、南西部E群の集団と北部A群の集団との交流、もしくは集団の広がりを見ることができると考えられる。

次に、「城内丕」と記された墨書土器であるが、B群から1点、C群から1点、E群の土器が大量投棄された井戸跡から1点出土している。また、「城」及び「城内」「丕」の各文字が記された墨書土器は、A群で1点、B群で1点、C群で3点、D群で3点、E群で7点あり、その内前述の井戸跡からは5点、F群で2点出土している。A群では、第3194号竪穴建物跡から南東50mに位置する、平成24年度調査で9世紀中葉に比定される第3073号竪穴建物跡から「城内」「川」「田」と墨書された須恵器環が出土している。さらに、同じく平成24年度調査で第3194号竪穴建物跡と同時期の9世紀後葉に比定できる第3161号竪穴建物跡からは、「主」「合」などと墨書された土師器環が出土している。こちらも第3194号竪穴建物跡から北西に25mほどに位置しており、それぞれ関連が考えられる。そして、これまでも『第174集』『第190集』で、これらの文字に関する解釈がなされている。「城」は、遺跡中央部の第16・35号溝による区画を意識したもので、区画の内外で「城」という意識があったのではないかと推測されている。また、「丕」は「大きい」という意味を表していると考えられる。同時に、中央部に整然と配置された掘立柱建物B群との関連が想定されており、周辺から視や腰帯具、灰軸陶器の出土も多いため、豪族の居住施設に内包される官衙的機能を有した集団との関連が想定されている¹¹⁾。

さらに、「壘」はA群においては初出であるが、遺跡全体から出土しており、当遺跡を代表する文字資料である。このことも集落の広がりを示す好資料ではないかと思われる。

今回、第3194号竪穴建物跡からは、「城内丕」と「石」という異なった集団を想定させる文字資料が出土していることは興味深い。それぞれ、南西部、中央部に多く見られる文字であり、間に谷を挟んだ北部から出土していることは、集団間の交流や広がりが想定される。

(2) 腰帯具

腰帯具の出土は遺跡全体では20点で、その内巡方が8点（鉄製1、銅製6、斑襖岩製1）を占めている。A群での腰帯具の出土は2点目で、平成15・16年度の調査で銅製の巡方が1点出土している。時期は8世紀前葉から11世紀前半にかけてみられ、今回報告の巡方と同時期である9世紀後葉が4点と最も多い。当遺跡における腰帯具は、第1083号竪穴建物跡から出土した丸柄が古墳時代に系譜が求められることから、「前代から続く有力者を取り込む形での律令体制の展開」を示す資料と考えられている¹²⁾。

また、出土位置は、遺跡中央部に集中しており、C群4点、D群9点、E群4点が出土している。腰帯具が出土した遺構と隣接して、円面硯や灰軸・緑軸陶器が出土しており、有力者の存在が想定されている。これらは、前述した「城内丕」や「城内」「城」などの墨書土器の出土が多い第16・35号溝によって区画

され、整然と配置された掘立柱建物B群の周辺である。このことから、地方の末端行政にかかわる地域の有力者の存在が考えられる。

今回、第3193号竪穴建物跡で「石」「壘□」の黒書土器、第3194号竪穴建物跡で「城内丕」と「石」の黒書土器と巡方が出土したことは、集団の交流を示すとともに、これまで中央部に存在していた有力者の分布を考えることができる資料になったといえる。ただ、有力者との関連を想定できる遺構はわずかであり、「城内」「城内丕」の黒書土器が9世紀中葉の第3073号竪穴建物跡と9世紀後葉の第3194号竪穴建物跡から出土していることは、有力者の変遷を考えることも可能であり、「川」の黒書土器は谷を利用した交易流通に関わることも考えられる。

4 おわりに

今回の報告は、遺跡北部の調査区14区における平成25年度の調査内容を報告してきた。

古墳時代においては、竪穴建物跡11棟（第4期2棟、第5期4棟、第6期3棟、後期1棟、7世紀代1棟）と掘立柱建物跡1棟（第6期）が確認できた。これまでのA群における集落の広がりが、台地の平坦部から谷に向かう斜面部にも確認することができた。

また、律令期は、奈良時代に竪穴建物跡2棟（第9期・第11期）、平安時代に竪穴建物跡10棟（第13期6棟、第14期2棟、第15期1棟、9世紀代1棟）と井戸跡2基（第13期・第14期）、土坑12基、遺物包含層1か所を確認した。特に、黒書土器や腰帯具の巡方の出土から、集落内における有力者の存在が北部にも及んでいることや、集団の交流、広がりが確認できた。また、斜面部に円形土坑が12基確認でき、これらが畑作にかかわる屋外の貯蔵施設の可能性を指摘することができた。

さらに、室町時代においては墓域の縁道を、江戸時代においては区画溝を確認し、中・近世においても土地利用がなされていたことが明らかとなった。

以上のように、熊の山遺跡の北部に位置する14区の様相を明らかにすることができた。

註

- 1) 福田義弘「熊の山遺跡 鳥名・福田坪一帯型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月
- 2) 齋藤真弥・酒井雄一・渡邊浩実・松本直人・齋藤貴史・清水智「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一帯型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第291集 2008年3月
- 3) 註2に同じ
- 4) 木村光輝・駒澤悦郎・中京雄太・長洲正博「茨城県内における壁溝竪穴建物について－特異な竪穴を付設した竪穴建物の分析（1）」『埋蔵文化財部年報34 平成26年度』2015年6月
- 5) 註2に同じ
- 6) 鶴岡正昭「古代末期の丘陵地開発について－多摩丘陵の様相－」『研究論集Ⅳ』東京都埋蔵文化財センター 1986年3月
- 7) 野尻義歌他「神成松遺跡第5地点」『神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書23』2014年8月
- 8) 須和間直子他「渋沢奈良郡遺跡」『かながわ考古学財団調査報告284』2012年3月
- 9) 註6に同じ
- 10) 清水智「鳥名熊の山遺跡の集落研究のための前提作業」『埋蔵文化財部年報26 平成18年度』2007年11月
- 11) 酒井雄一・渡邊浩実・齋藤貴史・清水智「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一帯型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第280集 2007年3月
- 12) 註11に同じ
- 13) 兼子博史・坂本勝彦・田中万里子・櫻井二郎「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一帯型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第390集 2014年3月

- 14) 早川麗司「鳥名熊の山道跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XII」『茨城県教育財団文化財調査報告』第322集 2009年3月
- 15) a 藤田智也・三谷正・原信田正夫・川上直登・福田義弘「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書V 熊の山道跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第174集 2001年3月
b 註1に同じ
- 16) 註1に同じ

写 真 图 版





遺跡遠景 (南東から)



遺跡全景

PL2



遺跡遠景（北西から）



遺跡全景



第3170号竖穴建物跡



第3177号竖穴建物跡



第3183号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3183号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3183号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3183号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3184号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3187号竖穴建物跡
遺物出土状況



第597号掘立柱建物跡

PL6



第3178号竖穴建物跡



第3162号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3162号竖穴建物跡

第3180号竖穴建物跡
遺物出土狀況



第3180号竖穴建物跡
竈遺物出土狀況



第3180号竖穴建物跡



PL8



第3185号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第3185号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第3185号竖穴建物跡

第3189号竖穴建物跡



第3190号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第3190号竖穴建物跡



PL10



第3191号竖穴建物跡



第3192号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3192号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第3192号竖穴建物跡



第3193号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3193号竖穴建物跡

PL12



第3194号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3194号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3194号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3194号竖穴建物跡



第 248 号 井戸跡



第 249 号 井戸跡

PL14



第 7476 号 土 坑



第 7511 号 土 坑



第 4 号 遗 物 包 含 层
遗 物 出 土 状 况







第3183・3184・3186・3187・3194号竪穴建物跡，遺構外出土土器

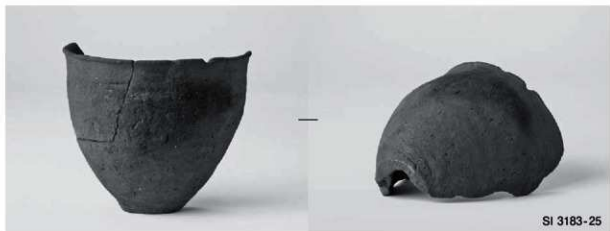
PL18



第3183・3185・3187・3194号竖穴建物跡，第4号遺物包含層出土土器



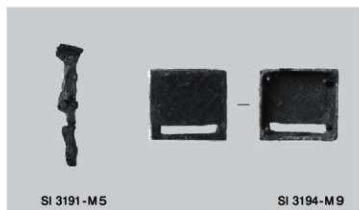
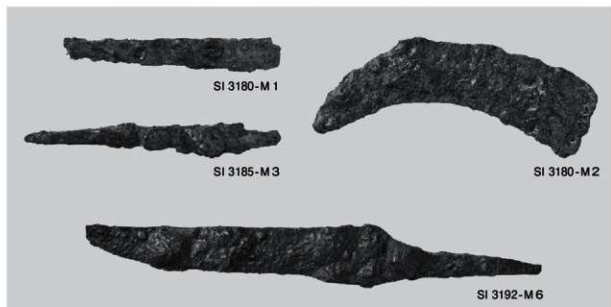
PL20



第3183号竖穴建物跡，第4号遺物包含層出土土器



第2441・3171・3184・3186・3192・3193号竪穴建物跡，第249号井戸跡，第7476号土坑，第520号溝跡，第4号遺物包含層，遺構外出土遺物



抄 録

ふりがな	しまなくまのやまいせき							
書 名	鳥名熊の山遺跡							
副 書 名	鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXII							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第 431 集							
著 者 名	奥沢哲也 大武宣隆							
編 集 機 関	公益財団法人茨城県教育財団							
所 在 地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発 行 日	2018 (平成30) 年3月16日							
ふりがな 所 取 遺 跡	ふりがな 所 在 地	コード	北 緯	東 経	標 高	調査期間	調査面積	調 査 原 因
鳥名熊の山遺跡	茨城県つくば市 鳥名字中台1,333 番地ほか	08220 - 214	36度 3分 50秒 (36度 4分 21秒)	140度 3分 36秒 (140度 03分 25秒)	19 ~ 22m	20130807 ~ 20131031 20140101 ~ 20140331	2,235 m ² 2,222 m ²	鳥名・福田坪 一体型特定土 地区画整理事 業に伴う事前 調査
所取遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
鳥名熊の山遺跡 (14区)	集落跡	古 墳	堅穴建物跡 掘立柱建物跡	11棟 1棟	土師器(坏・瓮・高坏・脚付鉢・ 甕・小形甕・瓶)、須恵器(脚 付長頸甕)、土製品(土玉・ 支脚・不明土製品)、石器(磨 石・砥石)			
	奈 良		堅穴建物跡	2棟	土師器(坏・甕・鉢・小形甕・ 瓶)、須恵器(坏・蓋)、土 製品(紡錘車)			
	平 安		堅穴建物跡 井戸跡 土 坑 遺物包含層	10棟 2基 12基 1か所	土師器(坏・高台付坏・高台 付皿・甕・小形甕・瓶)、須 恵器(坏・蓋・鉢・甕・大甕・ 瓶)、灰輪陶器(輪・長頸瓶)、 土製品(土玉・管状土錘)、 石器(砥石)、金属製品(刀子・ 鎌・釘・鋸方)			
	室 町		火葬施設	1基				
	江 戸		溝 跡	2条	土師質土器(鉢)、陶器(香炉・ 壺)、土製品(竜鈿)、石器(砥 石)			
	時期不明		土 坑 溝 跡	104基 1条	土師器(瓮)、土製品(管状 土錘)、石器(鎌・磨石)、剥 片、金属製品(煙管・鉛玉)			
要 約	総調査面積 260.191 m ² の県内最大級の集落跡で、堅穴建物跡 2,517 棟、掘立柱建物跡 415 棟を確認している。今回報告の調査区は、遺跡北部の台地上から斜面部にかけて位置しており、古墳時代後期から江戸時代の遺構が確認できた。平安時代の堅穴建物跡からは、腰帯具や黒書土器が出土し、有力者の存在が想定される。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 7 Home Premium ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS5
	図版作成	Adobe Illustrator CS5
	写真調整	Adobe Photoshop CS5
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000 図面類 RICOH imagio MP W4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS5でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第431集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

平成30（2018）年 3月15日 印刷

平成30（2018）年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 (有)川田プリント

〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53

TEL 029-253-5551



X=+7,280m
Y=+25,400m
B6a1

C6a1

D6a1

E6a1

X=+7,120m
Y=+25,400m
F6a1



付図 高名熊の山遺跡 14 区遺構全体図 (『茨城県教育財団文化財調査報告』第 431 集)

0 40m